

# かつらぎ町子どもの生活状況調査 報告書

令和6年3月  
かつらぎ町教育委員会



## 内容

第1章 調査の概要	7
【1】調査目的	8
【2】調査の設計	8
第2章 調査結果	9
【1】調査結果の概要	11
(1) 回答者の基本属性	11
①保護者（世帯の状況）	11
(2) 保護者の生活状況	15
①経済的な状況（収入状況）	15
ア) 等価世帯収入の水準	16
イ) 世帯状況別（ひとり親等）等価世帯収入の水準	18
ウ) 母親・父親の学歴の状況別等価世帯収入の水準	18
エ) 家庭での使用言語の状況別等価世帯収入の水準	20
②暮らしの状況	21
ア) 現在の暮らしの状況の認識	21
イ) 食料が買えなかった経験	22
ウ) 衣服が買えなかった経験	24
エ) 公共料金における未払いの経験	26
③就労の状況（母親・父親の就労状況）	28
ア) 父母の就労状況	28
イ) 母親の就労状況	28
ウ) 父親の就労状況	29
エ) 母親の就労状況（世帯状況別）	29
④子どもとのかかわり方	30
ア) テレビ等のルールについて	30
イ) 学校行事参加について	31
⑤相談相手	33
⑥支援制度の利用状況等	38
(3) こどもの生活状況	40
①学習や進路の状況	40
ア) 学習方法	40
イ) 学習時間	41
ウ) 学業成績	41
エ) 授業理解度	42
オ) 進学予定と理由	42
②スポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動の参加状況	43
③食事や睡眠習慣の状況	44
ア) 朝食	44
イ) 夕食	44

ウ) 夏休みや冬休みなどの休暇期間中の昼食 .....	44
エ) 睡眠習慣 .....	45
④悩み事や相談相手、生活満足度 .....	46
ア) 困っていることや悩みごとがあるとの相談相手 .....	46
イ) 生活満足度 .....	46
⑤対人関係、感情や行動 .....	47
ア) 他人に対する親切性 .....	47
イ) 身体的不調の経験 .....	47
ウ) 他者との共有行動 .....	47
エ) ひとりでいることについて .....	48
オ) 心配事・不安について .....	48
カ) 他人を助けることについて .....	48
キ) 友達関係 .....	49
ク) 情緒的な側面 .....	49
ケ) 新しい場面での反応 .....	49
コ) 年下の子どもたちに対しての態度 .....	50
サ) いじめやからかわれる経験 .....	50
シ) お手伝いをする意欲 .....	50
ス) 大人との関係 .....	51
セ) 怖がりであること .....	51
⑥各種支援の利用状況 .....	52
<b>【2】保護者の調査結果 .....</b>	<b>53</b>
1 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(あてはまるもの1つ選択) .....	54
※この調査で「お子さん」とは、調査対象となる小学5年生又は中学2年生のお子さんのことをいいます。以下同じ。 .....	54
2 あなたがお住まいの中学校の学区を教えてください。(あてはまるもの1つ選択) .....	55
3 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数(お子さんを含む。)を教えてください。単身赴任中の方は含めないでください。 .....	56
4 前問で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。(あてはまるものすべて選択) .....	57
5 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(あてはまるもの1つ選択) .....	58
6 前問で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまるもの1つ選択) .....	59
7 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(あてはまるもの1つ選択) .....	60
8 お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください。(a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つ選択) .....	61
a)母親 .....	61
b)父親 .....	62

9 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。(a、b それぞれについて、あてはまるもの1つ選択)	63
a)母親	63
b)父親	64
10 前の質問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。(a、b それぞれについて、あてはまるもの1つ選択)	65
a)母親	65
b)父親	66
11 調査対象のお子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つ選択)	67
12 調査対象のお子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つ選択)	68
13 保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a～d それぞれについて、あてはまるもの1つ選択)	69
a)テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている	69
b)お子さんに本や新聞を読むように勧めている	70
c)お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた	71
d)お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる	72
14 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(a、b それぞれについて、あてはまるもの1つ選択)	73
a)授業参観や運動会などの学校行事への参加	73
b)PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加	74
15 お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか。(あてはまるもの1つ選択)	75
16 前問で1～4と答えた場合、その理由は何ですか。(1～5については、あてはまるものすべて選択)	76
17 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。	77
(a)子育てに関する相談	77
18 前問で「1 頼れる人がいる」と答えた場合、それは誰ですか。	78
(a)子育てに関する相談	78
19 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。	79
b)重要な事柄(ことがら)の相談	79
20 前問で「1 頼れる人がいる」と答えた場合、それは誰ですか。	80
b)重要な事柄(ことがら)の相談	80
21 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。	81
c)いざという時のお金の援助	81
22 前問で「1 頼れる人がいる」と答えた場合、それは誰ですか。	82
c)いざという時のお金の援助	82
23 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまるもの1つ選択)	83
24 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つ選択)	84

25	あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの1つ選択) .....	86
26	あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(あてはまるもの1つ選択) .....	87
27	あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。(あてはまるものすべて選択) ※未払いがない場合はこの質問は回答不要です。 .....	88
28	次のa)~f)の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。(a~f それぞれについて、あてはまるもの1つ選択) .....	89
a)	神経過敏に感じた .....	89
b)	絶望的だと感じた .....	89
c)	そわそわ、落ち着かなく感じた .....	90
d)	気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた .....	90
e)	何をするのも面倒だと感じた .....	91
f)	自分は価値のない人間だと感じた .....	91
29	あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。(a~e それぞれについて、1~3のあてはまるもの1つに○) また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①~⑤のあてはまるもの1つ選択) .....	92
a	就学援助 .....	92
b	生活保護 .....	93
c	生活困窮者の自立支援相談窓口 .....	94
d	児童扶養手当 .....	95
e	母子家庭等就業・自立支援センター .....	96
<b>【3】</b>	<b>こどもの調査結果</b> .....	97
1	あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つ選択) .....	98
2	あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。 .....	99
3	あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。 .....	100
a)	学校がある日(月~金曜日) .....	100
b)	学校がない日(土・日曜日・祝日) .....	101
4	あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまるもの1つ選択) ..	102
5	あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまるもの1つ選択) .....	103
6	前の質問で「3 教科によってはわからないことがある」「4 わからないことが多い」「5 ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(あてはまるもの1つ選択) .....	104
7	あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。(あてはまるもの1つ選択) .....	105
8	前の質問で1~4と答えた場合、その理由を教えてください。(1~8については、あてはまるものすべて選択) .....	106
9	あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。 .....	107
	(※中学2年生のみの設問) .....	107

10 前の質問で「2 参加していない」と答えた人にお聞きします。参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべて選択) .....	108
(※中学2年生のみの設問) .....	108
9 あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(a~c それぞれについて、あてはまるもの1つ選択) .....	109
a) 朝食 .....	109
b) 夕食 .....	110
c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食 .....	111
10 あなたは、ふだん(月曜日~金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(あてはまるもの1つ選択) .....	112
11 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(1~9については、あてはまるものすべて選択) .....	113
12 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の数字で答えてください。(あてはまるもの1つ選択) .....	114
13 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。(a~o それぞれについて、あてはまるもの1つ選択) .....	115
a) 私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。 .....	115
b) 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。 .....	116
c) 私は、他の子どもたちと、よく分け合う(食べ物・ゲーム・ペンなど)。 .....	117
d) 私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。 ..	118
e) 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。 .....	119
f) 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。 .....	120
g) 私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。 .....	121
i) 私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたい好かれている。 .....	123
j) 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。 .....	124
k) 私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。 .....	125
l) 私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。 .....	126
m) 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする(親・先生・子どもたちなど)。 .....	127
n) 私は、他の子どもたちより、大人という方がうまくいく。 .....	128
o) 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。 .....	129
14 あなたは今までに、以下の1~8のようなことがありましたか。(あてはまるものすべて選択) .....	130
15 あなたは、次のa~dのような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いませんか。(a~d それぞれについて、あてはまるもの1つ選択) ..	131
a) (自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所(学童保育所など) ..	131
b) (自分や友人の家以外で)夕ごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など) ..	132

c) 勉強を無料でみてくれる場所.....	133
d) (家や学校以外で)何でも相談できる場所 (電話やネットの相談を含む。) .....	134
16 前の質問で、1つでも「1 利用したことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。(1～8については、あてはまるものすべて選択) .....	135

# 第1章 調査の概要

## 【1】調査目的

本アンケート調査は、子どもの生活実態や学習環境並びに保護者の支援制度の利用状況やニーズを把握し、本町の各施策や支援制度の検証を行い、子どもの貧困対策をより効果的に推進していくことを目的として、生活実態調査を実施。

## 【2】調査の設計

### (1) 調査対象

かつらぎ町立小中学校に在籍する小学校5年生、中学校2年生及びその保護者

### (2) 調査対象児童生徒数

小学校5年生児童	122人
中学校2年生生徒	102人
保護者	224人
合計	448人

### (3) 回答者数及び回答率

小学校5年生児童	114人 (93.4%)
中学校2年生生徒	92人 (90.2%)
保護者	135人 (60.3%)
合計	341人 (76.1%)

### (4) 調査時期

令和5年3月2日～令和5年3月31日

### (5) 調査方法

Microsoft Forms を利用した Web 回答方式。

### (6) その他

- 報告書中、「国」と表記があるのは「令和3年子どもの生活状況調査の分析報告書（令和3年12月内閣府政策統括官（政策調整担当）」より参照したものです。
- 報告書中の割合の合計は、四捨五入の関係で100%にならない場合があります。
- 各問集計表中、「全体比」は回答数の割合、「選択率」は回答者数の割合を示します。
- 小学校5年生児童、中学校2年生生徒の表示については、児童生徒と表示する場合があります。

## 第2章 調査結果



## 【1】調査結果の概要

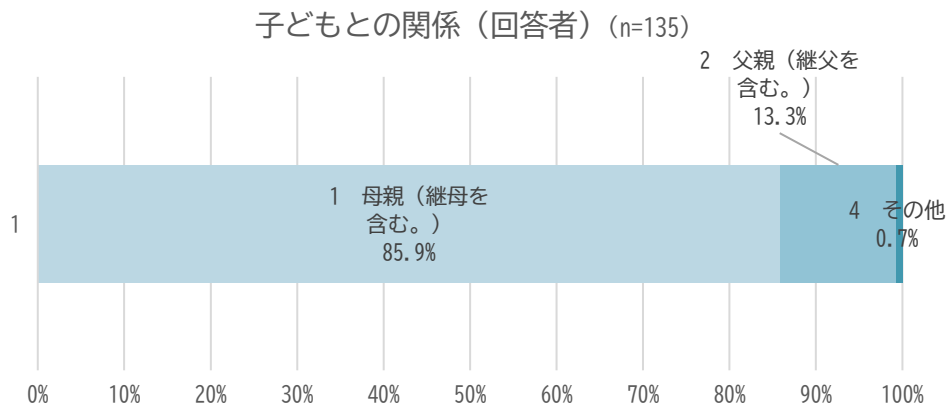
### (1) 回答者の基本属性

#### ①保護者（世帯の状況）

<b>家族構成</b> 平均 4.6 人 4 人家族 47% <P. 12>	<b>同居家族</b> 母親 87%・父親 77% 兄弟姉妹 82%・祖父母 16% <P. 12>	<b>婚姻状況</b> 婚姻 87%・離婚 11% <P. 13>
<b>使用言語</b> 日本語 96% <P. 14>	<b>教育水準</b> 母親(短大等 41%) 父親(高校 32%/大学 29%) <P. 14>	

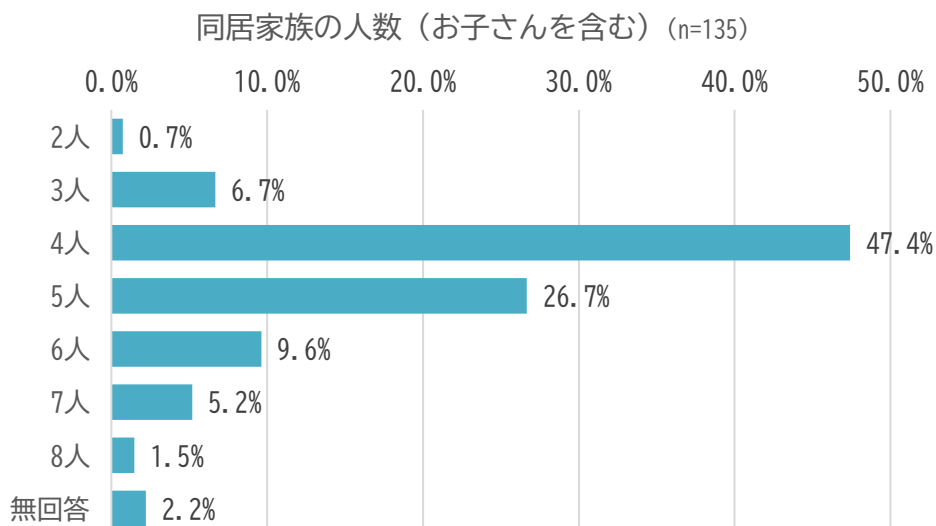
#### ア) 子どもとの関係（回答者）

回答者の大部分は母親（継母を含む）で、全体の 85.9%を占めています。父親（継父を含む）は全体の 13.3%



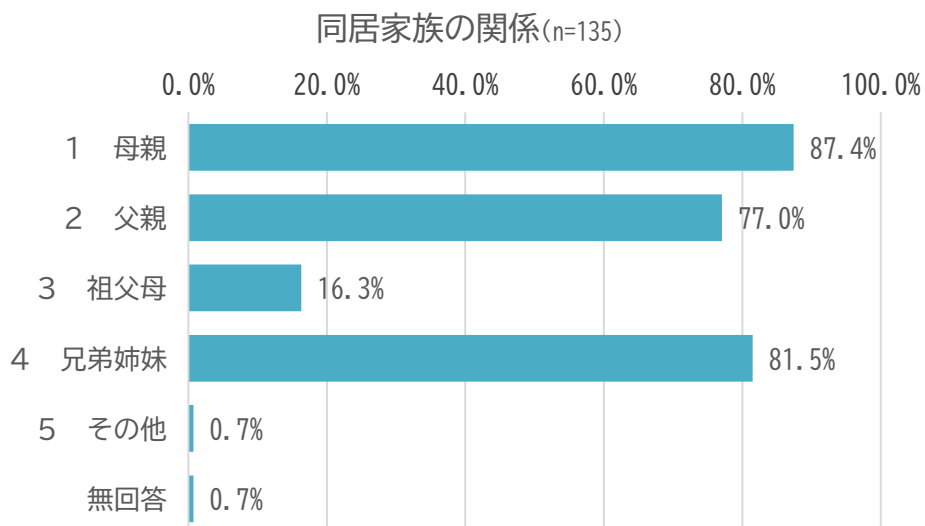
### イ) 同居家族の人数 (お子さんを含む)

4人家族が最も多く、全体の47.4%を占めています。次に多いのは5人家族で26.7%、3人家族は6.7%、6人家族は9.6%、7人家族は5.2%、2人家族と8人家族はそれぞれ0.7%と1.5%です。



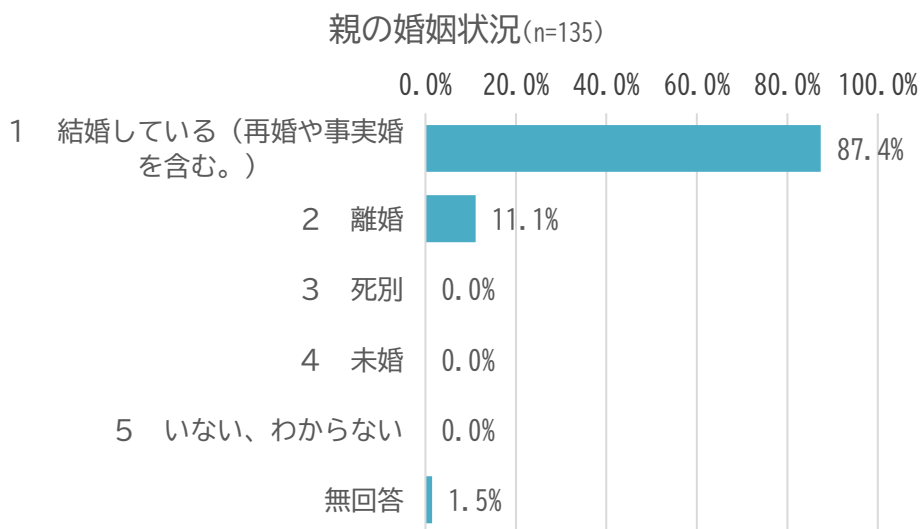
### ウ) 同居家族の関係

お子さんから見て母親が全体の87.4%、父親が77.0%、兄弟姉妹が81.5%、祖父母が16.3%、その他の関係者が0.7%です。



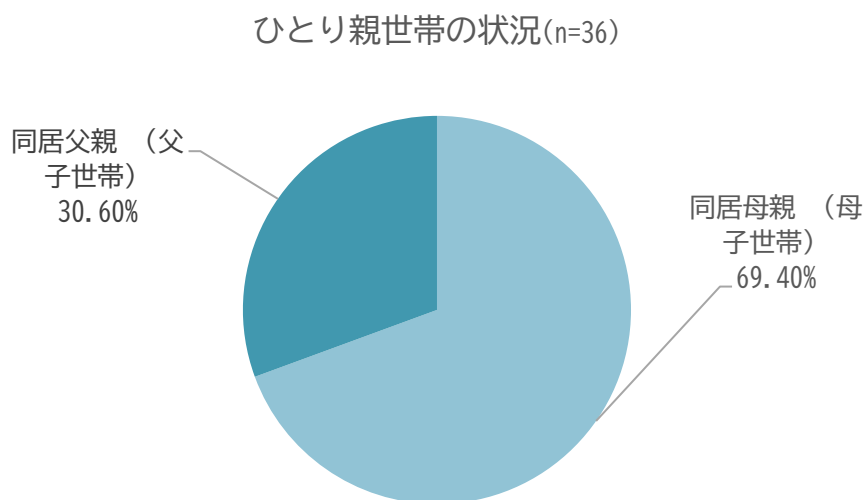
## エ) 婚姻の状況

結婚している（再婚や事実婚を含む）保護者が全体の 87.4%、離婚した保護者が 11.1%です。死別、未婚、いない、わからないと回答した保護者はいません。



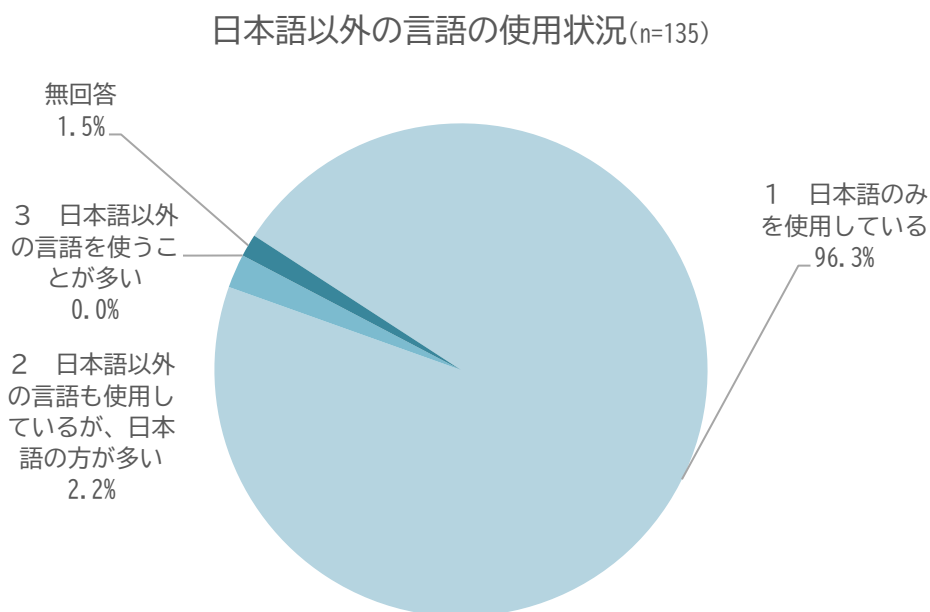
## オ) ひとり親世帯の状況

ひとり親世帯 36 件のうち、同居母親（母子世帯）が 25 件で全体の 69.4%を占め、同居父親（父子世帯）が 11 件で全体の 30.6%を占めています。



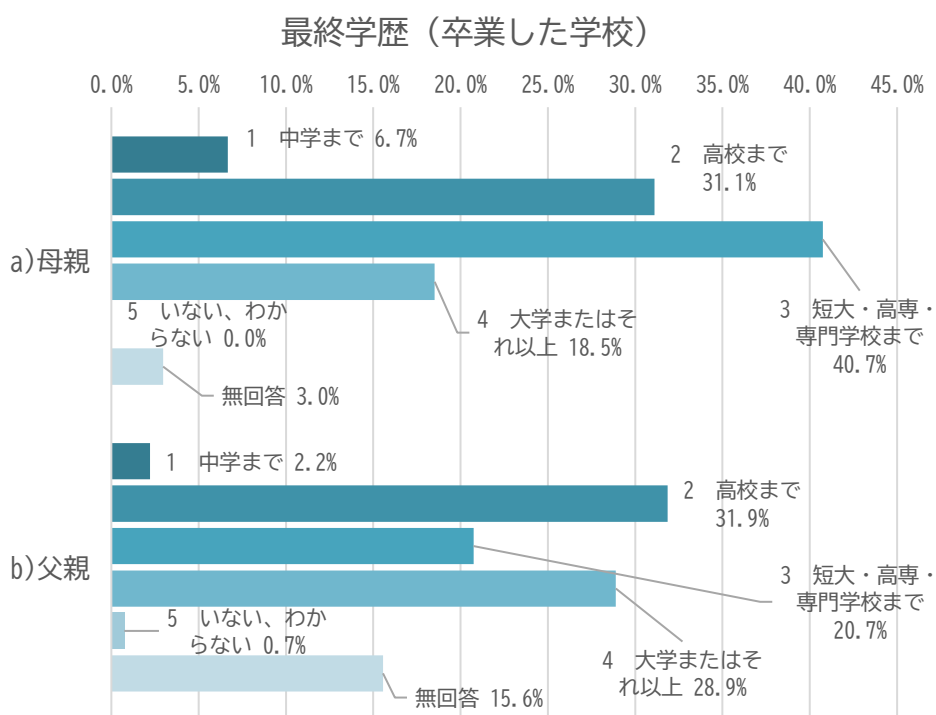
### カ) 日本語以外の言語の使用状況

ほぼ全ての保護者（96.3%）が日本語のみを使用しています。日本語以外の言語も使用しているが、日本語の使用が多いと答えたのは僅か2.2%（3人）でした。日本語以外の言語を主に使用している保護者はいませんでした。



### キ) 最終学歴（卒業した学校）

母親の最終学歴は「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が最も多く、父親の場合は「高校（高等部）まで」が最も多い結果となりました。また、父親の方が大学以上の学歴を持つ人が多い傾向にあります。



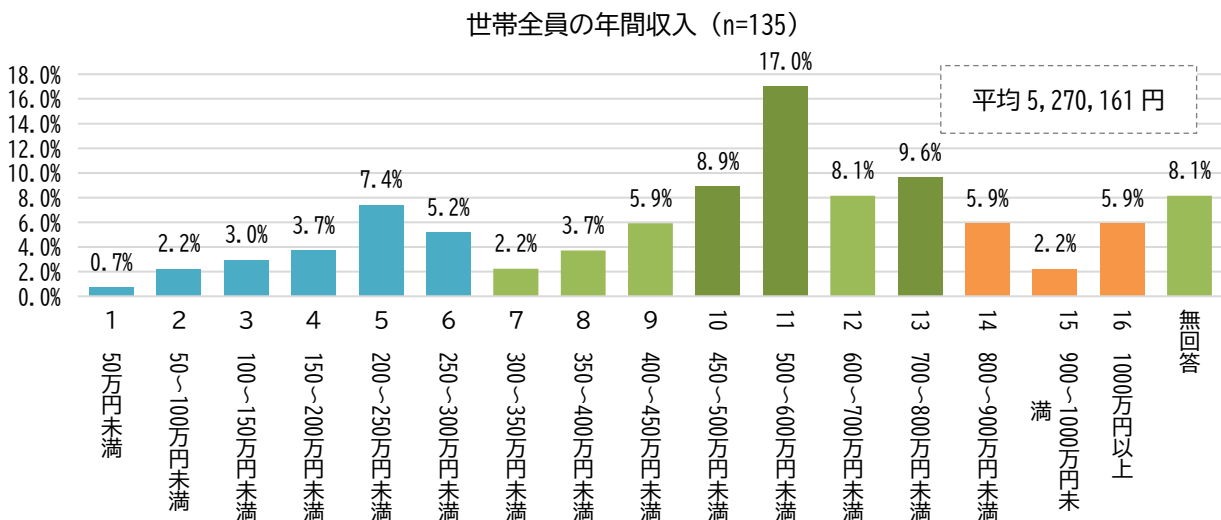
## (2) 保護者の生活状況

<b>収入状況 (世帯年収)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>平均 5,270,161 円</li> <li>500~600 万円未満 17%</li> <li>200 万円未満 10%</li> </ul> <p>&lt;P. 15&gt;</p>	<b>収入状況 (ひとり親)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>等価世帯収入水準「中央値の 2 分の 1 未満」53%</li> </ul> <p>&lt;P. 18&gt;</p>	<b>現在の暮らしの状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>(大変)ゆとりがある 10%</li> <li>ふつう 64%</li> <li>苦しい・大変苦しい 21%</li> </ul> <p>&lt;P. 21&gt;</p>
<b>就労状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>母親:パート・アルバイト等 47%</li> <li>父親:正社員等 69%</li> </ul> <p>&lt;P. 28&gt;</p>	<b>学校行事参加</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>よく参加している 82%</li> <li>ときどき参加している 13%</li> </ul> <p>&lt;P. 31&gt;</p>	<b>相談相手</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育て:家族・親族 93%</li> <li>重要な事柄:家族・親族 97%</li> <li>お金の援助:家族・親族 96%</li> </ul> <p>&lt;P. 33&gt;</p>
<b>支援制度利用状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>等価世帯収入水準「中央値の 2 分の 1 未満」の世帯</li> <li>就学援助 59%・児童扶養手当 46% &lt;P. 38&gt;</li> </ul>		

### ①経済的な状況 (収入状況)

【保護者調査票】問 2 4. 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。

- 調査時点の世帯全員のおおよその年間収入(税込)については、「500~600 万円未満」が 17.0%で最も割合が高く、次いで、「700 万~800 万円未満」が 9.6%、「450 万~500 万円未満」が 8.9%、「600~700 万円未満」が 8.1%となっている。
- 参考:(国)「1000 万円以上」が 15.3%で最も割合が高く、次いで、「500~600 万円未満」が 12.2%、「700 万~800 万円」が 11.2%、「600~700 万円」が 10.5%となっている。



## ア) 等価世帯収入の水準

2022年（令和4年）の世帯全員のおおよその年間収入について、家族の人数を踏まえて「等価世帯収入」の水準により分類しました。等価世帯収入の水準が、

- 「中央値の2分の1未満（貧困層）」18.0%（国12.9%）
- 「中央値の2分の1以上中央値未満（準貧困層）」29.5%（国36.9%）
- 「中央値以上（その他層）」52.5%（国50.2%）

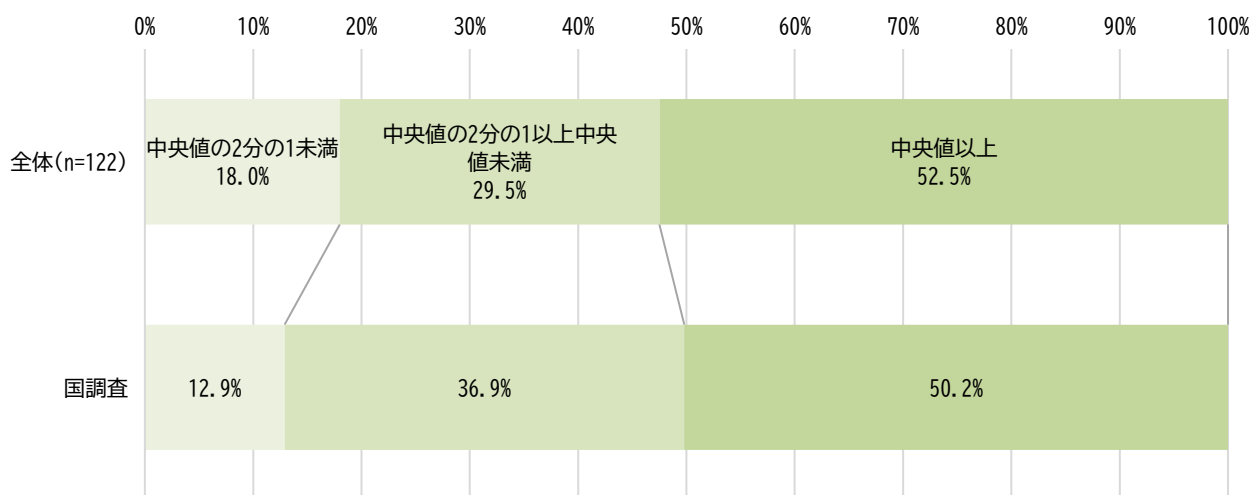
でした。

## ○等価世帯収入の算出について

- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする（例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1,000万円以上」は1,050万円とする。）
- 上記の値を、保護者調査票問3で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
- 上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類する。

等価世帯収入の中央値 : 245.97万円（国317.54万円）

等価世帯収入の中央値の2分の1 : 122.98万円（国158.77万円）



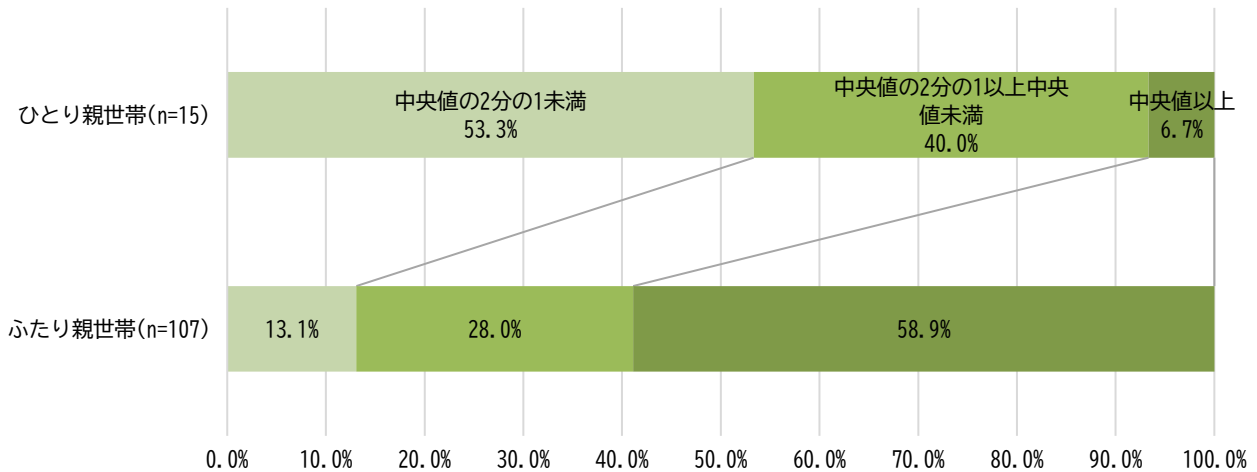
分類	等価世帯 収入(円)	件数	全体比 (n=122)	累計	分類	等価世帯 収入(円)	件数	全体比 (n=122)	累計
中央値の2分の1未満	144,338	1	0.8%	0.8%	中央値以上	2,459,675	6	4.9%	52.5%
	306,186	1	0.8%	1.6%		2,653,614	1	0.8%	53.3%
	335,410	1	0.8%	2.5%		2,742,414	1	0.8%	54.1%
	375,000	1	0.8%	3.3%		2,750,000	13	10.7%	64.8%
	625,000	3	2.5%	5.7%		2,834,734	1	0.8%	65.6%
	661,438	2	1.6%	7.4%		2,906,888	2	1.6%	67.2%
	721,688	1	0.8%	8.2%		3,061,862	2	1.6%	68.9%
	850,420	2	1.6%	9.8%		3,175,426	1	0.8%	69.7%
	875,000	2	1.6%	11.5%		3,212,698	1	0.8%	70.5%
	1,006,231	2	1.6%	13.1%		3,250,000	8	6.6%	77.0%
	1,125,000	4	3.3%	16.4%		3,354,102	3	2.5%	79.5%
1,229,837	2	1.6%	18.0%	3,358,757		1	0.8%	80.3%	
中央値の2分の1以上中央値未満	1,299,038	2	1.6%	19.7%		3,470,110	1	0.8%	81.1%
	1,326,807	1	0.8%	20.5%		3,750,000	6	4.9%	86.1%
	1,375,000	4	3.3%	23.8%		3,801,316	5	4.1%	90.2%
	1,625,000	2	1.6%	25.4%		4,248,529	1	0.8%	91.0%
	1,735,055	1	0.8%	26.2%		4,250,000	1	0.8%	91.8%
	1,875,000	4	3.3%	29.5%		4,286,607	1	0.8%	92.6%
	1,900,658	3	2.5%	32.0%		4,330,127	1	0.8%	93.4%
	1,939,179	2	1.6%	33.6%		4,695,743	4	3.3%	96.7%
	1,944,544	1	0.8%	34.4%		5,250,000	3	2.5%	99.2%
	2,124,265	5	4.1%	38.5%		5,484,828	1	0.8%	100.0%
	2,125,000	4	3.3%	41.8%					
	2,165,064	1	0.8%	42.6%					
	2,245,366	3	2.5%	45.1%					
2,375,000	3	2.5%	47.5%						

- ・中央値の2分の1未満：22件(18.0%)
- ・中央値の2分の1以上中央値未満：36件(29.5%)
- ・中央値以上：64件(52.5%)

### イ) 世帯状況別（ひとり親等）等価世帯収入の水準

世帯の状況別に等価世帯収入の水準をみると、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合は、「ひとり親世帯」では53.3%（国50.2%）となっており、「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

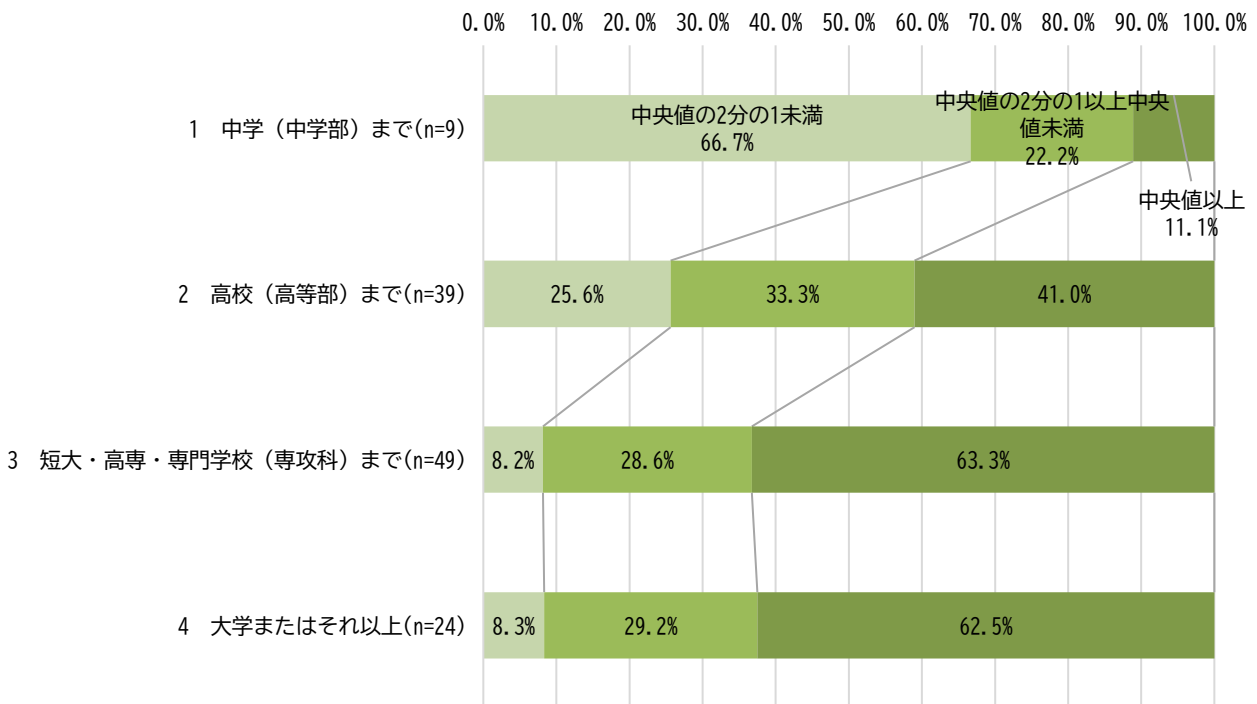
世帯の状況別、等価世帯収入の水準（n=122）



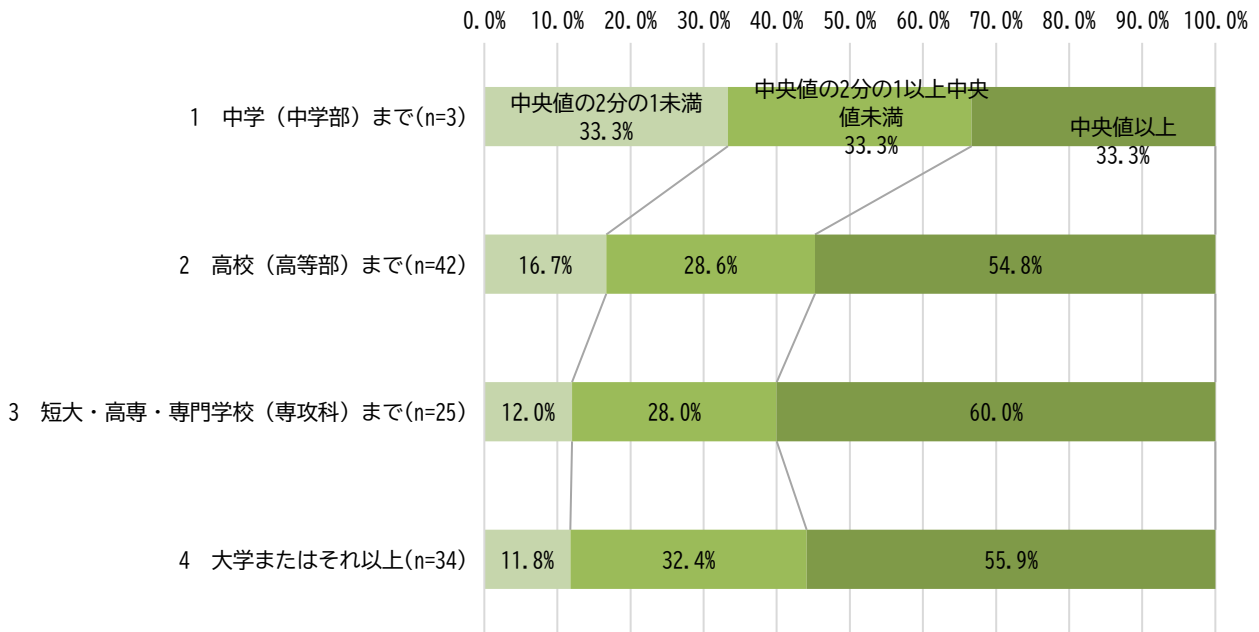
### ウ) 母親・父親の学歴の状況別等価世帯収入の水準

母親・父親の学歴の状況別にみると、母親・父親ともに、学歴が高いほど等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合は低くなっている。

母親の学歴の状況別、等価世帯収入の水準 (n=121)

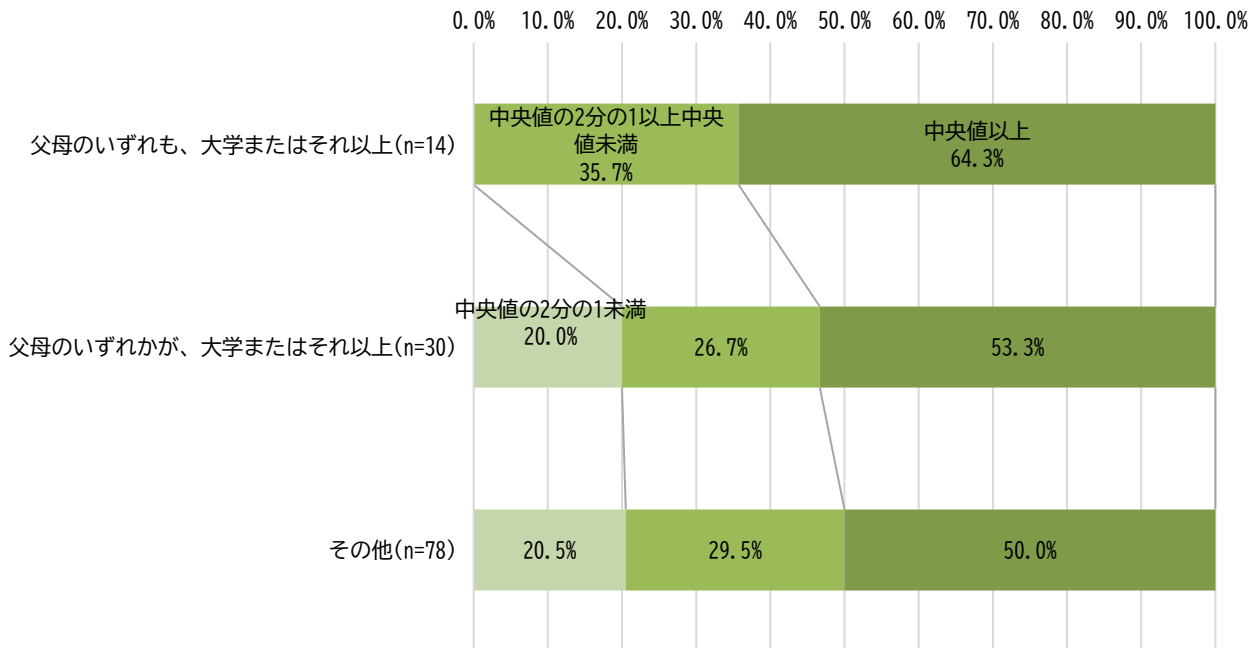


父親の学歴の状況別、等価世帯収入の水準(n=104)



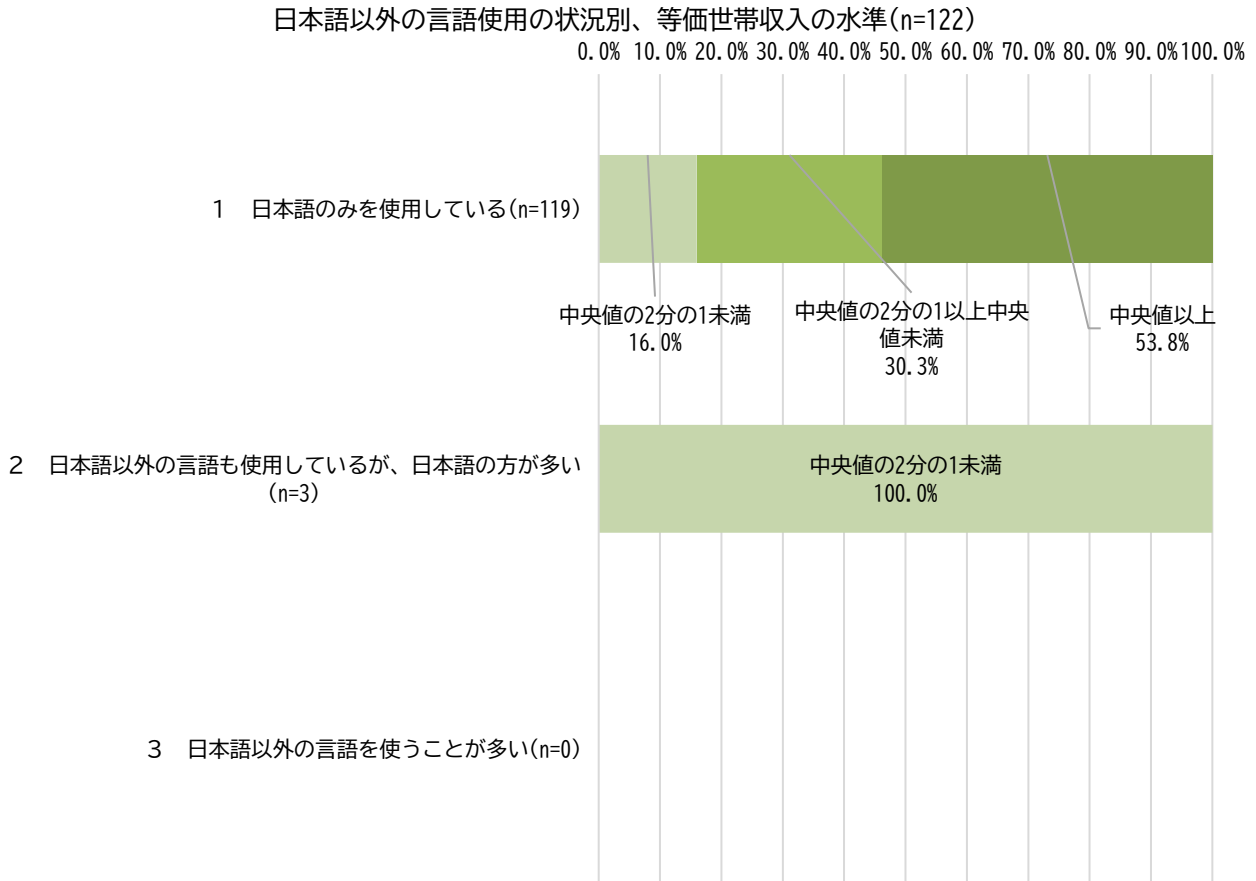
母親・父親の学歴の組み合わせでみた場合には、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合は、「父母のいずれも、大学またはそれ以上」の場合は0.0%(国 3.9%)、「父母のいずれかが、大学またはそれ以上」の場合には20.0%(国 6.4%)、「その他（不明等を含む）」の場合には20.5%(19.0%)となっている。

母親・父親の学歴の状況別、等価世帯収入の水準(n=122)



## 工) 家庭での使用言語の状況別等価世帯収入の水準

家庭での使用言語の状況（日本語以外の言語使用の状況）別にみると、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」に該当する世帯では、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」である割合は100.0%(国 22.2%)で、「日本語のみを使用している」世帯と比べて高くなっている。

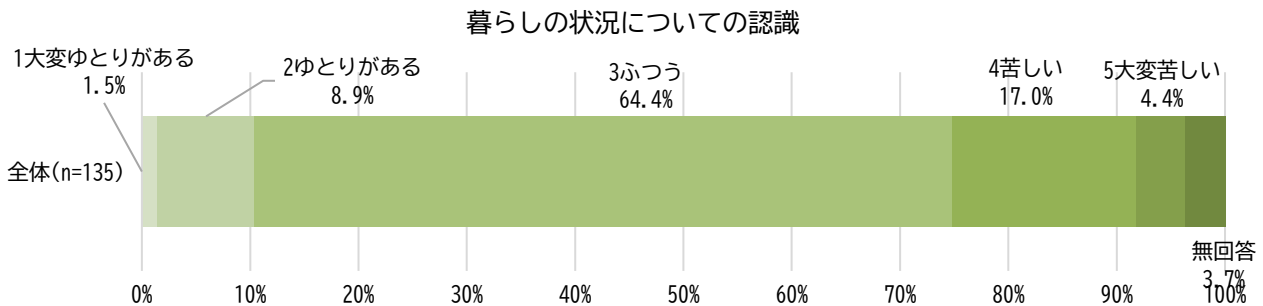


## ②暮らしの状況

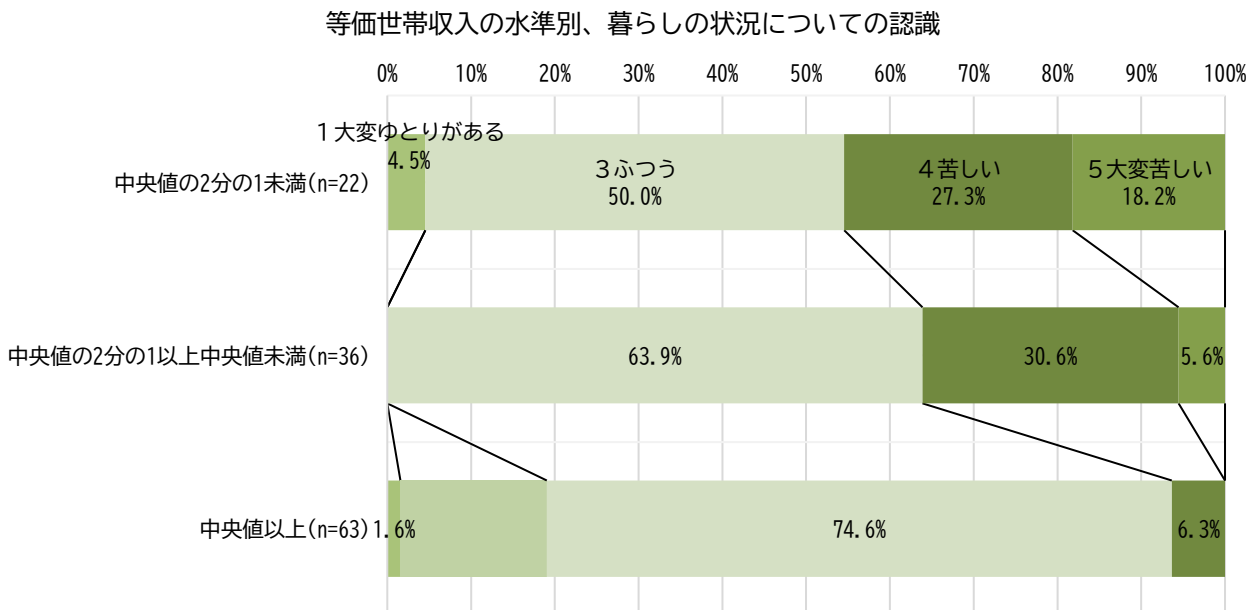
### ア) 現在の暮らしの状況の認識

【保護者調査票】問23. 現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。

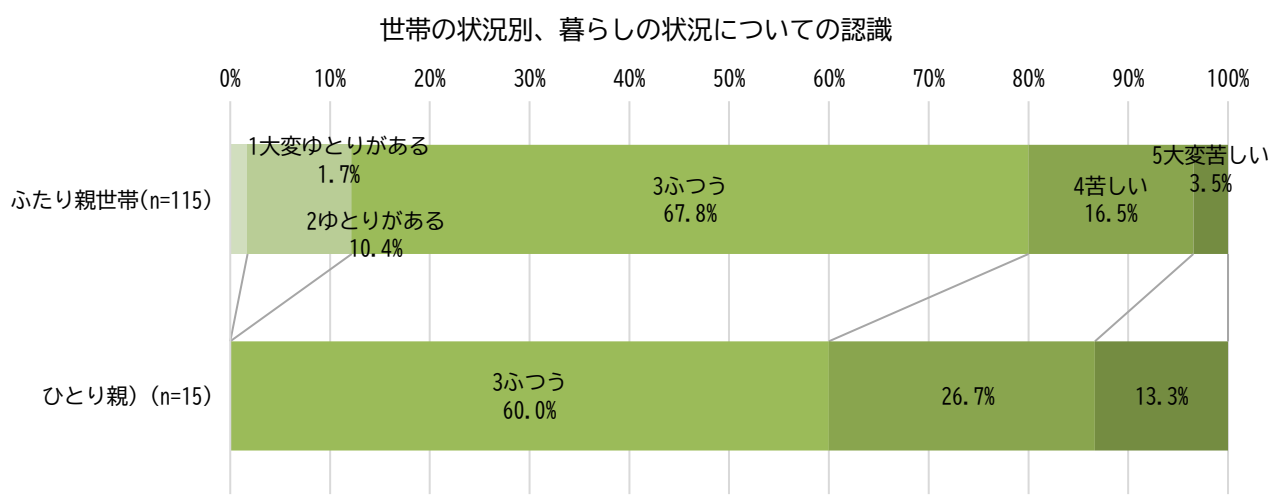
現在の暮らしの状況をどのように感じているかについては、「大変ゆとりがある」が1.5%（国1.5%）、「ゆとりがある」が9.2%（国14.0%）、「ふつう」が66.9%（国58.5%）となっており、合わせて77.7%（国74.0%）となっている。他方で、「苦しい」は17.7%（国19.7%）、「大変苦しい」は4.6%（国5.6%）となっており、合わせた割合は22.3%（国25.3%）となっている。



「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では6.3%（国9.0%）、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では36.2%（国36.8%）、「中央値の2分の1未満」の世帯では45.5%（国57.1%）となっている。



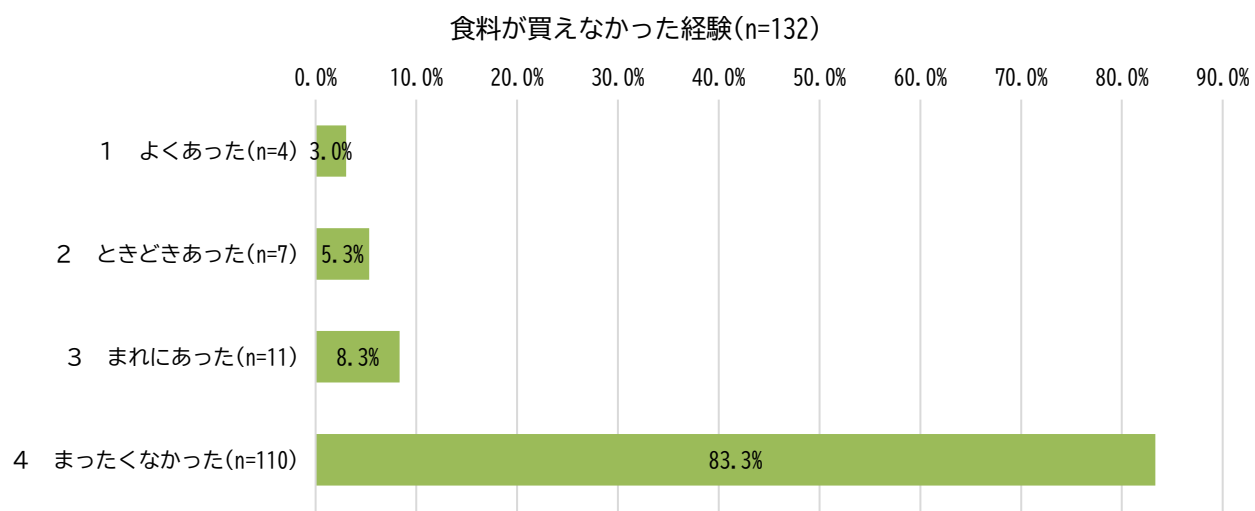
世帯の状況別にみると、「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では20.0%（国21.5%）、「ひとり親世帯」では40.0%（国51.8%）となっている。



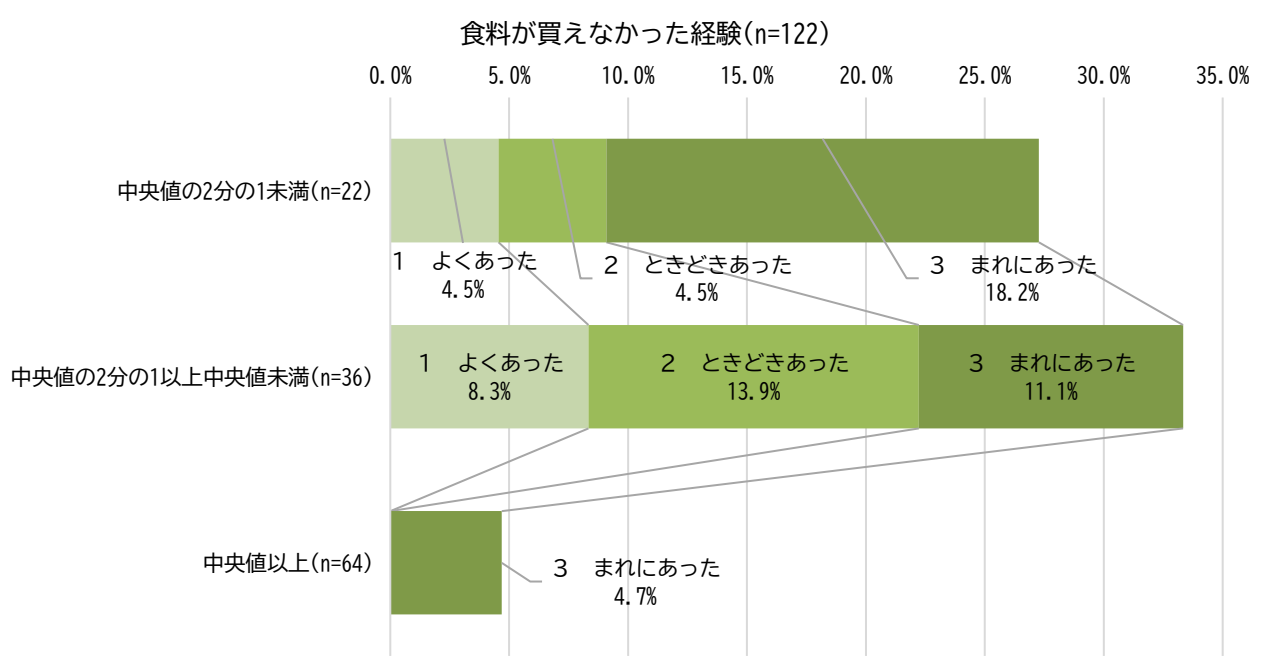
### イ) 食料が買えなかった経験

【保護者調査票】問25. 過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。

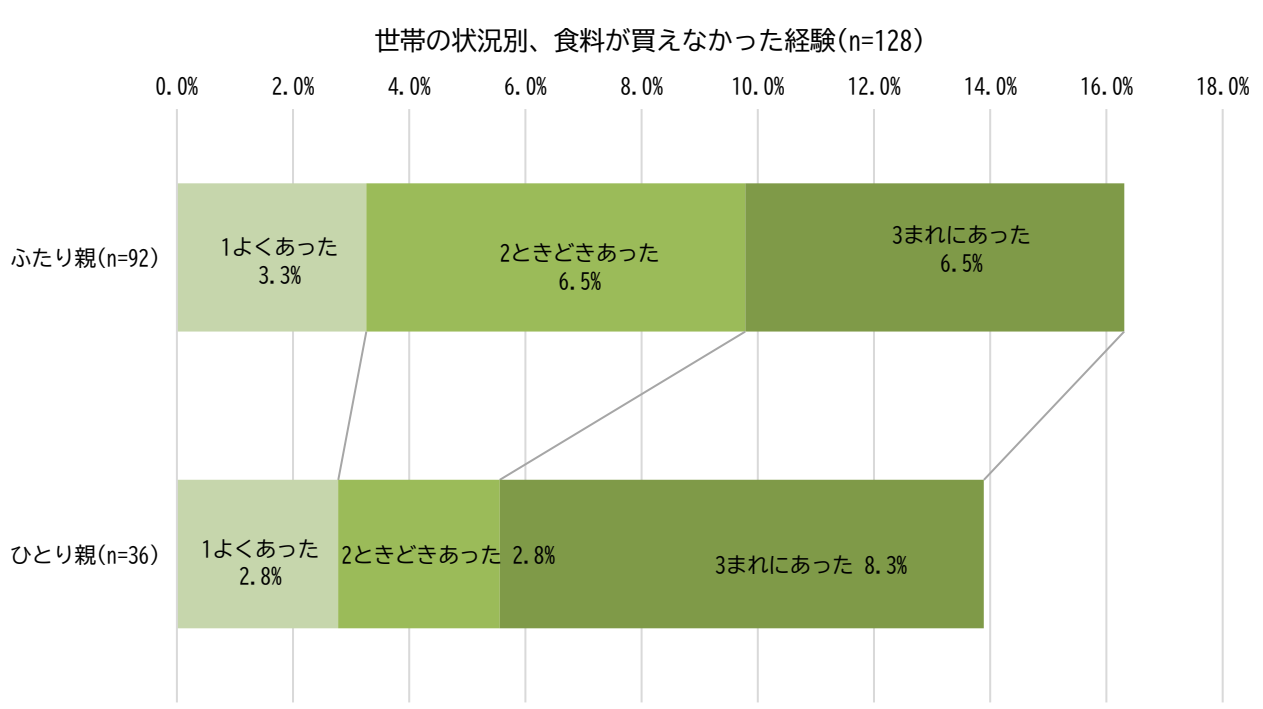
過去1年間に必要とする食料が買えなかった経験があったかについては、「よくあった」が3.0%（国1.7%）、「ときどきあった」が5.3%（国2.7%）、「まれにあった」が8.3%（国6.9%）となっており、合わせた割合は16.6%（国11.3%）となっている。



「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では4.7%（国1.9%）、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では33.3%（国15.0%）、「中央値の2分の1未満」の世帯では27.2%（国37.7%）となっている。



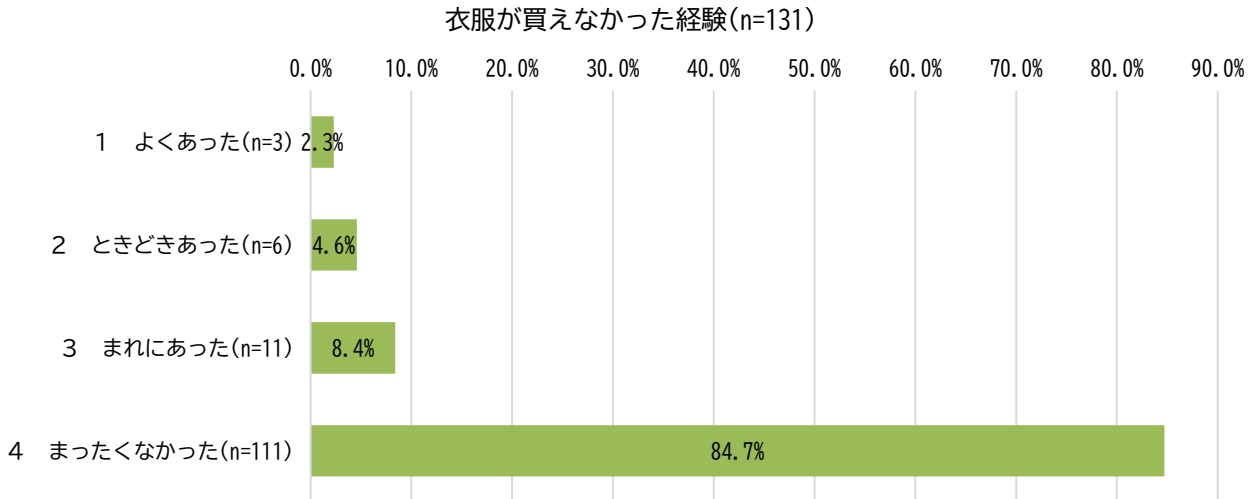
世帯の状況別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では16.3%（国8.5%）、「ひとり親世帯」では13.9%（国30.3%）となっている。



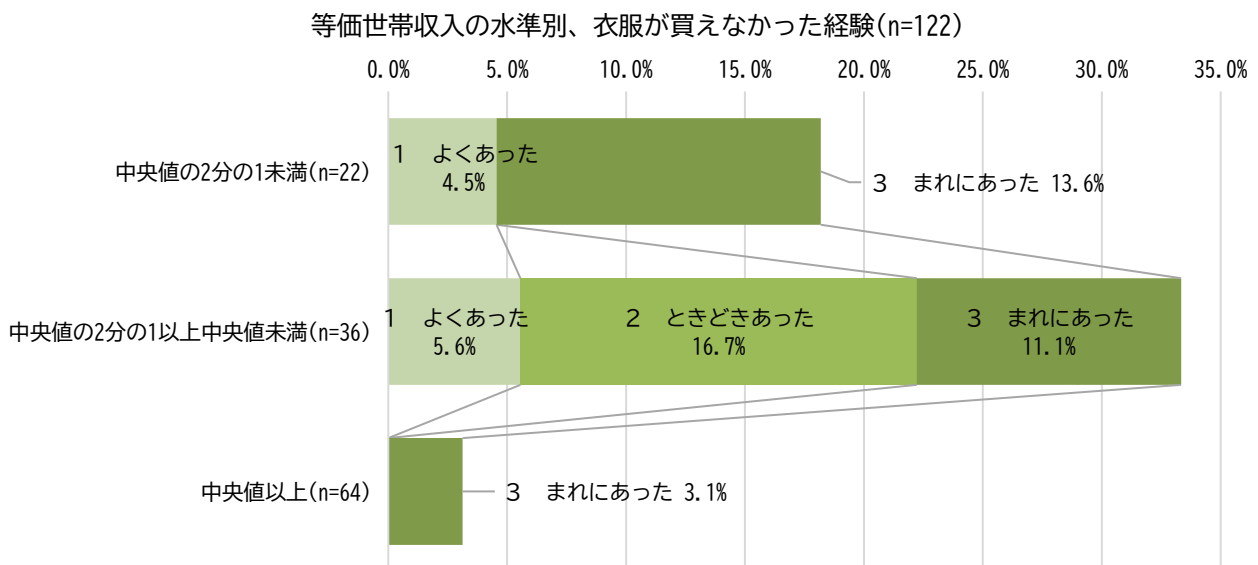
## ウ) 衣服が買えなかった経験

【保護者調査票】問26. 過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。

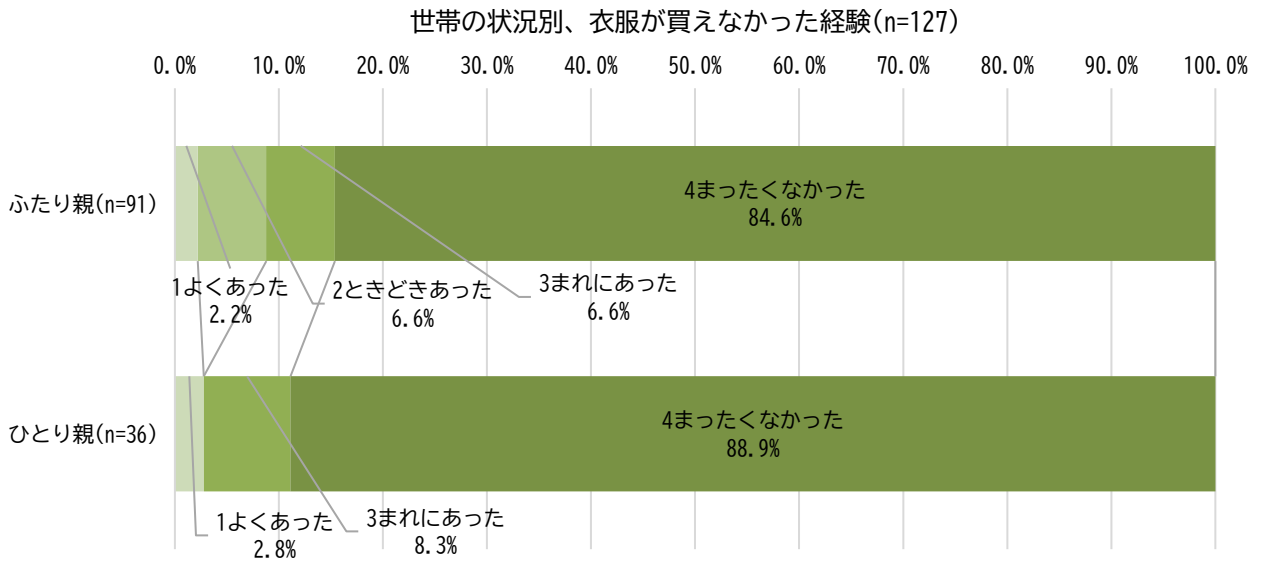
過去1年間に必要とする衣服が買えなかった経験があったかについては、「よくあった」が2.3%（国2.4%）、「ときどきあった」が4.6%（国3.7%）、「まれにあった」が8.4%（国10.2%）となっており、合わせた割合は15.3%（国16.3%）となっている。



「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では3.1%（国4.2%）、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では35.3%（国3.0%）、「中央値の2分の1未満」の世帯では16.7%（国45.8%）となっている。



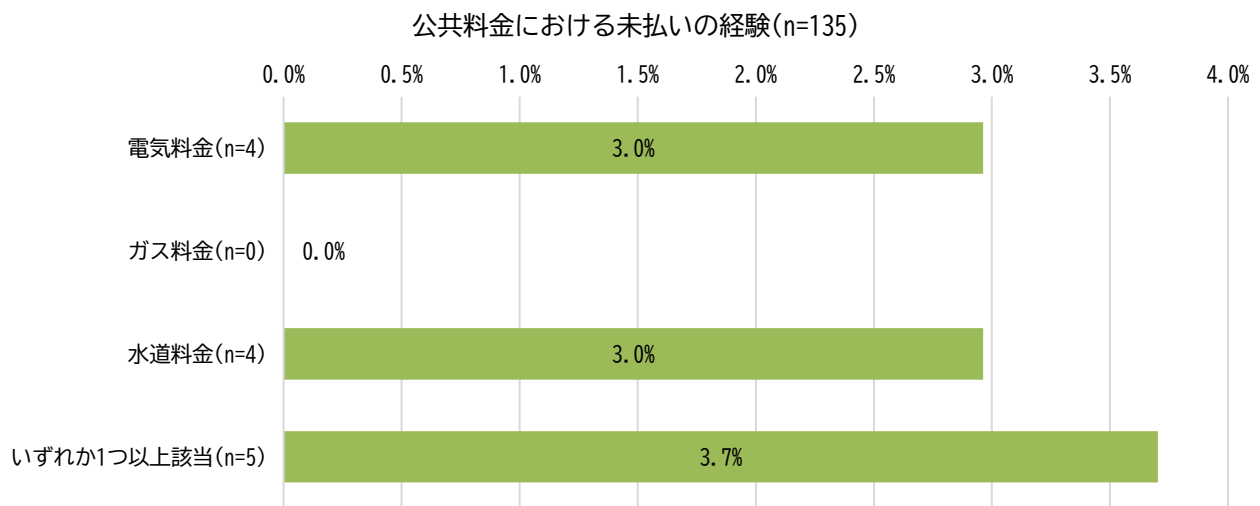
世帯の状況別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では16.8%（国13.1%）、「ひとり親世帯」全体では21.1%（国8.9%）、「母子世帯」のみでは12.0%（国41.0%）となっている。



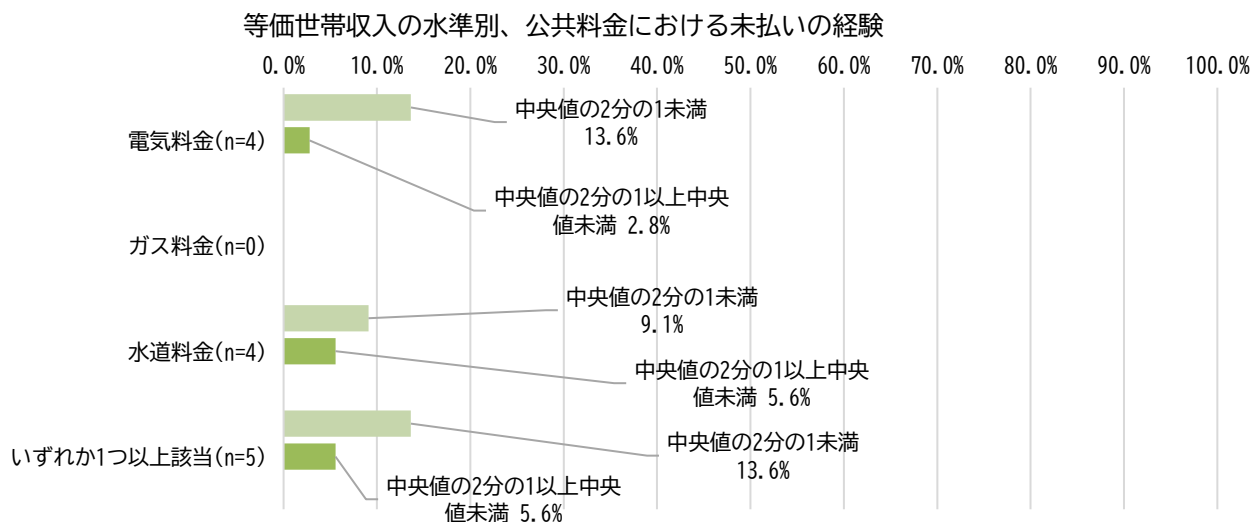
## 工) 公共料金における未払いの経験

【保護者調査票】問27. 過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。

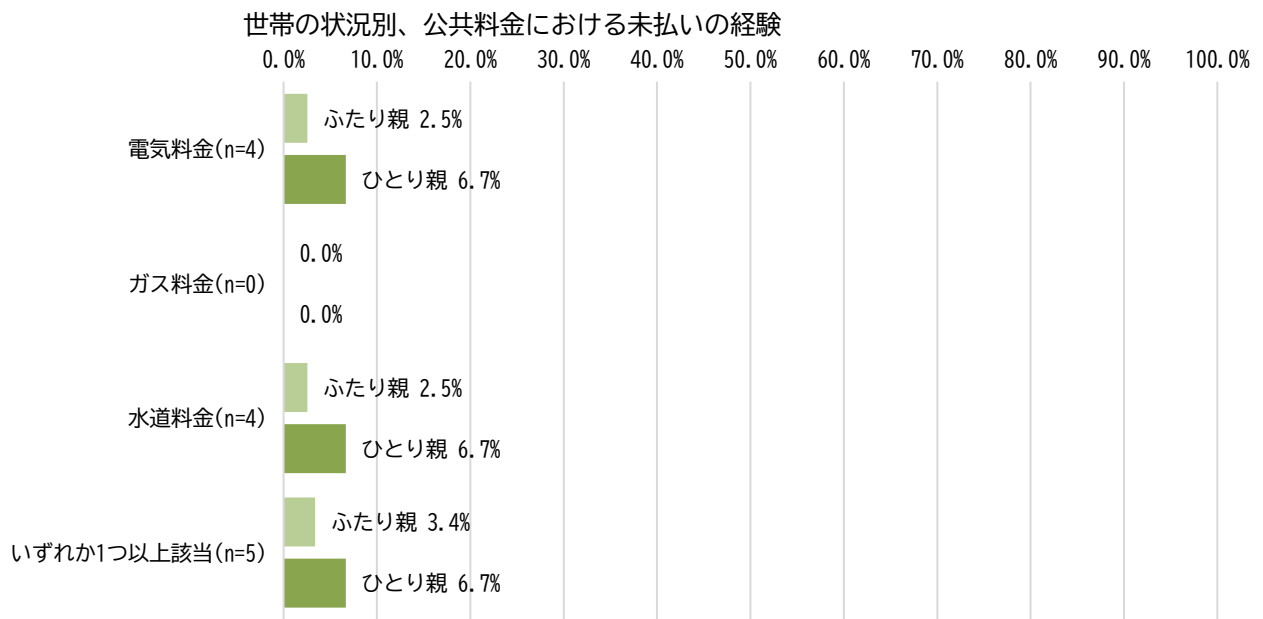
過去1年間に、「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」について経済的な理由で未払いになったことがあったかについて、「あった」（該当）の割合は、それぞれ3.0%（国3.8%）、0.0%（国3.5%）、3.0%（国3.7%）となっている。また、いずれか1つ以上該当する割合は3.7%（国5.7%）となっている。



未払いの経験について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「電気料金」は13.6%（国14.5%）、「ガス料金」は0%（国14.2%）、「水道料金」は9.1%（国12.4%）が「あった」（該当）となっている。いずれか1つ以上該当する割合は、「中央値以上」の世帯では0%（国0.9%）、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では5.6%（国7.1%）、「中央値の2分の1未満」の世帯では13.6%（国20.7%）となっている。



世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「電気料金」は6.7%（国 11.5%）、「ガス料金」は0%（国 12.4%）、「水道料金」は6.7%（国 8.2%）が「あった」（該当）と回答している。



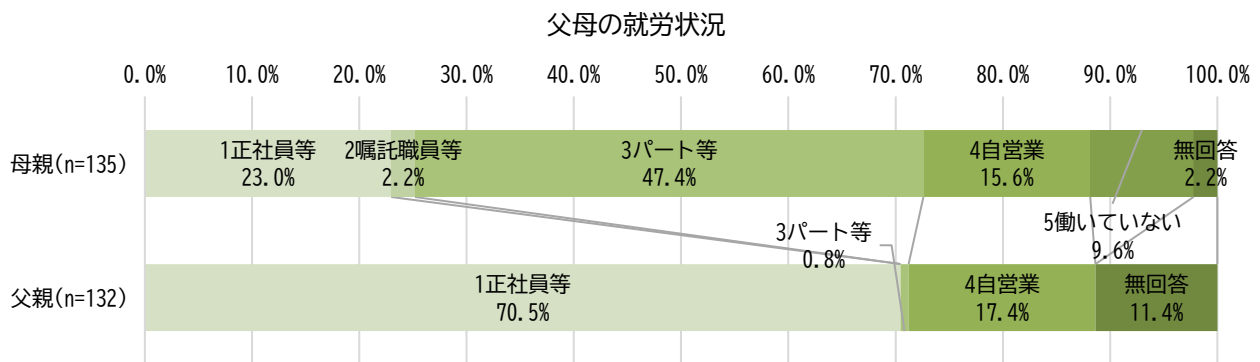
### ③就労の状況（母親・父親の就労状況）

#### ア) 父母の就労状況

【保護者調査票】問9. お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。

「母親」の就労状況については、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が47.4%（国42.8%）、次いで「正社員・正規職員・会社役員」が23.0%（国27.4%）、「働いていない」が9.6%（国14.6%）となっている。

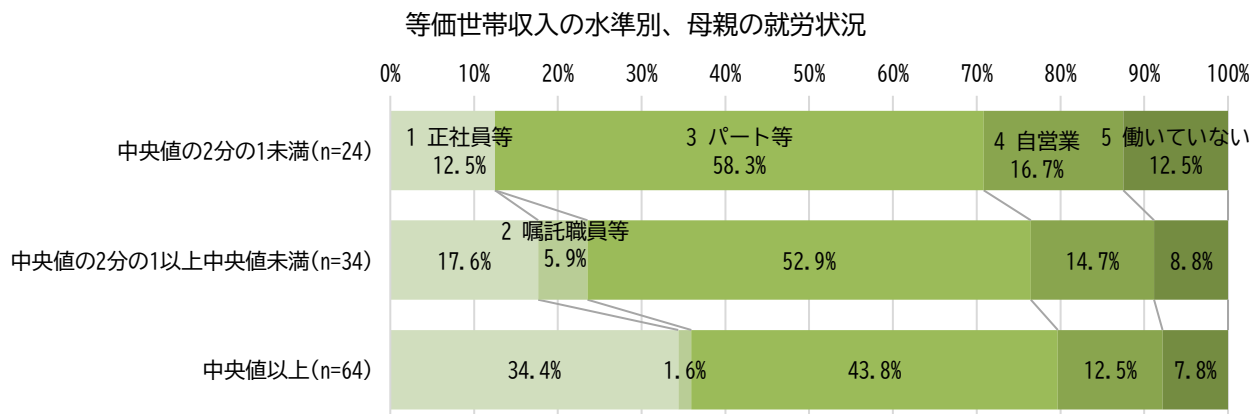
また、「父親」の就労状況については、「正社員・正規職員・会社役員」が70.5%（国78.1%）、次いで「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。）」が17.4%（国9.8%）となっている。



(注) 1 正社員等(正規職員・会社役員含む)、2 嘱託職員等(契約社員・派遣職員含む)、3 パート等(アルバイト・日雇い・非常勤職員含む)、4 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)、5 働いていない(=専業主婦/主夫を含む。)

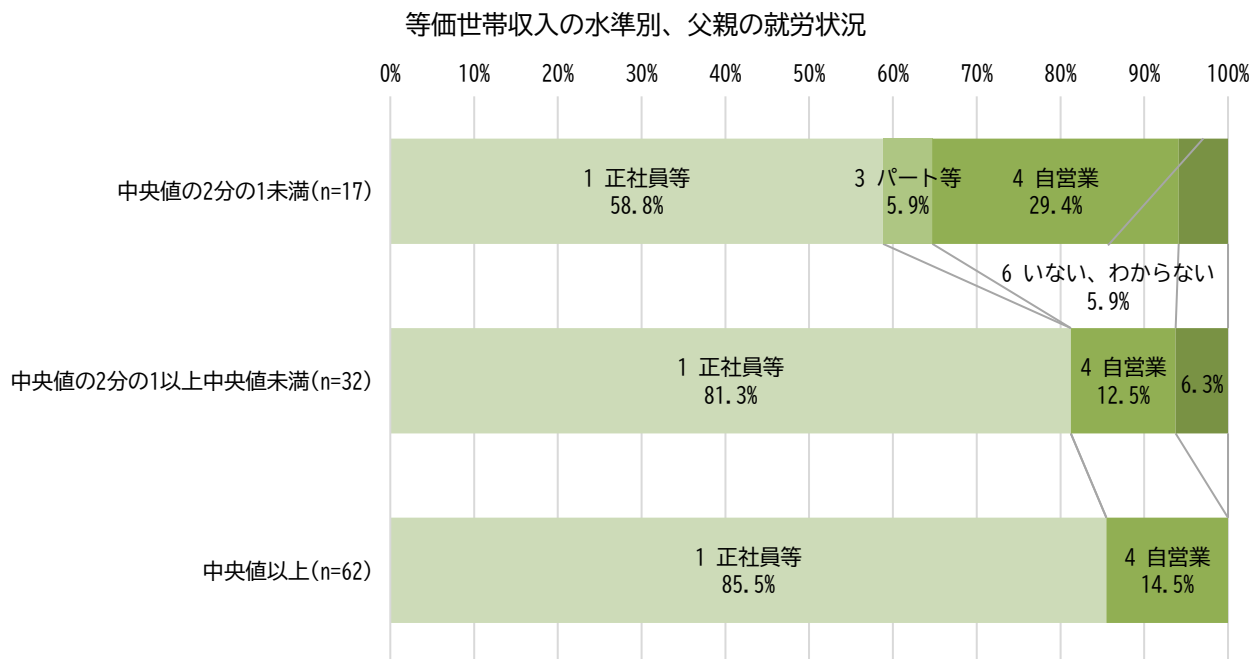
#### イ) 母親の就労状況

「母親」の就労状況について等価世帯収入の水準別にみると、世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が58.3%（国49.8%）となっており、他方で、「正社員・正規職員・会社役員」は12.5%（国17.4%）と低くなっている。



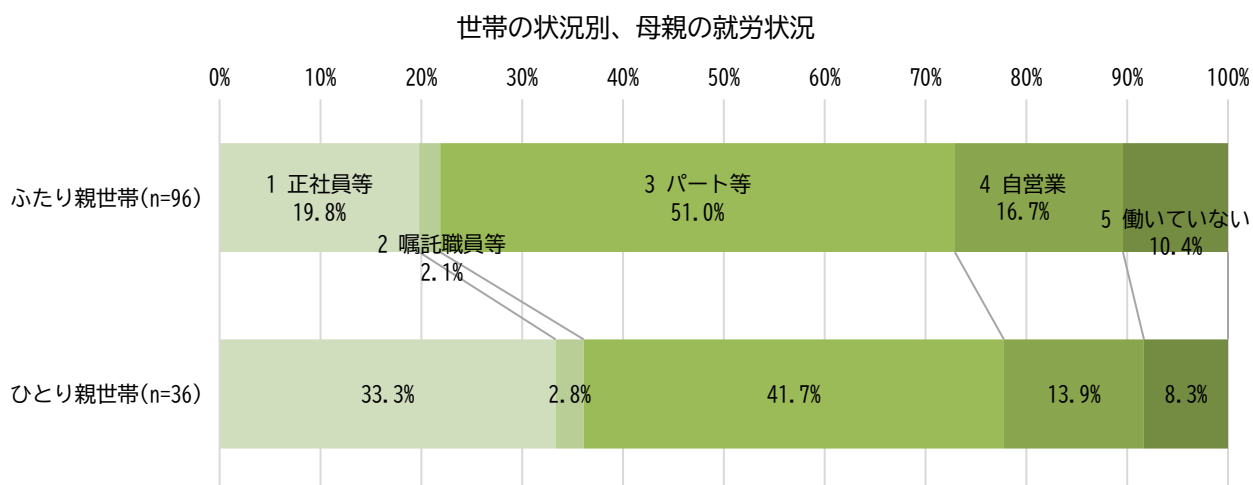
## ウ) 父親の就労状況

「父親」に関しては、「中央値の2分の1未満」の世帯では「正社員・正規職員・会社役員」が58.8%（国48.1%）と他の世帯と比べて低くなっており、他方で、「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。）」が29.4%（国21.7%）と高くなっている。なお、「父親」に関して、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「いない、わからない」も5.9%（国17.4%）となっている。



## エ) 母親の就労状況（世帯状況別）

「母親」の就労状況について世帯の状況別にみると、「ふたり親世帯」では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が51.0%（国45.0%）で最も割合が高く、「ひとり親世帯（母子世帯）」についても41.7%（国40.2%）で最も割合が高くなっている。



#### ④子どもとのかかわり方

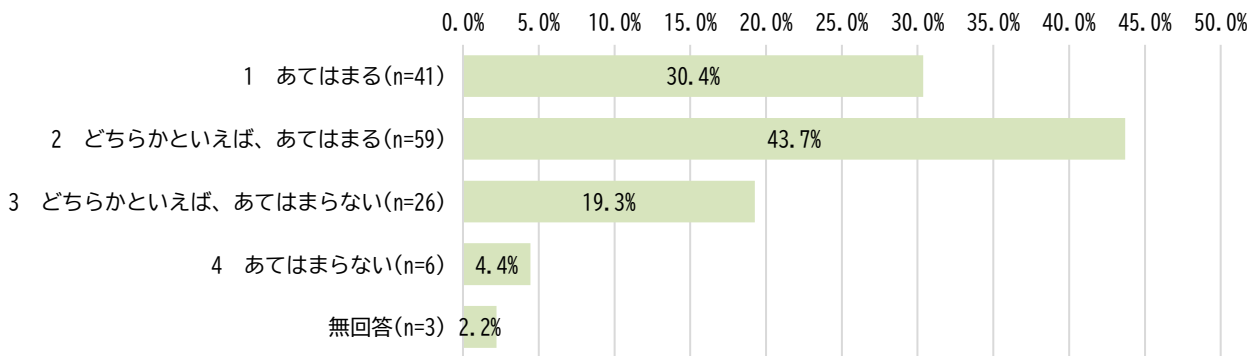
##### ア) テレビ等のルールについて

【保護者調査票】問13. あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。

a. テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているお子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。

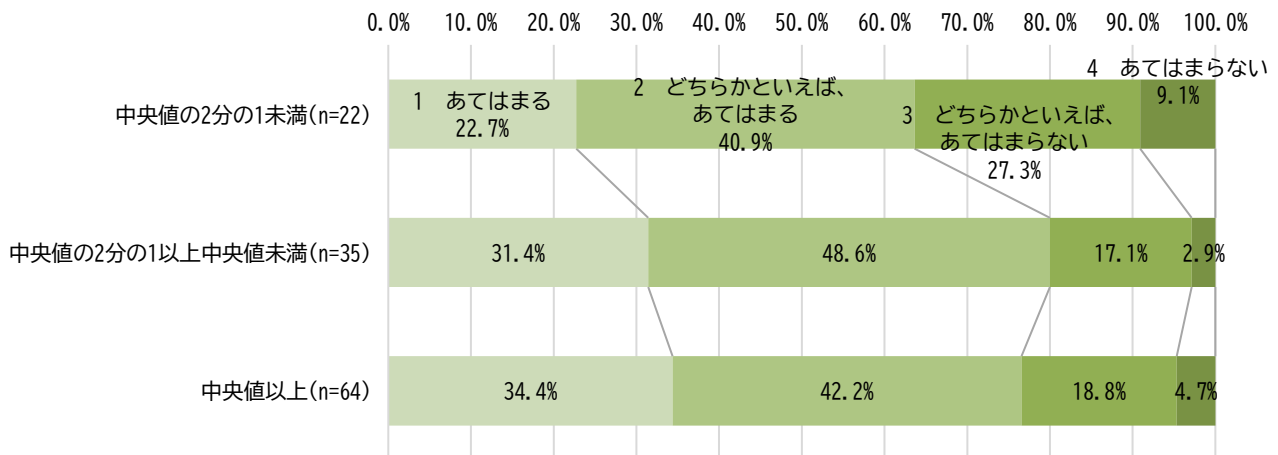
テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているかについて、「あてはまる」は30.4%（国24.5%）、「どちらかといえば、あてはまる」は43.7%（国37.6%）となっており、合わせた割合は74.1%（国62.1%）となっている。他方で、「どちらかといえば、あてはまらない」は19.3%（国22.3%）、「あてはまらない」は4.4%（国15.0%）となっており、合わせた割合は23.7%（国37.3%）となっている。

テレビ等のルールについて子どもとの関わり方(n=135)

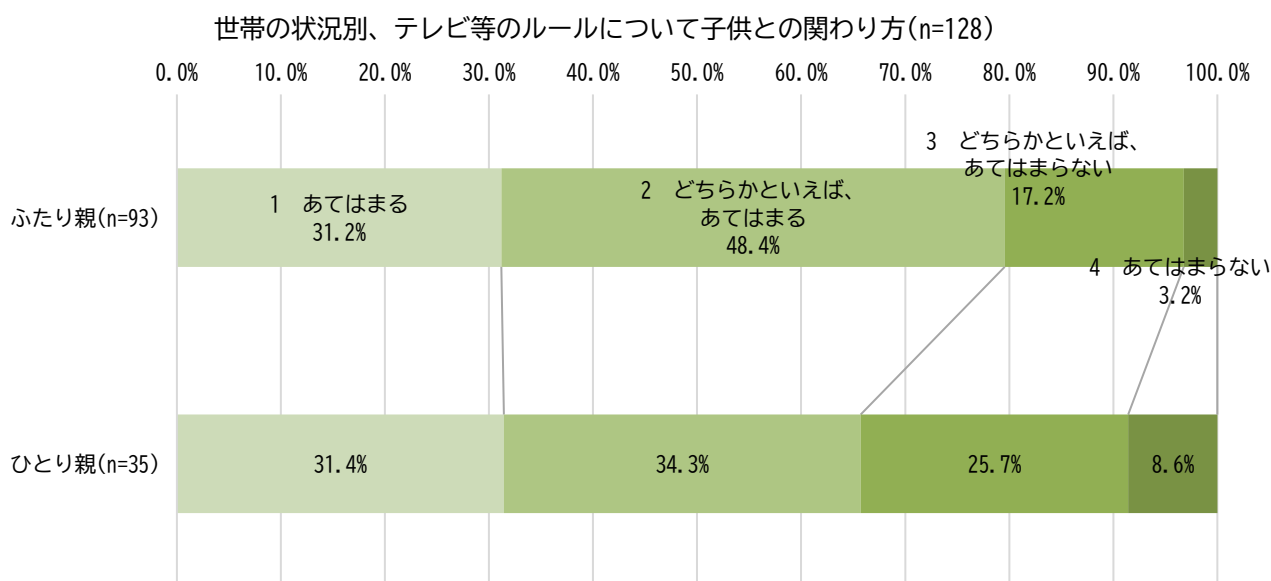


「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では34.4%（国34.4%）、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では31.4%（国38.1%）、「中央値の2分の1未満」の世帯では22.7%（国47.1%）となっている。

等価世帯収入の水準別、テレビ等のルールについて子どもとの関わり方(n=121)



世帯の状況別にみると、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では20.4%（国 35.9%）、「ひとり親世帯」全体では34.3%（国 49.2%）となっている。

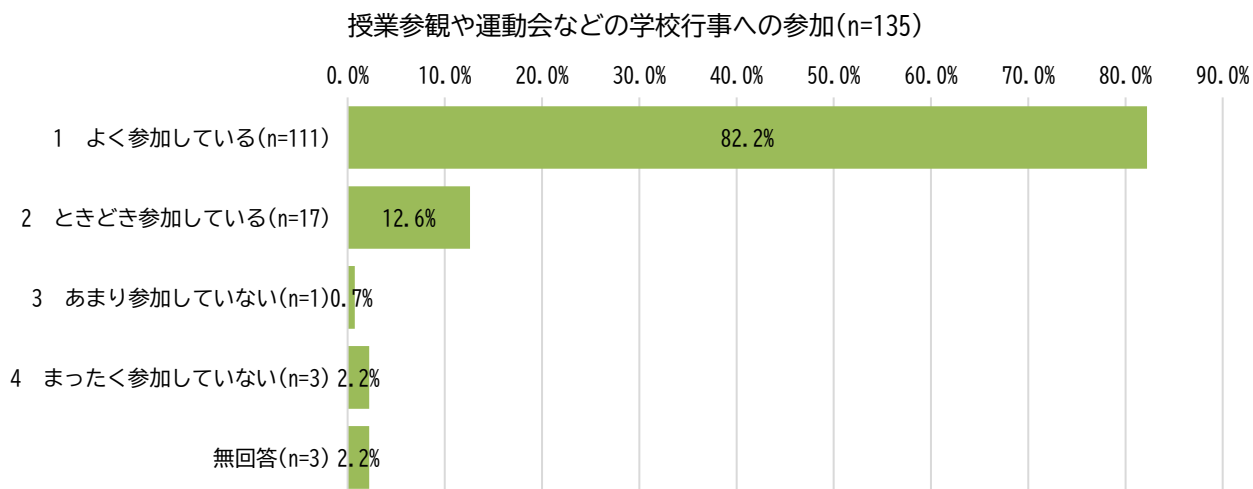


## イ) 学校行事参加について

【保護者調査票】問14. あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(a, b それぞれについて、あてはまるもの1つ選択)

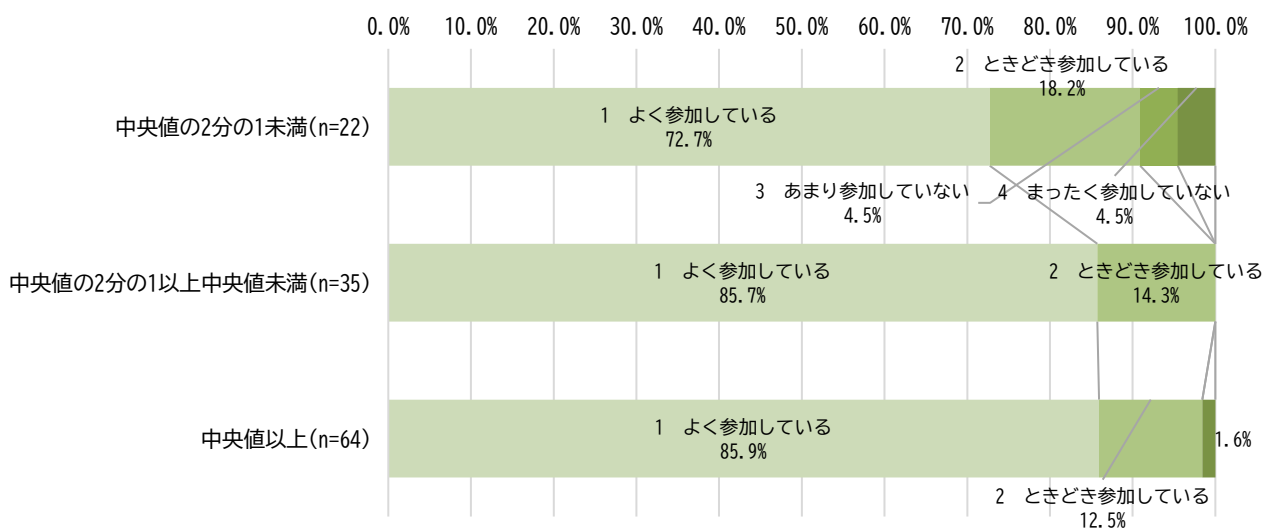
### a) 授業参観や運動会などの学校行事への参加

授業参観や運動会などの学校行事への参加に関する質問については、「よく参加している」と回答した保護者が最も多く、111人(82.2%)、「ときどき参加している」は17人(12.6%)、「あまり参加していない」は1人(0.7%)で、「まったく参加していない」は3人(2.2%)でした。無回答は3人(2.2%)です。



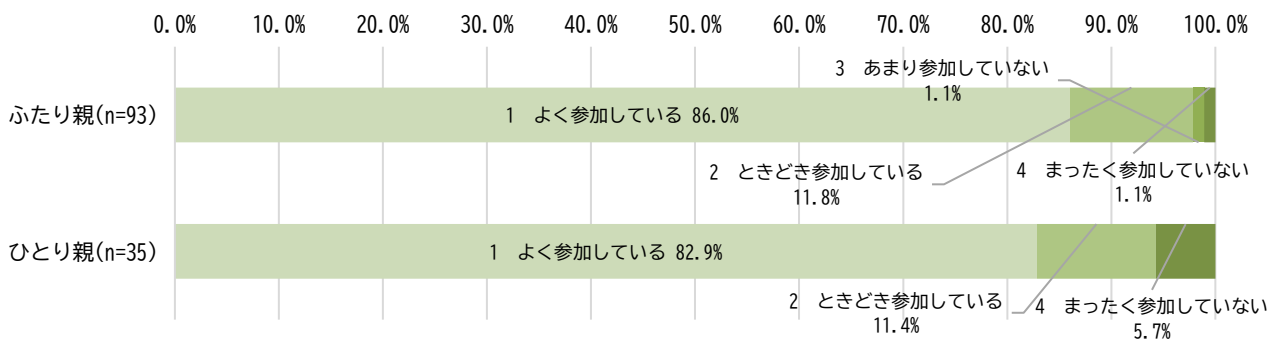
「よく参加している」について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では 85.9%（国 76.1%）、「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の世帯では 85.7%（国 72.9%）、「中央値の 2 分の 1 未満」の世帯では 72.7%（国 66.3%）となっている。

等価世帯収入の水準別、授業参観や運動会などの学校行事への参加(n=121)



世帯の状況別にみると、「よく参加している」割合は、「ふたり親世帯」では 86.0%（国 75.2%）、「ひとり親世帯」全体では 82.9%（国 62.0%）となっている。

世帯の状況別、授業参観や運動会などの学校行事への参加 (n=128)



## ⑤相談相手

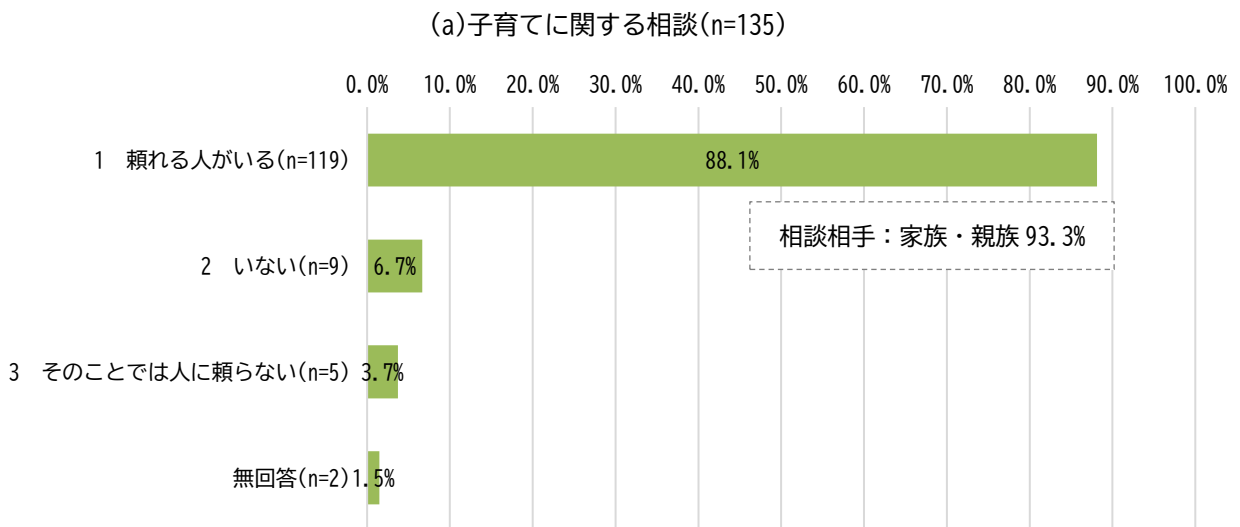
### 【保護者調査票】(a)子育てに関する相談

問17. あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

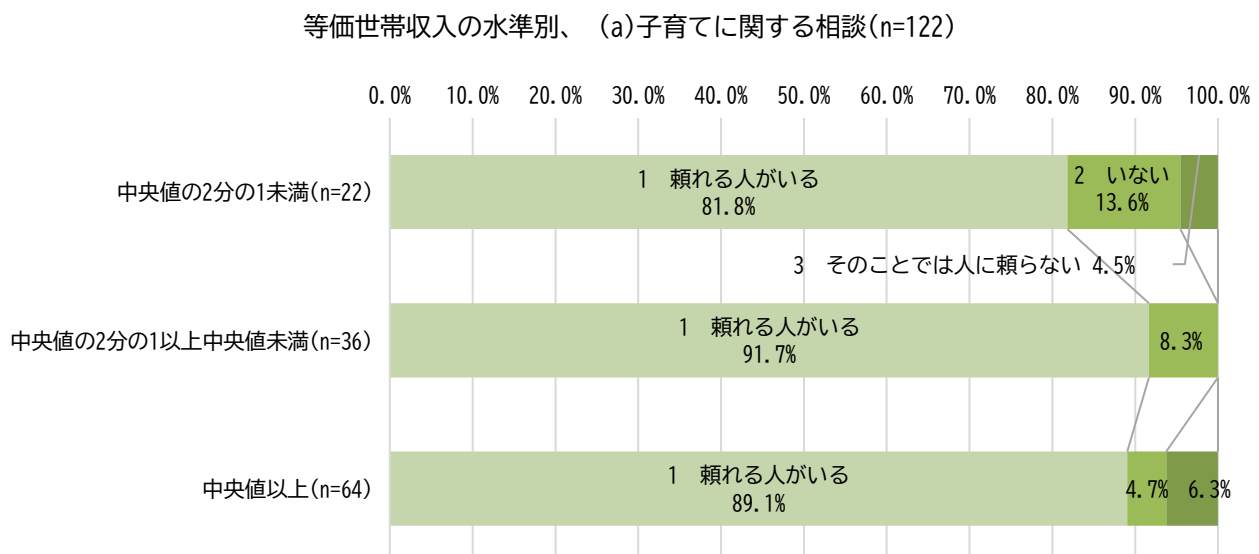
問18. 前問で「1 頼れる人がいる」と答えた場合、それは誰ですか。

子育てに関する相談について、「頼れる人がいる」は88.1%（国92.4%）、「いない」は6.7%（国3.9%）、「そのことでは人に頼らない」は3.7%（国2.9%）となっている。

また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、「家族・親族」が93.3%（国90.4%）と最も多い。

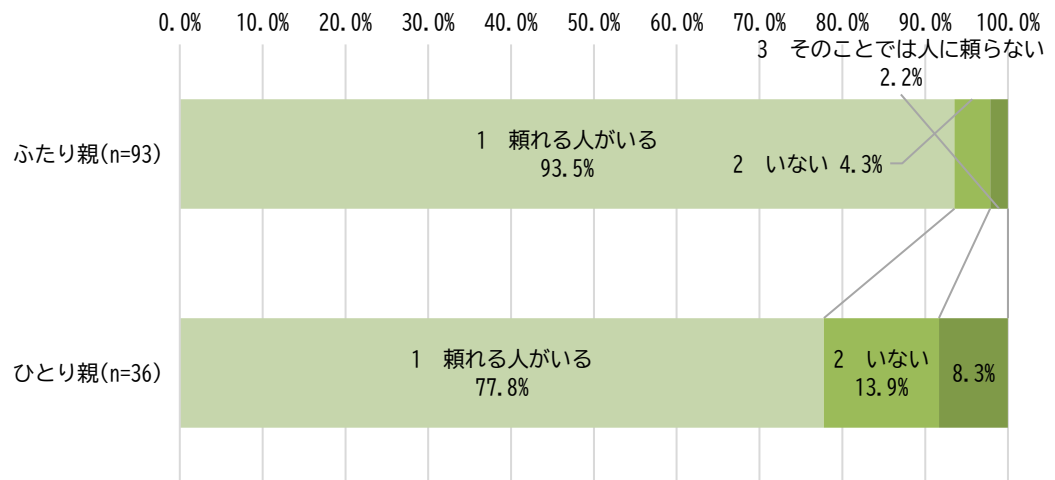


等価世帯収入の水準別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「中央値以上」の世帯では4.7%（国3.1%）、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では8.3%（国4.8%）、「中央値の2分の1未満」の世帯では13.6%（国5.1%）となっている。



世帯の状況別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「ふたり親世帯」では4.3%（国3.3%）、「ひとり親世帯」では13.9%（国7.7%）となっている。

世帯の状況別、(a)子育てに関する相談(n=129)



【保護者調査票】(b)重要な事柄(ことがら)の相談

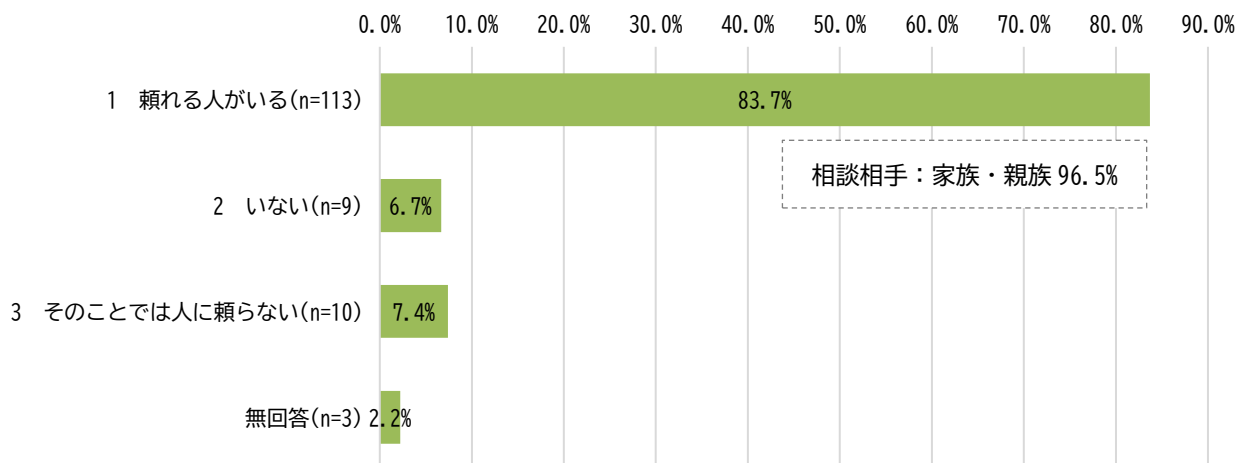
問17. あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

問18. 前問で「1 頼れる人がいる」と答えた場合、それは誰ですか。

重要な事柄の相談について、「頼れる人がいる」は83.7%（国90.7%）、「いない」は6.7%（国5.0%）、「そのことでは人に頼らない」は7.4%（国3.2%）となっている。

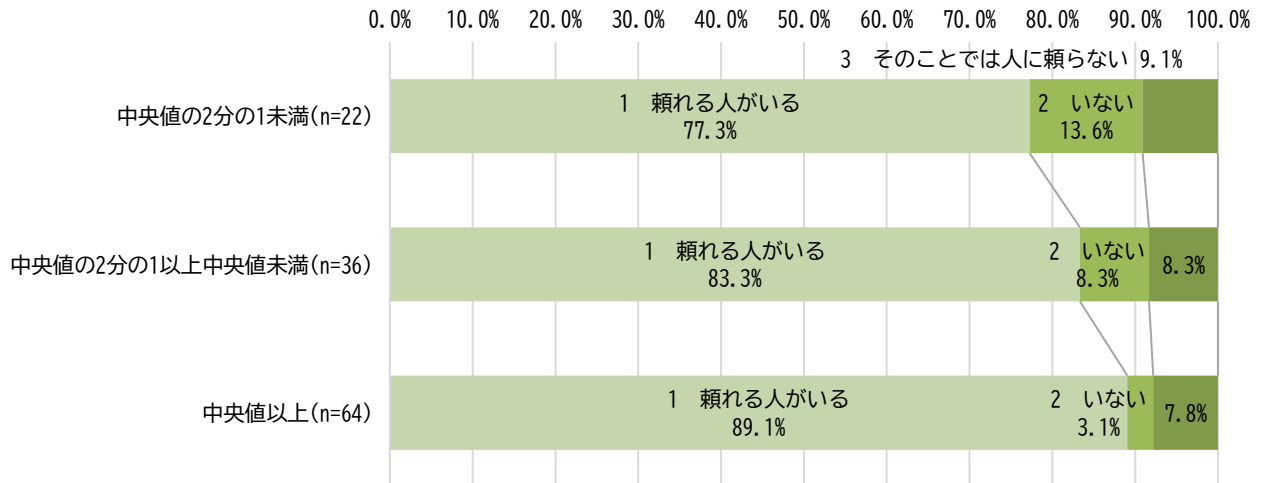
また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、「家族・親族」が（国95.5%）となっている。

(b)重要な事柄(ことがら)の相談(n=135)



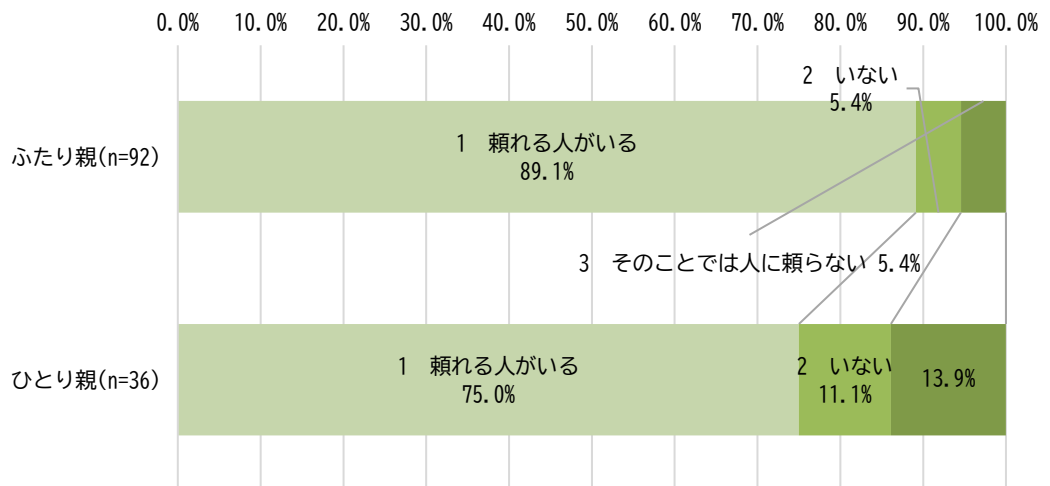
等価世帯収入の水準別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「中央値以上」の世帯では3.1%（国 3.6%）、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では8.3%（国 5.9%）、「中央値の2分の1未満」の世帯では13.6%（国 8.0%）となっている。

等価世帯収入の水準別、(b)重要な事柄(ことごと)の相談(n=122)



世帯の状況別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「ふたり親世帯」では5.4%（国 4.3%）、「ひとり親世帯」では11.1%（国 10.1%）となっている。

世帯の状況別、(b)重要な事柄(ことごと)の相談(n=128)



【保護者調査票】(c)いざという時のお金の援助

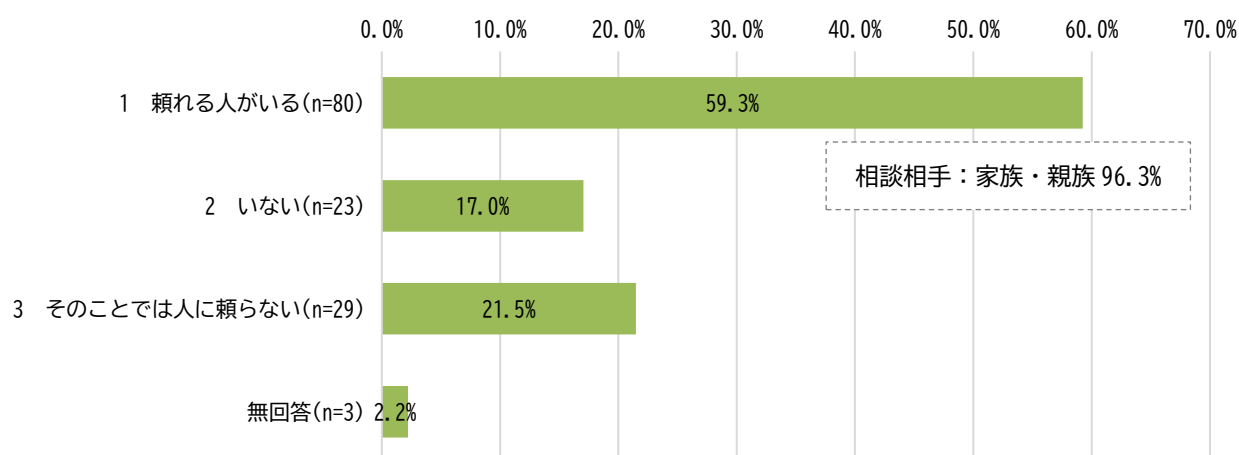
問17. あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

問18. 前問で「1 頼れる人がいる」と答えた場合、それは誰ですか。

いざという時のお金の援助について、「頼れる人がいる」は59.3% (国66.5%)、「いない」は17.0% (国13.3%)、「そのことでは人に頼らない」は21.5% (国18.8%)となっている。

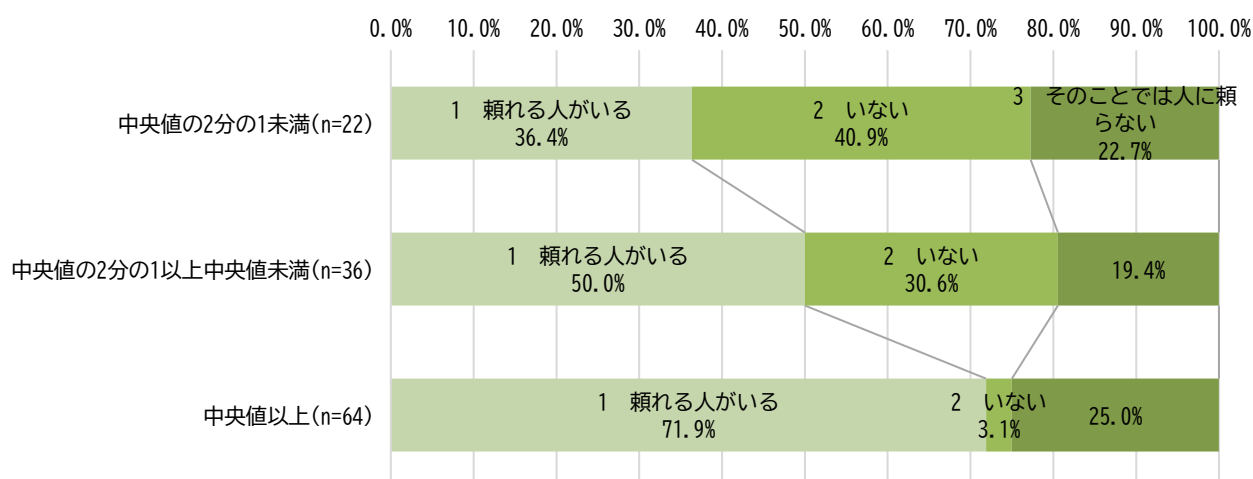
また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、「家族・親族」が96.3% (国98.0%)となっている。

(c)いざという時のお金の援助(n=135)



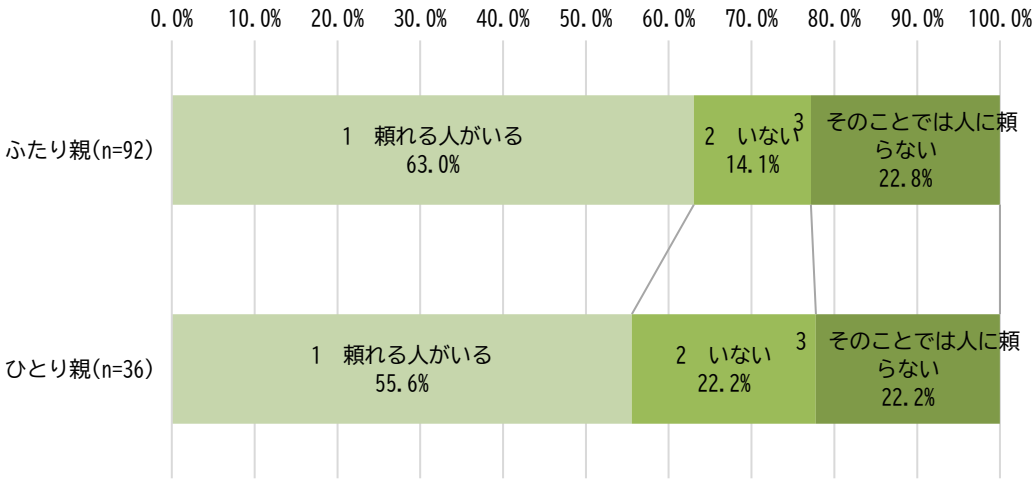
等価世帯収入の水準別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「中央値以上」の世帯では3.1% (国7.7%)、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では30.6% (国16.2%)、「中央値の2分の1未満」の世帯では40.9% (国27.7%)となっている。

等価世帯収入の水準別、(c)いざという時のお金の援助(n=122)



世帯の状況別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「ふたり親世帯」では14.1%（国10.9%）、「ひとり親世帯」では22.2%（国29.3%）となっている。

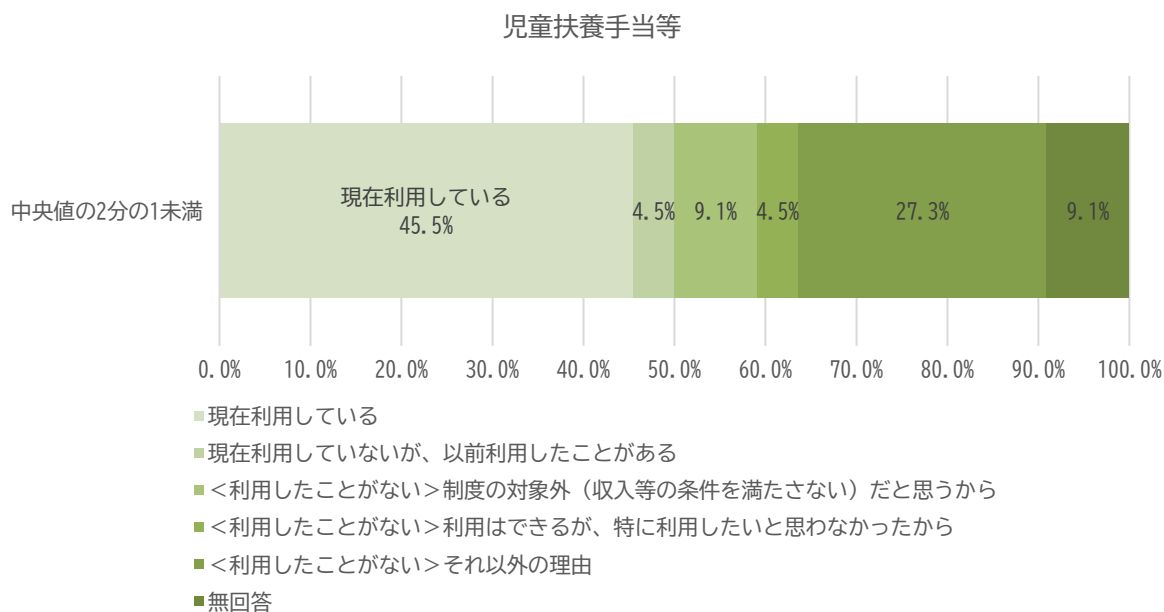
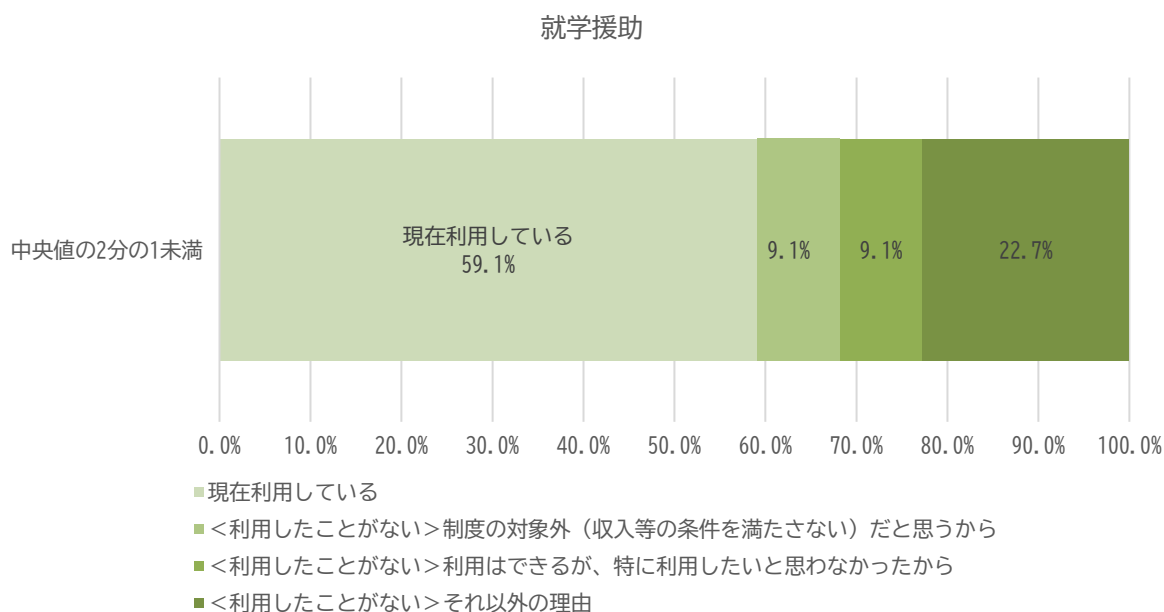
世帯の状況別、(c)いざという時のお金の援助(n=128)



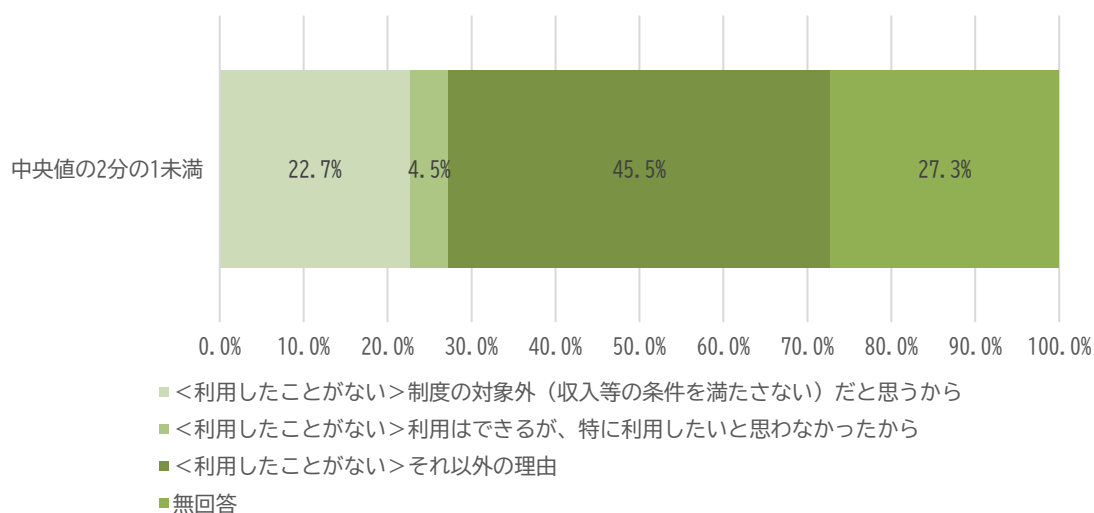
## ⑥支援制度の利用状況等

収入の水準がもっとも低い世帯（等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の世帯）の支援制度利用状況については、「就学援助」が59.1%（国58.6%）、「児童扶養手当」が45.5%（国46.2%）で、「生活保護」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」の利用割合はありません。

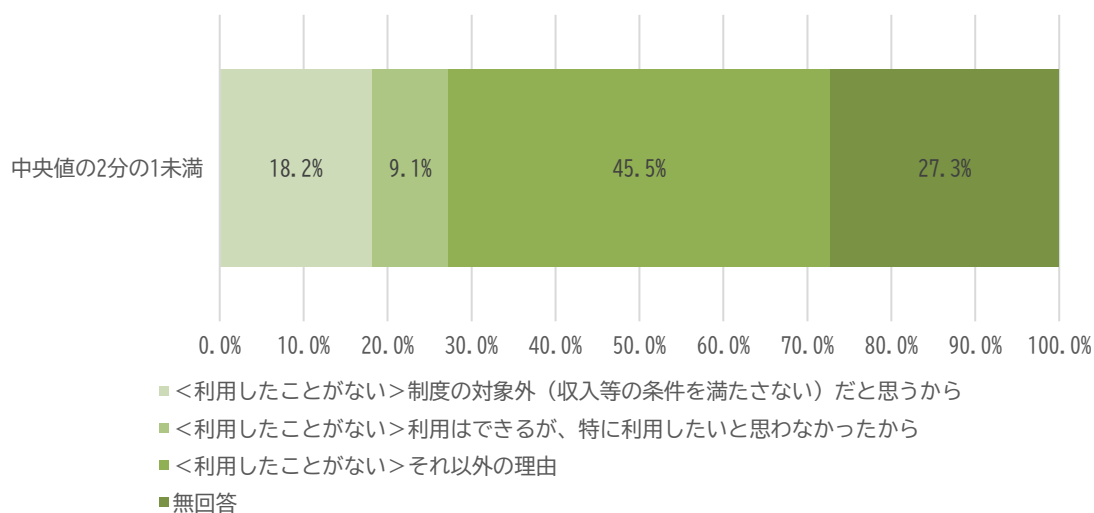
各支援制度を利用していない理由について、「母子家庭等就業・自立支援センター」に関しては、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた回答が4.5%となっている。



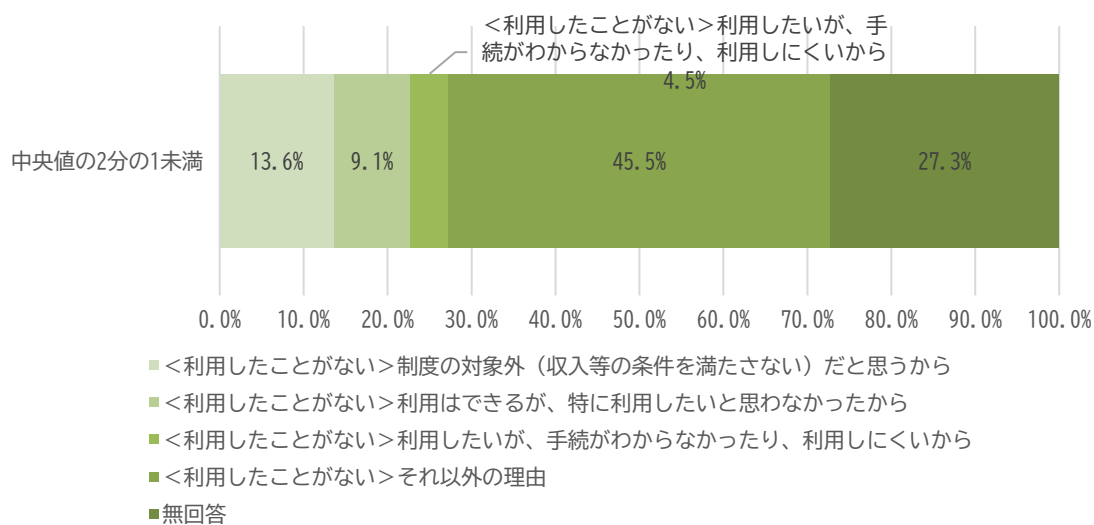
### 生活保護



### 生活困窮者の自立支援相談窓口



### 母子家庭等就業・自立支援センター



### (3) こどもの生活状況

#### 【小学5年生】

<b>学習習慣(学校外平日)</b> 自宅 68%・塾 29% 平均学習時間 61.7分 30分以上1時間未満 37% <P. 40, 41>	<b>進学意識</b> 高校 20%・短大・高専・専門 学校 29%・大学 18% <P. 42, 43>	<b>食生活</b> 朝食 83%・夕食 91% 休日の昼食 82% <P. 44>
<b>睡眠習慣</b> ほぼ同じ時間 20% どちらかといえばそうである 54.4% <P. 45>	<b>相談相手</b> 親 74%・友だち 61%・先生 37% <P. 46>	

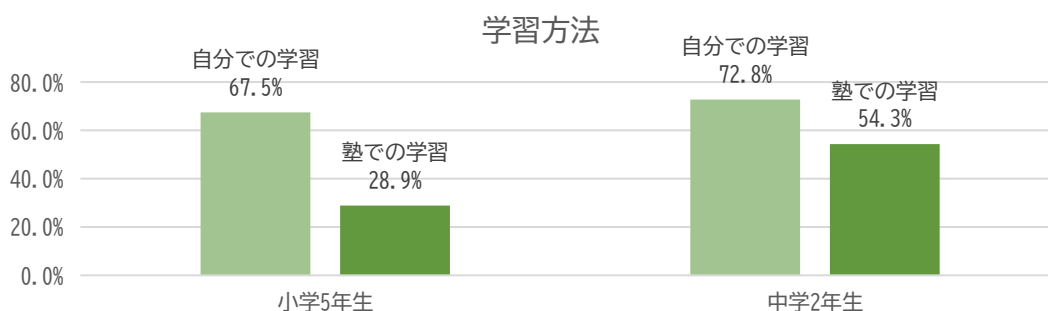
#### 【中学2年生】

<b>学習習慣(学校外平日)</b> 自宅 73%・塾 54% 平均学習時間 57.2分 1時間以上2時間未満 35%	<b>進学意識</b> 高校 26%・短大・高専・専門 学校 23%・大学 25%	<b>食生活</b> 朝食 75%・夕食 89% 休日の昼食 76%
<b>睡眠習慣</b> ほぼ同じ時間 19% どちらかといえばそうである 48.9%	<b>相談相手</b> 親 70%・友だち 72%・先生 22%	<b>部活動・クラブ活動</b> 参加 92% 未参加理由:多忙・希望部なし <P. 43>

#### ①学習や進路の状況

##### ア) 学習方法

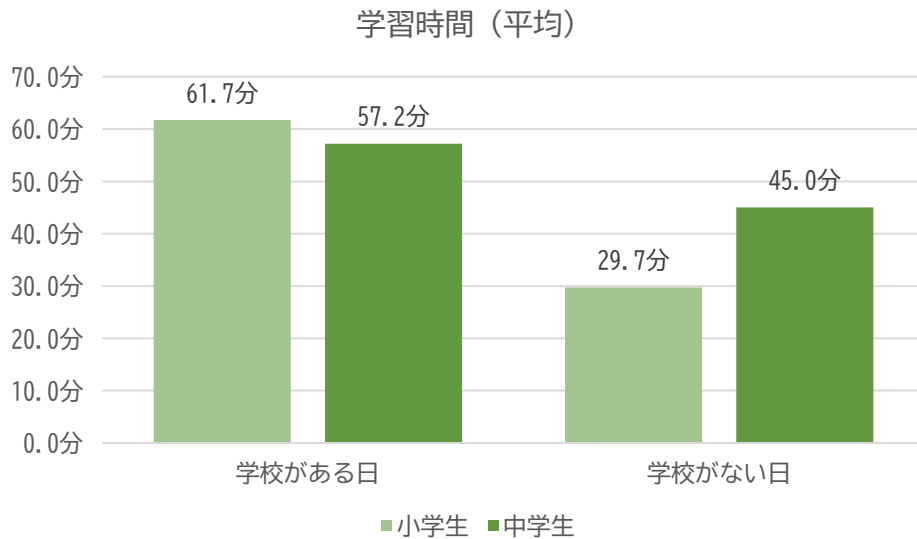
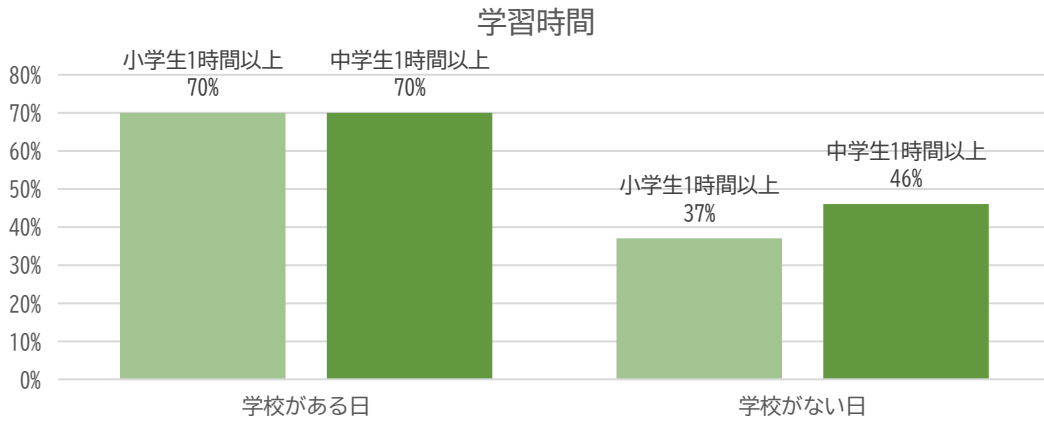
小学5年生と中学2年生の大部分は自分で勉強しています（それぞれ67.5%と72.8%）。塾での学習は中学生の方が高く、中学生の54.3%が塾で学習しているのに対し、小学生は28.9%です。



## イ) 学習時間

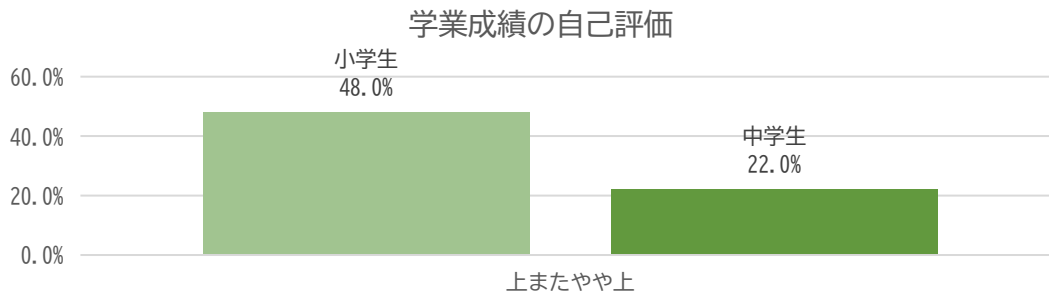
学校がある日には、中学生と小学生の約70%が1時間以上勉強しています。一方、学校がない日には、その比率は小学生で約37%、中学生で約46%に下がります。

学習時間の平均は、学校がある日には小学生が61.7分、中学生が57.2分。一方、学校がない日には、その時間は小学生で29.7分、中学生で45.0分に下がります。



## ウ) 学業成績

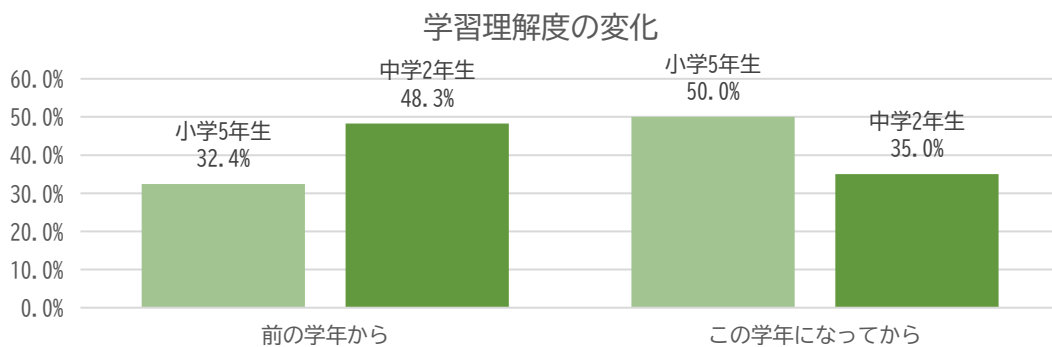
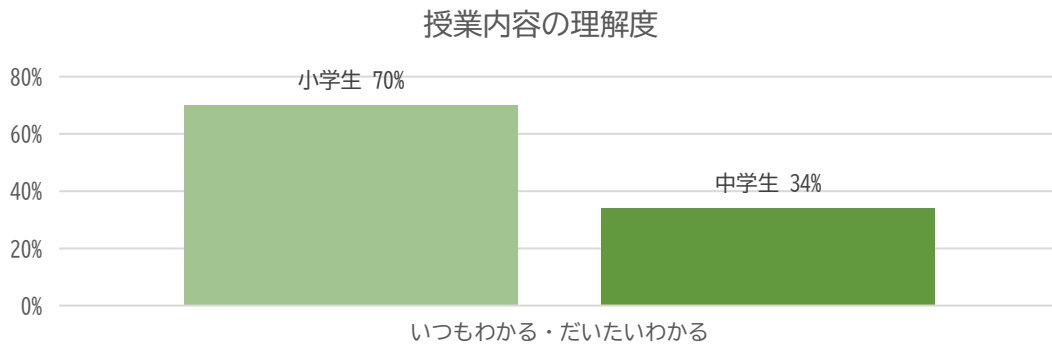
自己評価によれば、学業成績は中学生よりも小学生の方が高いと感じています。小学生の約48%が「上」または「やや上」を選択したのに対し、中学生は約22%です。



## 工) 授業理解度

授業内容の理解度は中学生の方が低く、小学生の約70%が「いつもわかる」または「だいたいわかる」と答えたのに対し、中学生は約34%です。

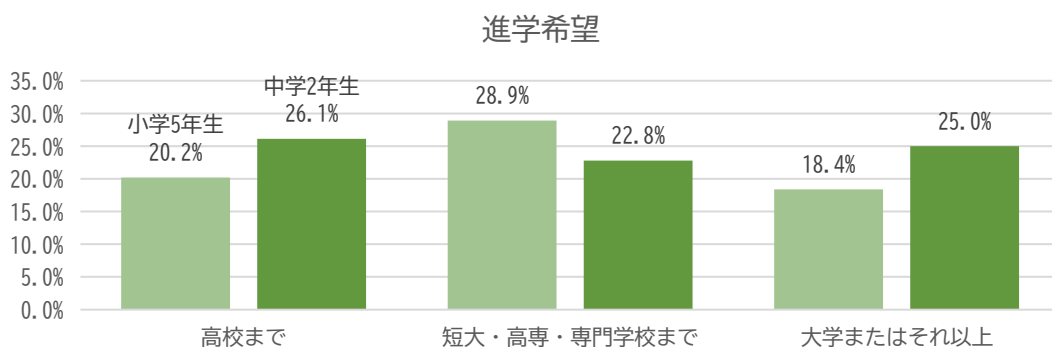
「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた児童生徒については、小学5年生では、「4年生のころ」から理解できないと感じる子供が32.4%、「5年生になってから」が50.0%でした。中学2年生では、「中学1年生のころ」から理解できないと感じる子供が48.3%、「中学2年生になってから」が35.0%となっています。

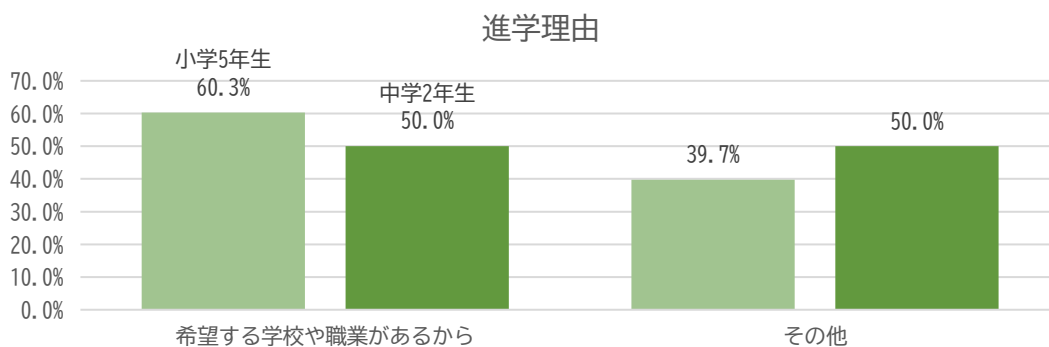


## オ) 進学予定と理由

小学生と中学生の進学意欲は似ており、「高校まで」、「短大・高専・専門学校まで」、「大学またはそれ以上」を希望する児童生徒がそれぞれ20.2%、28.9%、18.4%（小学生）と26.1%、22.8%、25.0%（中学生）です。

進学理由として最も多かったのは「希望する学校や職業があるから」で、小学生の60.3%と中学生の50.0%がこの理由を選んでいきます。

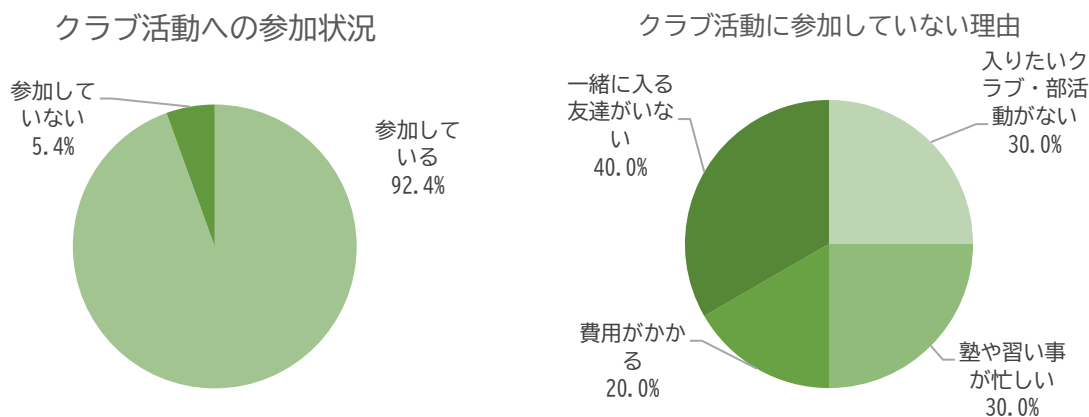




## ②スポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動の参加状況

92人のうち、85人（92.4%）が地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加しています。

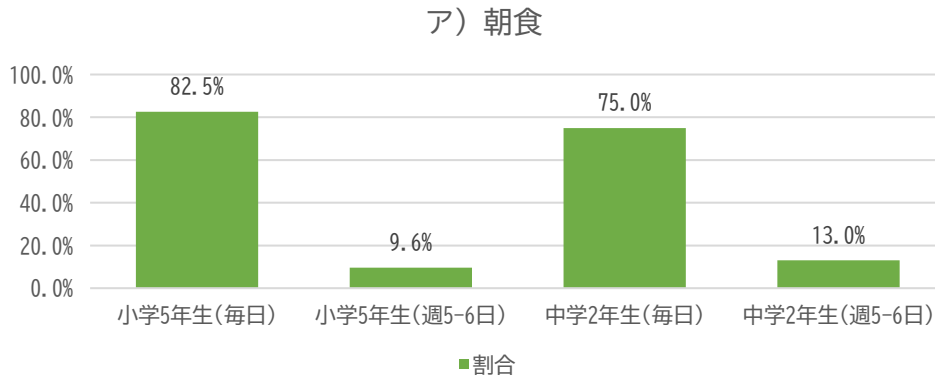
参加していない児童生徒は全体の5.4%で、その理由としては、「入りたいクラブ・部活動がないから」、「塾や習い事が忙しいから」が最も多く60.0%を占めています。また、「費用がかかるから」が20.0%、「一緒に入る友達がいないから」という理由が40.0%となっており、活動の存在や時間、費用、友人関係などが参加に影響を与えていることがわかります。



### ③食事や睡眠習慣の状況

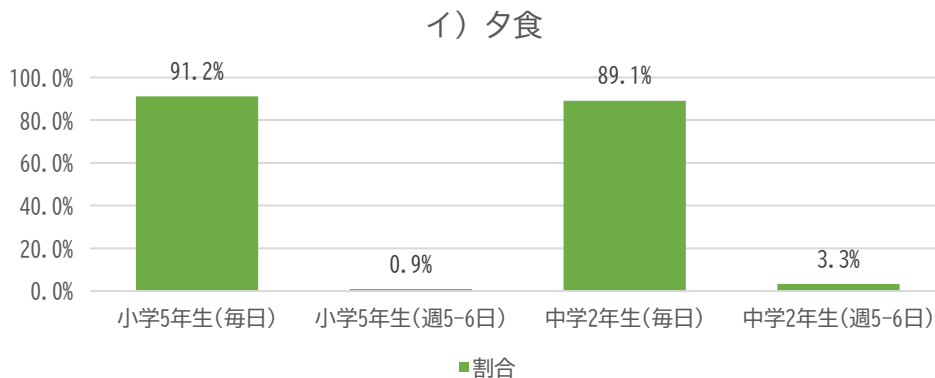
#### ア) 朝食

小学5年生の82.5% (94人)と中学2年生の75.0% (69人)が毎日食べています。週5~6日食べる子供も小学生は9.6% (11人)、中学生は13.0% (12人)います。



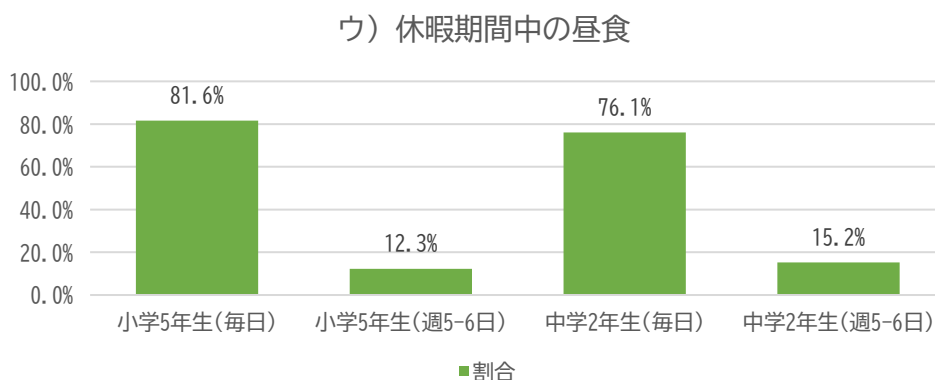
#### イ) 夕食

夕食については、毎日食べる子供が更に多く、小学5年生では91.2% (104人)、中学2年生では89.1% (82人)です。夕食を週5~6日食べる子供は小学生の0.9% (1人)、中学生の3.3% (3人)です。



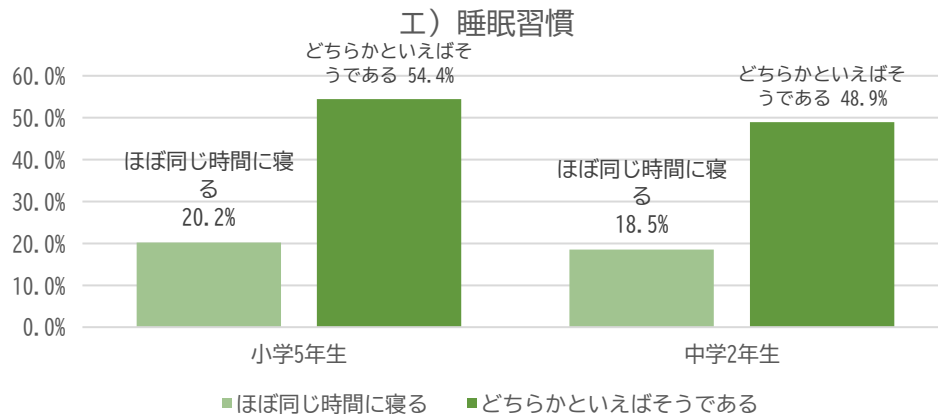
#### ウ) 夏休みや冬休みなどの休暇期間中の昼食

小学5年生の81.6% (93人)と中学2年生の76.1% (70人)が毎日食べています。休暇期間中に週5~6日昼食を食べる子供は、小学生では12.3% (14人)、中学生では15.2% (14人)です。



## 工) 睡眠習慣

小学5年生の20.2% (23人)と中学2年生の18.5% (17人)が「ほぼ同じ時間に寝る」と回答しました。一方、「どちらかといえばそうである」と回答した子供は、小学生では54.4% (62人)、中学生では48.9% (45人)です

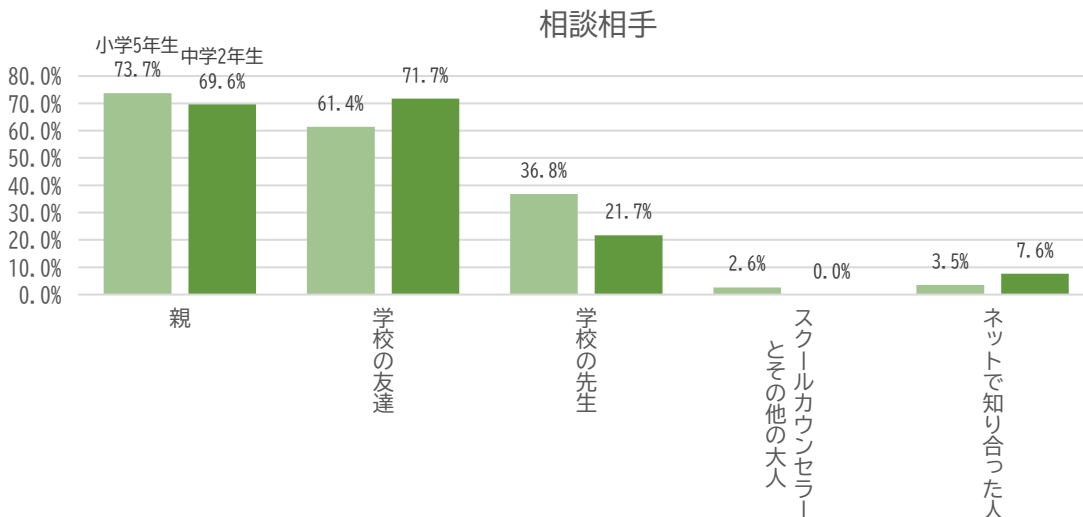


#### ④悩み事や相談相手、生活満足度

##### ア) 困っていることや悩みごとがあるとの相談相手

子どもたちが主に親や学校の友達に相談する傾向にあること、そして年齢が上がるにつれて友達に相談する割合が高まり、学校の先生や他の大人に相談する割合が減少する傾向にあることが読み取れます。

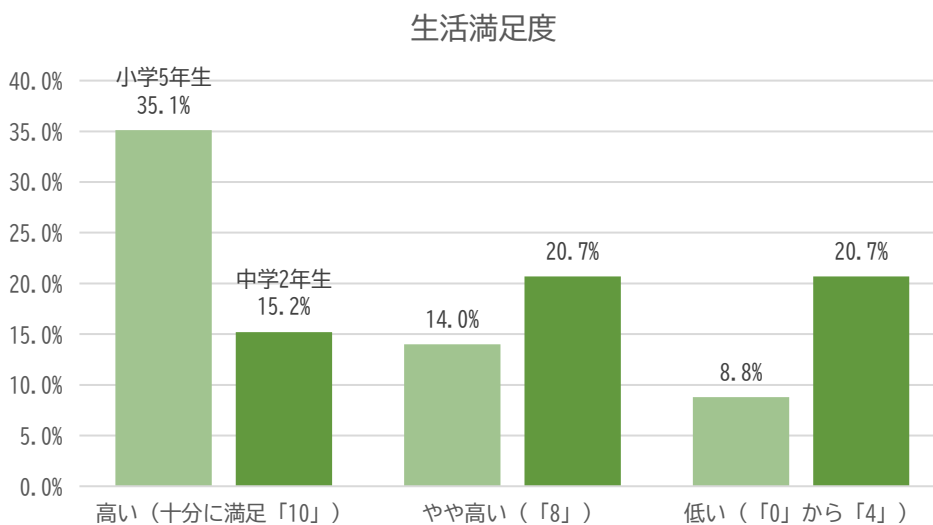
また、インターネットを通じた相談が少数ながら存在し、特に中学生で増加している点は、デジタル時代の子どもたちの相談行動の変化を示唆しています。



##### イ) 生活満足度

十分に満足[10]の割合は小学5年生では40人(35.1%)が生活に十分に満足していると答えたのに対し、中学2年生ではその割合が15.2%に減少しています。

やや高い「7」や「8」の満足度を示した回答者の割合は、中学2年生の方が小学5年生よりも高く、特に「8」では中学生が20.7%、小学生が14.0%です。「0」から「4」の低い満足度を示した回答者は、中学2年生の方が小学5年生よりも多い傾向にあります。

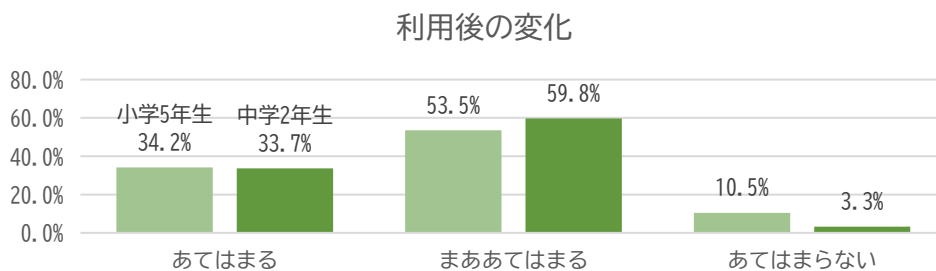


## ⑤対人関係、感情や行動

### ア) 他人に対する親切性

小学5年生の大半(53.5%)は「まああてはまる」と回答し、34.2%が「あてはまる」と感じています。これに対して、「あてはまらない」と答えたのは10.5%に留まります。

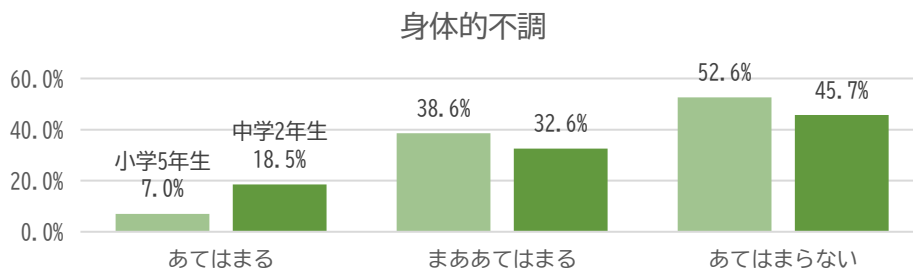
中学2年生においても、59.8%が「まああてはまる」と回答しており、「あてはまる」と感じる割合(33.7%)も小学5年生と似ています。しかし、「あてはまらない」と答えたのはわずか3.3%です。



### イ) 身体的不調の経験

小学5年生の約半数(52.6%)が「あてはまらない」と回答し、38.6%が「まああてはまる」と答えています。身体的不調を頻繁に経験していると答えたのは7%です。

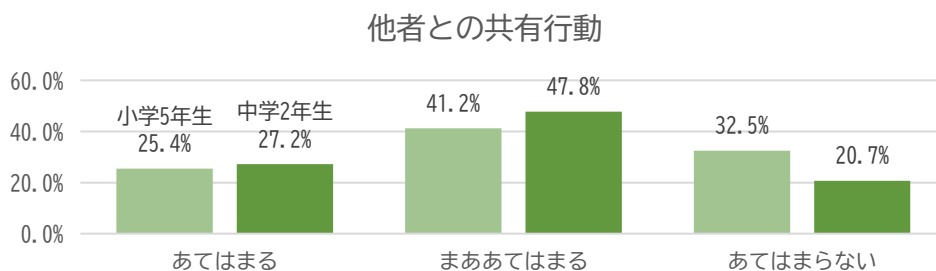
中学2年生はより高い割合で身体的不調を報告しており、45.7%が「あてはまらない」と回答、32.6%が「まああてはまる」、18.5%が「あてはまる」と答えています。



### ウ) 他者との共有行動

小学5年生では、32.5%が「あてはまらない」と回答し、41.2%が「まああてはまる」と感じ、25.4%が「あてはまる」と答えています。

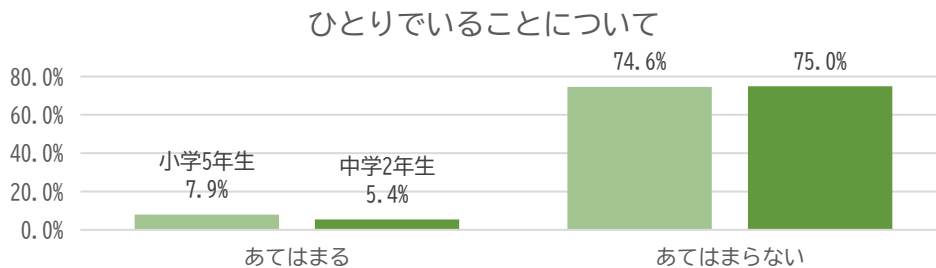
中学2年生の回答では、「あてはまらない」が20.7%、「まああてはまる」が47.8%、「あてはまる」が27.2%となっています。



## エ) ひとりでいることについて

小学5年生：大多数の74.6%が「一人でいることがあてはまらない」と答え、少数派の7.9%が「あてはまる」と感じています。

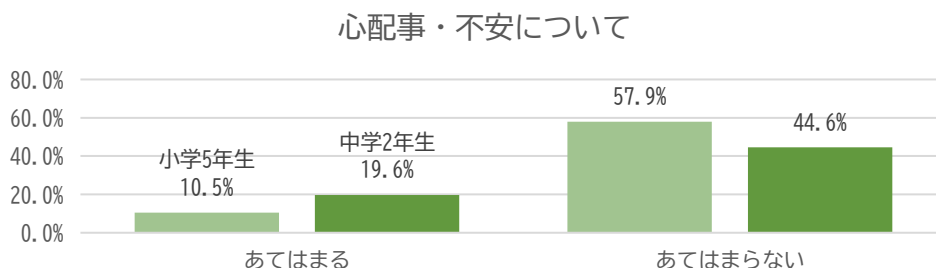
中学2年生：75.0%が「一人でいることがあてはまらない」と回答し、5.4%が「あてはまる」と答えました。中学生の方が若干、一人でいることに対して否定的な見解を持っていますが、大きな違いはありません。



## オ) 心配事・不安について

小学5年生：57.9%が「心配事や不安があてはまらない」と回答し、10.5%が「あてはまる」と答えました。

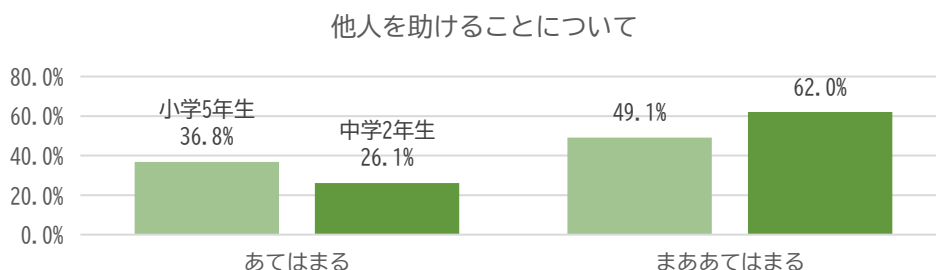
中学2年生：44.6%が「心配事や不安があてはまらない」と回答し、19.6%が「あてはまる」と感じています。これは、中学生が小学生よりも不安や心配事を抱えやすいことを示しています。



## カ) 他人を助けることについて

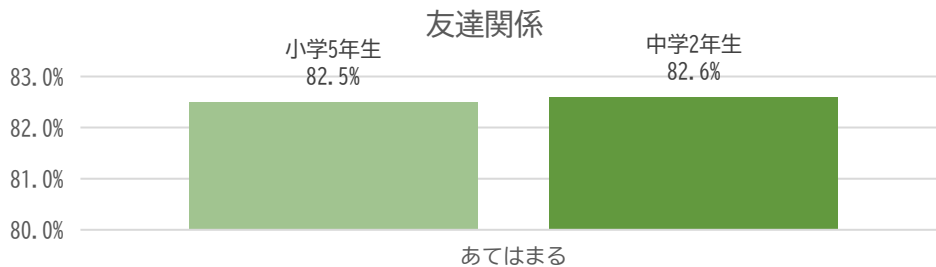
小学5年生：49.1%が「まああてはまる」と回答し、36.8%が「あてはまる」と感じています。これは、小学生の間で他人を助ける意欲が比較的高いことを示しています。

中学2年生：62.0%が「まああてはまる」と答え、26.1%が「あてはまる」と回答しました。中学生は小学生と比べて、他人を助けることに関してより積極的な姿勢を示しているようですが、「あてはまる」と強く感じている割合はやや低いです。



### キ) 友達関係

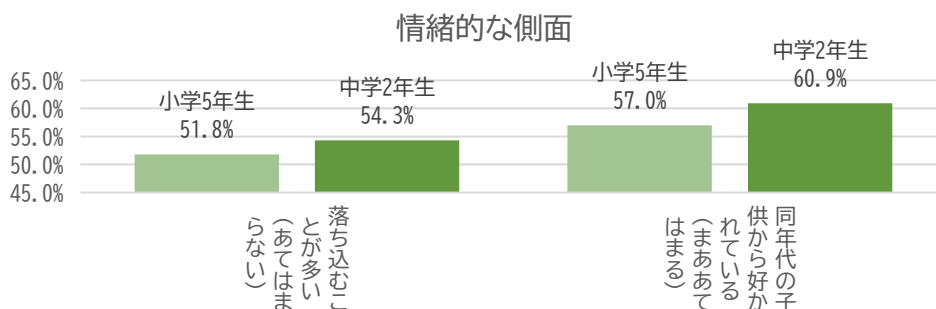
仲の良い友達の有無については、大多数の小学5年生（82.5%）と中学2年生（82.6%）が「あてはまる」と回答し、友達関係は比較的安定していることが示唆される。



### ク) 情緒的な側面

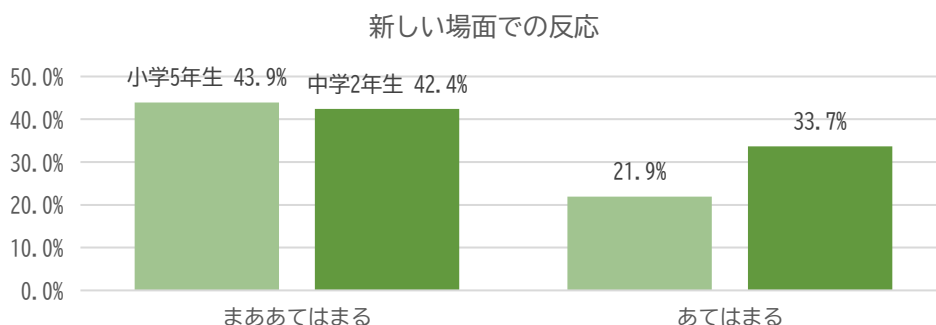
落ち込むことが多いかに関しては、小学5年生の半数以上（51.8%）、中学2年生も半数以上（54.3%）が「あてはまらない」と回答し、これらの年齢層では比較的ポジティブな心理状態にあることがわかる。

同年代の子供から好かれているかは、小学5年生では「まああてはまる」との回答が57.0%、中学2年生では60.9%となっており、多くの児童生徒が同年代の子供たちからある程度は好意を持たれていると感じている。



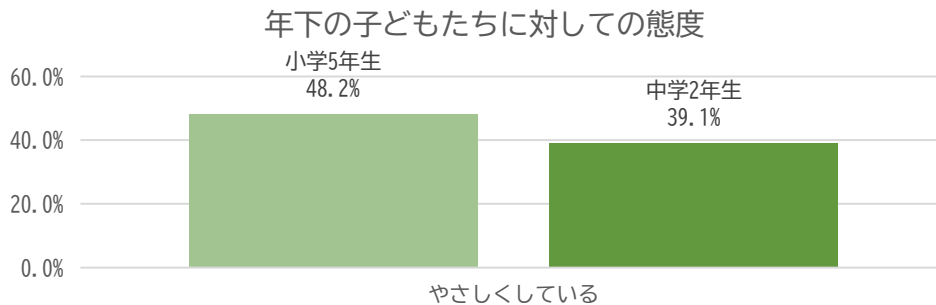
### ケ) 新しい場面での反応

新しい場面に直面した際の不安感については、小学5年生の中で「まああてはまる」が43.9%、「あてはまる」が21.9%と、多くの児童が新しい環境や状況に対して不安を感じる傾向にあることが分かる。中学2年生では、不安を感じる割合がさらに高く（「まああてはまる」42.4%、「あてはまる」33.7%）、年齢が上がるにつれて新しい環境や状況に対する不安感が高まる傾向が見られる。



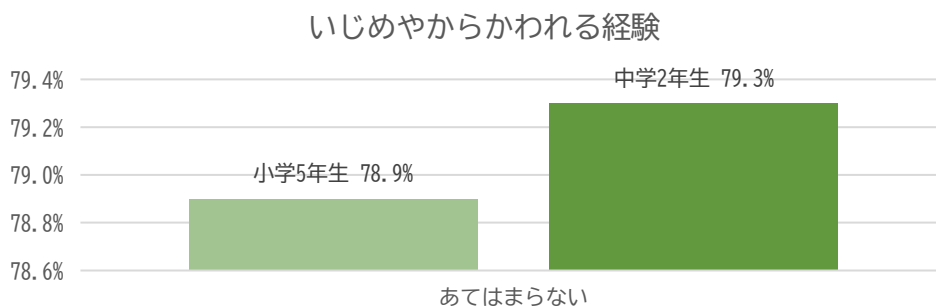
## コ) 年下の子どもたちに対する態度

小学5年生の約48.2%が自分は年下の子どもたちに対してやさしくしていると回答し、中学2年生ではこの割合が39.1%であった。これは、年齢が上がるにつれて、自分より年下の子どもたちに対するやさしさを自認する割合が若干減少することを示唆しているかもしれません。



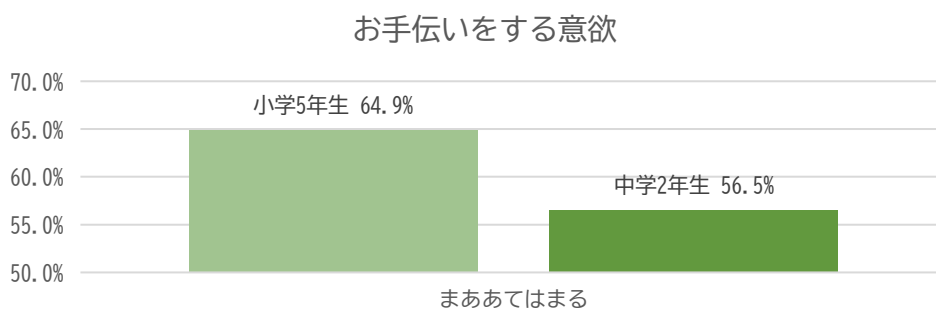
## サ) いじめやからかわれる経験

いじめられたりからかわれたりする経験については、78.9%の小学5年生と79.3%の中学2年生が「あてはまらない」と回答しており、この問題が両グループともに比較的少ないことが示されています。



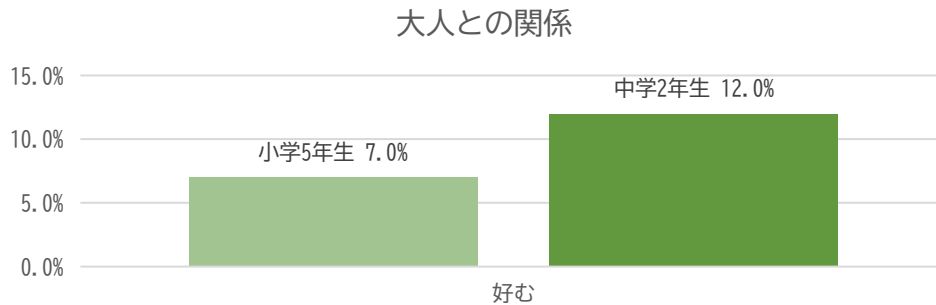
## シ) お手伝いをする意欲

自分から進んでよくお手伝いをするという質問に対しては、小学5年生の64.9%が「まああてはまる」と回答し、中学2年生では56.5%がそう答えました。これは年齢が上がるにつれて、お手伝いをする意欲が若干減少する傾向にあることを示している可能性があります。



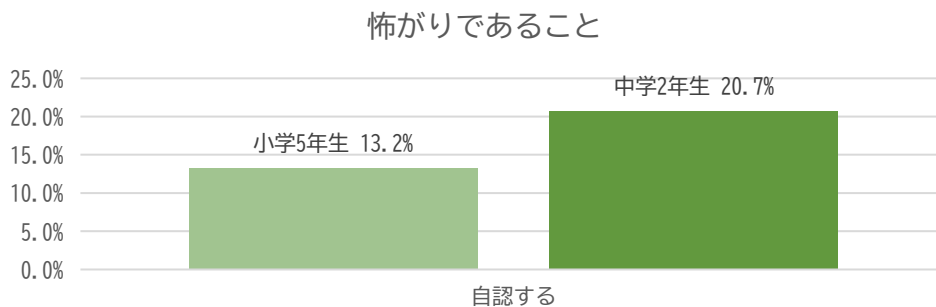
## ス) 大人との関係

他の子どもたちより大人という方がうまくいくと感じる子どもたちの割合は、小学5年生で7.0%、中学2年生で12.0%であり、年齢が上がるにつれて大人との関係を好む子どもたちが増える傾向にあることが示唆されます。



## セ) 怖がりであること

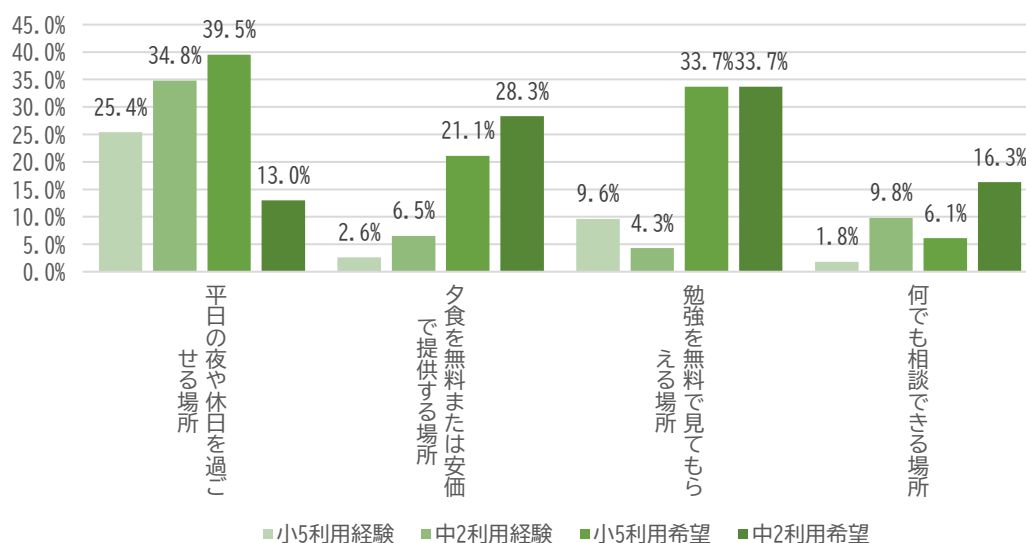
こわがりで、すぐにおびえたりする」と自認する子どもたちの割合は、小学5年生で13.2%、中学2年生で20.7%であり、中学生になると自分を怖がりだと感じる子どもが増えることがわかります。



## ⑥各種支援の利用状況

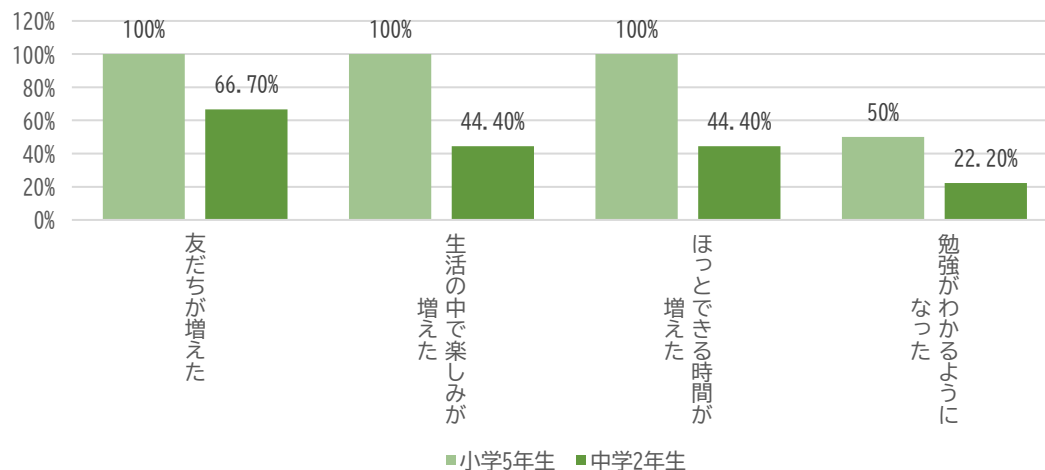
中学2年生は小学5年生よりも平日の夜や休日を過ごせる場所の利用経験が高いですが、利用したいと考える割合は小学生の方が中学生よりも高く、利用したくないと考える割合が中学生の方が高いです。無料または安価で夕食を提供する場所の利用経験は全体的に低いですが、中学生の方が若干高く、両グループとも利用したいと考える割合は20%以上です。勉強を無料で見てもらえる場所の利用経験は低いものの、中学2年生が利用したいと考える割合は高いです。

各種支援の利用状況・意向



小学5年生2名と中学2年生9名のフィードバックによると、友だちが増えたと回答したのは小学生全員（100%）と中学生の66.7%、生活の中で楽しみが増えたのは小学生全員（100%）と中学生の44.4%、ほっとできる時間が増えたのは小学生全員（100%）と中学生の44.4%、勉強がわかるようになったとは小学生の半数（50%）と中学生の22.2%です。

利用後の変化



## 【2】保護者の調査結果

1 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(あてはまるもの1つ選択)

※この調査で「お子さん」とは、調査対象となる小学5年生又は中学2年生のお子さんのことをいいます。以下同じ。

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 母親(継母を含む。)	116	85.9%
2 父親(継父を含む。)	18	13.3%
3 祖父母	0	0.0%
4 その他	1	0.7%
無回答	0	0.0%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもを持つ保護者135人から得たものです。それぞれの保護者が自身と子どもとの関係性を選択した結果は以下の通りです。
- 母親(継母を含む)：回答者の85.9%(116人)。
- 父親(継父を含む)：回答者の13.3%(18人)。
- 祖父母：この選択肢を選んだ回答者はいませんでした(0.0%、0人)。
- その他：回答者の0.7%(1人)がこの選択肢を選びました。

2 あなたがお住まいの中学校の学区を教えてください。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 笠田中学校	90	66.7%
2 妙寺中学校	45	33.3%
無回答	0	0.0%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもを持つ保護者135人に対し、お住まいの中学校の学区について尋ねました。その結果は以下の通りです。
- 笠田中学校：回答者の66.7%（90人）がこの学区に住んでいると回答しました。
- 妙寺中学校：回答者の33.3%（45人）がこの学区に住んでいると回答しました。

3 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数（お子さんを含む。）を教えてください。単身赴任中の方は含めないでください。

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
2人	1	0.7%
3人	9	6.7%
4人	64	47.4%
5人	36	26.7%
6人	13	9.6%
7人	7	5.2%
8人	2	1.5%
無回答	3	2.2%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている家族の人数（子どもを含む）について、保護者135人に尋ねました。結果は以下の通りです。
- 2人：回答者の0.7%（1人）
- 3人：回答者の6.7%（9人）
- 4人：回答者の47.4%（64人）
- 5人：回答者の26.7%（36人）
- 6人：回答者の9.6%（13人）
- 7人：回答者の5.2%（7人）
- 8人：回答者の1.5%（2人）
- 無回答者は2.2%（3人）でした。
- この結果から、回答者の大半（47.4%）が4人家族であることが明らかになりました。また、5人家族もまた、相当数（26.7%）を占めています。無回答者は全体の2.2%です。

4 前問で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。(あてはまるものすべて選択)

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 母親	118	87.4%
2 父親	104	77.0%
3 祖父母	22	16.3%
4 兄弟姉妹	110	81.5%
5 その他	1	0.7%
無回答	1	0.7%
合計	356	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている家族の中で、子どもから見た関係性について保護者135人に尋ねました。結果は以下の通りです。
- 母親：回答者の87.4%（118人）
- 父親：回答者の77.0%（104人）
- 祖父母：回答者の16.3%（22人）
- 兄弟姉妹：回答者の81.5%（110人）
- その他：回答者の0.7%（1人）
- 無回答者は0.7%（1人）でした。
- 全回答数は356件で、複数回答可能な質問だったため、回答者1人あたり平均約2.6回答でした。この結果から、大半の家族が母親、父親、兄弟姉妹と共に生活していることが明らかになりました。祖父母と同居している家庭は少数で、その他の関係の人と同居している家庭はほとんどありませんでした。

5 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 結婚している(再婚や事実婚を含む。)	118	87.4%
2 離婚	15	11.1%
3 死別	0	0.0%
4 未婚	0	0.0%
5 いない、わからない	0	0.0%
無回答	2	1.5%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況について、保護者135人に尋ねました。結果は以下の通りです。
- 結婚している(再婚や事実婚を含む)：回答者の87.4%(118人)
- 離婚：回答者の11.1%(15人)
- 死別：回答者の0.0%(0人)
- 未婚：回答者の0.0%(0人)
- いない、わからない：回答者の0.0%(0人)
- 無回答者は1.5%(2人)でした。
- この結果から、大多数の保護者(87.4%)が結婚しており、一部の保護者(11.1%)が離婚していることが明らかになりました。死別、未婚、または該当しない、またはわからないという回答はありませんでした。無回答者は全体の1.5%でした。

6 前問で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	保護者(n=15)	
	回答数	選択率
1 取り決めをしており、養育費を受け取っている	7	46.7%
2 特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている	1	6.7%
3 養育費の取り決めをしているが、受け取っていない	1	6.7%
4 養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない	6	40.0%
無回答	0	0.0%
合計	15	

- 離婚した保護者 15 人に対して、離婚相手と子供の養育費の取り決めおよび養育費の受け取り状況について尋ねました。結果は以下の通りです。
- 取り決めをしており、養育費を受け取っている：46.7% (7人)
- 特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている：6.7% (1人)
- 養育費の取り決めをしているが、受け取っていない：6.7% (1人)
- 養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない：40.0% (6人)
- 無回答者は0.0% (0人) でした。
- これらの結果から、離婚した保護者の約半数(46.7%)が養育費の取り決めを行い、養育費を受け取っていることが明らかになりました。また、40.0%の保護者は養育費の取り決めも受け取りもしていない状況で、特に取り決めをせずに養育費を受け取っているケースや、取り決めをしているにも関わらず養育費を受け取れていないケースは各6.7%と比較的少数でした。

7 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 日本語のみを使用している	130	96.3%
2 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	3	2.2%
3 日本語以外の言語を使うことが多い	0	0.0%
無回答	2	1.5%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている親の135人に対して、日本語以外の言語の使用状況について尋ねました。結果は以下の通りです。
- 日本語のみを使用している：96.3%（130人）
- 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い：2.2%（3人）
- 日本語以外の言語を使うことが多い：0.0%（0人）
- 無回答者は1.5%（2人）でした。
- この結果から、ほぼ全ての保護者（96.3%）が日本語のみを使用しています。日本語以外の言語も使用しているが、日本語の使用が多いと答えたのは僅か2.2%（3人）でした。日本語以外の言語を主に使用している保護者はいませんでした。全体の1.5%が無回答でした。

8 お子さんの親の最終学歴（卒業した学校）をお答えください。（a、b それぞれについて、あてはまるもの1つ選択）

## a)母親

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 中学（中学部）まで	9	6.7%
2 高校（高等部）まで	42	31.1%
3 短大・高専・専門学校（専攻科）まで	55	40.7%
4 大学またはそれ以上	25	18.5%
5 いない、わからない	0	0.0%
無回答	4	3.0%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている親の135人に対して、母親の最終学歴について尋ねました。結果は以下の通りです。
- 中学（中学部）まで：6.7%（9人）
- 高校（高等部）まで：31.1%（42人）
- 短大・高専・専門学校（専攻科）まで：40.7%（55人）
- 大学またはそれ以上：18.5%（25人）
- いない、わからない：0.0%（0人）
- 無回答者は3.0%（4人）でした。
- これらの結果から、母親の最終学歴が「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の家庭が最も多く、40.7%を占めました。次いで「高校（高等部）まで」が31.1%、「大学またはそれ以上」が18.5%、「中学（中学部）まで」が6.7%でした。母親がいない、または最終学歴がわからないと回答した家庭はありませんでした。全体の3.0%が無回答でした。

## b)父親

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 中学（中学部）まで	3	2.2%
2 高校（高等部）まで	43	31.9%
3 短大・高専・専門学校（専攻科）まで	28	20.7%
4 大学またはそれ以上	39	28.9%
5 いない、わからない	1	0.7%
無回答	21	15.6%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている親の135人に対して、父親の最終学歴について尋ねました。結果は以下の通りです。
- 中学（中学部）まで：2.2%（3人）
- 高校（高等部）まで：31.9%（43人）
- 短大・高専・専門学校（専攻科）まで：20.7%（28人）
- 大学またはそれ以上：28.9%（39人）
- いない、わからない：0.7%（1人）
- 無回答者は15.6%（21人）でした。
- これらの結果から、父親の最終学歴が「高校（高等部）まで」の家庭が最も多く、31.9%を占めました。次いで「大学またはそれ以上」が28.9%、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が20.7%、「中学（中学部）まで」が2.2%でした。「父親がいない、または最終学歴がわからない」と回答した家庭は0.7%（1人）でした。全体の15.6%が無回答でした。

9 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。(a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つ選択)

## a)母親

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 正社員・正規職員・会社役員	31	23.0%
2 嘱託・契約社員・派遣職員	3	2.2%
3 パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	64	47.4%
4 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)	21	15.6%
5 働いていない(専業主婦/主夫を含む。)	13	9.6%
6 いない、わからない	0	0.0%
無回答	3	2.2%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている親の135人に対して、母親の就労状況について尋ねました。結果は以下の通りです。
- 正社員・正規職員・会社役員：23.0% (31人)
- 嘱託・契約社員・派遣職員：2.2% (3人)
- パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員：47.4% (64人)
- 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)：15.6% (21人)
- 働いていない(専業主婦/主夫を含む)：9.6% (13人)
- いない、わからない：0.0% (0人)
- 無回答者は2.2% (3人)でした。
- これらの結果から、母親の就労状況は「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が最も多く、47.4%を占めました。次いで「正社員・正規職員・会社役員」が23.0%、「自営業」が15.6%、「働いていない(専業主婦/主夫を含む)」が9.6%、「嘱託・契約社員・派遣職員」が2.2%でした。「母親がいない、または就労状況がわからない」と回答した家庭は0人でした。全体の2.2%が無回答でした。

## b)父親

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 正社員・正規職員・会社役員	93	68.9%
2 嘱託・契約社員・派遣職員	0	0.0%
3 パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	1	0.7%
4 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)	23	17.0%
5 働いていない(専業主婦/主夫を含む。)	0	0.0%
6 いない、わからない	3	2.2%
無回答	15	11.1%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている親の135人に対して、父親の就労状況について尋ねました。結果は以下の通りです。
- 正社員・正規職員・会社役員：68.9% (93人)
- 嘱託・契約社員・派遣職員：0.0% (0人)
- パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員：0.7% (1人)
- 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)：17.0% (23人)
- 働いていない(専業主婦/主夫を含む)：0.0% (0人)
- いない、わからない：2.2% (3人)
- 無回答者は11.1% (15人)でした。
- これらの結果から、父親の就労状況は「正社員・正規職員・会社役員」が最も多く、68.9%を占めました。次いで「自営業」が17.0%で、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が0.7%でした。「父親がいない、または就労状況がわからない」と回答した家庭は2.2% (3人)でした。「働いていない(専業主夫を含む)」と回答した家庭は見られませんでした。全体の11.1%が無回答でした。

10 前の質問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。(a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つ選択)

## a)母親

選択肢	保護者(n=13)	
	回答数	選択率
1 働きたいが、希望する条件の仕事がないため	1	0.7%
2 子育てを優先したいため	9	6.7%
3 家族の介護・介助のため	1	0.7%
4 自分の病気や障害のため	0	0.0%
5 通学しているため	0	0.0%
6 その他の理由	2	1.5%
無回答	0	0.0%
合計	13	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている親のうち、母親が働いていないと回答した13人に対して、働いていない最も主な理由を尋ねました。結果は以下の通りです。
- 働きたいが、希望する条件の仕事がないため：0.7%（1人）
- 子育てを優先したいため：6.7%（9人）
- 家族の介護・介助のため：0.7%（1人）
- 自分の病気や障害のため：0.0%（0人）
- 通学しているため：0.0%（0人）
- その他の理由：1.5%（2人）
- 無回答者は0.0%（0人）でした。
- これらの結果から、働いていない母親の主な理由として、「子育てを優先したいため」が最も多く、6.7%を占めました。その他の理由については、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」と「家族の介護・介助のため」が各0.7%、「その他の理由」が1.5%でした。「自分の病気や障害のため」や「通学しているため」を理由に挙げた者はいませんでした。全体の無回答者は0人でした。

## b)父親

選択肢	保護者(n=0)	
	回答数	選択率
1 働きたいが、希望する条件の仕事がないため	0	0.0%
2 子育てを優先したいため	0	0.0%
3 家族の介護・介助のため	0	0.0%
4 自分の病気や障害のため	0	0.0%
5 通学しているため	0	0.0%
6 その他の理由	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	0	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている親のうち、父親が働いていないと回答した人数は0人でした。したがって、以下の選択肢についての回答は全て0.0%です：
- 働きたいが、希望する条件の仕事がないため
- 子育てを優先したいため
- 家族の介護・介助のため
- 自分の病気や障害のため
- 通学しているため
- その他の理由
- 無回答者も0.0%（0人）でした。
- これらの結果から、調査対象の父親の全員が働いていることがわかります。

11 調査対象のお子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つ選択）

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 認可保育所・認定こども園	63	46.7%
2 その他の教育・保育等の施設	5	3.7%
3 親・親族以外の個人	2	1.5%
4 もっぱら親・親族が面倒を見ていた	61	45.2%
無回答	4	3.0%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なものを尋ねました。結果は以下の通りです。
- 認可保育所・認定こども園：46.7%（63人）
- その他の教育・保育等の施設：3.7%（5人）
- 親・親族以外の個人：1.5%（2人）
- もっぱら親・親族が面倒を見ていた：45.2%（61人）
- 無回答者は3.0%（4人）でした。
- これらの結果から、0～2歳の子どもを育てる際の最も主な保育形態として、「認可保育所・認定こども園」が最も多く、46.7%を占めました。「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」も相当の割合で、45.2%を占めました。その他の選択肢、「その他の教育・保育等の施設」が3.7%、「親・親族以外の個人」が1.5%でした。全体の無回答者は4人でした。

12 調査対象のお子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つ選択）

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 幼稚園・認可保育所・認定こども園	126	93.3%
2 その他の教育・保育等の施設	6	4.4%
3 親・親族以外の個人	0	0.0%
4 もっぱら親・親族が面倒を見ていた	1	0.7%
無回答	2	1.5%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なものを尋ねました。結果は以下の通りです。
- 幼稚園・認可保育所・認定こども園：93.3%（126人）
- その他の教育・保育等の施設：4.4%（6人）
- 親・親族以外の個人：0.0%（0人）
- もっぱら親・親族が面倒を見ていた：0.7%（1人）
- 無回答者は1.5%（2人）でした。
- これらの結果から、3～5歳の子どもを育てる際の最も主な保育形態として、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」が圧倒的に最も多く、93.3%を占めました。「その他の教育・保育等の施設」は4.4%でした。対照的に、「親・親族以外の個人」は0人、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」はわずか1人でした。全体の無回答者は2人でした。

13 保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a~dそれぞれについて、あてはまるもの1つ選択)

a) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 あてはまる	41	30.4%
2 どちらかといえば、あてはまる	59	43.7%
3 どちらかといえば、あてはまらない	26	19.3%
4 あてはまらない	6	4.4%
無回答	3	2.2%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、子どもとの関わり方について、特に「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」という項目について尋ねました。結果は以下の通りです。
- あてはまる：30.4% (41人)
- どちらかといえば、あてはまる：43.7% (59人)
- どちらかといえば、あてはまらない：19.3% (26人)
- あてはまらない：4.4% (6人)
- 無回答者は2.2% (3人) でした。
- 以上の結果から、多くの保護者が子どものテレビ・ゲーム・インターネットの利用に対して何らかのルールを設けていることが分かります。「あてはまる」及び「どちらかといえば、あてはまる」を合計すると、全体の74.1%が該当しました。一方で、「どちらかといえば、あてはまらない」は19.3%、「あてはまらない」は4.4%でした。全体の無回答者は3人でした。

## b)お子さんに本や新聞を読むように勧めている

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 あてはまる	28	20.7%
2 どちらかといえば、あてはまる	41	30.4%
3 どちらかといえば、あてはまらない	37	27.4%
4 あてはまらない	23	17.0%
無回答	6	4.4%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、子どもとの関わり方について、「お子さんに本や新聞を読むように勧めている」という項目について尋ねました。結果は以下の通りです。
- あてはまる：20.7%（28人）
- どちらかといえば、あてはまる：30.4%（41人）
- どちらかといえば、あてはまらない：27.4%（37人）
- あてはまらない：17.0%（23人）
- 無回答者は4.4%（6人）でした。
- これらの結果から、「あてはまる」または「どちらかといえば、あてはまる」と答えた保護者は合計51.1%で、子どもに本や新聞を読むように勧めているという行動をとっていることが分かります。「どちらかといえば、あてはまらない」は27.4%、「あてはまらない」は17.0%で、これらを合わせると44.4%の保護者が子どもに本や新聞を読むように特に勧めていないことが分かります。無回答者は全体の4.4%でした。

## c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 あてはまる	52	38.5%
2 どちらかといえば、あてはまる	50	37.0%
3 どちらかといえば、あてはまらない	19	14.1%
4 あてはまらない	7	5.2%
無回答	7	5.2%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、子どもとの関わり方について、「お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた」という項目について尋ねました。結果は以下の通りです。
- あてはまる：38.5%（52人）
- どちらかといえば、あてはまる：37.0%（50人）
- どちらかといえば、あてはまらない：14.1%（19人）
- あてはまらない：5.2%（7人）
- 無回答者は5.2%（7人）でした。
- これらの結果から、「あてはまる」または「どちらかといえば、あてはまる」と答えた保護者は合計75.5%で、子どもが小さいころに絵本の読み聞かせをしていたという行動をとっていることが分かります。「どちらかといえば、あてはまらない」は14.1%、「あてはまらない」は5.2%で、これらを合わせると19.3%の保護者が子どもが小さいころに絵本の読み聞かせをしていなかったことが分かります。無回答者は全体の5.2%でした。

## d) お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 あてはまる	49	36.3%
2 どちらかといえば、あてはまる	53	39.3%
3 どちらかといえば、あてはまらない	17	12.6%
4 あてはまらない	10	7.4%
無回答	6	4.4%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、子どもとの関わり方について、「お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる」という項目について尋ねました。結果は以下の通りです。
- あてはまる：36.3% (49人)
- どちらかといえば、あてはまる：39.3% (53人)
- どちらかといえば、あてはまらない：12.6% (17人)
- あてはまらない：7.4% (10人)
- 無回答者は4.4% (6人) でした。
- これらの結果から、「あてはまる」または「どちらかといえば、あてはまる」と答えた保護者は合計75.6%で、子どもから勉強や成績のことについて話を聞くことがあるという行動をとっていることが分かります。「どちらかといえば、あてはまらない」は12.6%、「あてはまらない」は7.4%で、これらを合わせると20.0%の保護者が子どもからの勉強や成績の話を特に聞いていないことが分かります。無回答者は全体の4.4%でした。

14 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つ選択)

## a)授業参観や運動会などの学校行事への参加

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 よく参加している	111	82.2%
2 ときどき参加している	17	12.6%
3 あまり参加していない	1	0.7%
4 まったく参加していない	3	2.2%
無回答	3	2.2%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「授業参観や運動会などの学校行事への参加」という行動について尋ねました。結果は以下の通りです。
- よく参加している：82.2% (111人)
- ときどき参加している：12.6% (17人)
- あまり参加していない：0.7% (1人)
- まったく参加していない：2.2% (3人)
- 無回答者は2.2% (3人) でした。
- これらの結果から、「よく参加している」または「ときどき参加している」と答えた保護者は合計94.8%で、学校行事へ積極的に参加していることが分かります。「あまり参加していない」は0.7%、「まったく参加していない」は2.2%で、これらを合わせると2.9%の保護者があまり学校行事へ参加していないことが分かります。無回答者は全体の2.2%でした。

## b) P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 よく参加している	41	30.4%
2 ときどき参加している	39	28.9%
3 あまり参加していない	39	28.9%
4 まったく参加していない	8	5.9%
無回答	8	5.9%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加」という行動について尋ねました。結果は以下の通りです。
- よく参加している：30.4%（41人）
- ときどき参加している：28.9%（39人）
- あまり参加していない：28.9%（39人）
- まったく参加していない：5.9%（8人）
- 無回答者は5.9%（8人）でした。
- これらの結果から、「よく参加している」または「ときどき参加している」と答えた保護者は合計59.3%で、PTA活動や保護者会、ボランティア活動などへの参加がある程度行われていることがわかります。「あまり参加していない」は28.9%、「まったく参加していない」は5.9%で、これらを合わせると34.8%の保護者があまりこれらの活動へ参加していないことがわかります。無回答者は全体の5.9%でした。

15 お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 中学まで	1	0.7%
2 高校まで	17	12.6%
3 短大・高専・専門学校まで	30	22.2%
4 大学またはそれ以上	49	36.3%
5 まだわからない	36	26.7%
無回答	2	1.5%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- 中学まで：0.7%（1人）
- 高校まで：12.6%（17人）
- 短大・高専・専門学校まで：22.2%（30人）
- 大学またはそれ以上：36.3%（49人）
- まだわからない：26.7%（36人）
- 無回答者は1.5%（2人）でした。
- これらの結果から、「大学またはそれ以上」と答えた保護者が最も多く、全体の36.3%を占めています。次いで「まだわからない」が26.7%、「短大・高専・専門学校まで」が22.2%、「高校まで」が12.6%と続きます。「中学まで」と答えた保護者は0.7%で最も少なかったです。無回答者は全体の1.5%でした。

16 前問で1～4と答えた場合、その理由は何ですか。(1～5については、あてはまるものすべて選択)

選択肢	保護者(n=97)	
	回答数	選択率
1 お子さんがそう希望しているから	41	42.3%
2 一般的な進路だと思うから	25	25.8%
3 お子さんの学力から考えて	30	30.9%
4 家庭の経済的な状況から考えて	9	9.3%
5 その他	7	7.2%
6 特に理由はない	11	11.3%
無回答	38	39.2%
合計	161	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている親97人に対し、「前問で1～4と答えた場合、その理由は何ですか」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- お子さんがそう希望しているから：42.3% (41人)
- 一般的な進路だと思うから：25.8% (25人)
- お子さんの学力から考えて：30.9% (30人)
- 家庭の経済的な状況から考えて：9.3% (9人)
- その他：7.2% (7人)
- 特に理由はない：11.3% (11人)
- 無回答者は39.2% (38人) でした。
- これらの結果から、「お子さんがそう希望しているから」と答えた保護者が最も多く、全体の42.3%を占めています。次いで「お子さんの学力から考えて」が30.9%、「一般的な進路だと思うから」が25.8%と続きます。「家庭の経済的な状況から考えて」と答えた保護者は9.3%、「その他」は7.2%、「特に理由はない」は11.3% でした。無回答者は全体の39.2% でした。

17 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

## (a)子育てに関する相談

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 頼れる人がいる	119	88.1%
2 いない	9	6.7%
3 そのことでは人に頼らない	5	3.7%
無回答	2	1.5%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。子育てに関する相談」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- 頼れる人がいる：88.1%（119人）
- いない：6.7%（9人）
- そのことでは人に頼らない：3.7%（5人）
- 無回答者は1.5%（2人）でした。
- これらの結果から、「頼れる人がいる」と答えた保護者が圧倒的に多く、全体の88.1%を占めています。「いない」と答えた保護者は6.7%で、「そのことでは人に頼らない」と答えた保護者は3.7%でした。無回答者は全体の1.5%でした。この結果から、多くの保護者が子育てに関する相談について頼れる人がいると感じていることがわかります。

18 前問で「1 頼れる人がいる」と答えた場合、それは誰ですか。

## (a)子育てに関する相談

選択肢	保護者(n=119)	
	回答数	選択率
1 家族・親族	111	93.3%
2 友人・知人	61	51.3%
3 近所の人	7	5.9%
4 職場の人	22	18.5%
5 民生委員・児童委員	1	0.8%
6 相談・支援機関や福祉の人	1	0.8%
7 その他	3	2.5%
無回答	0	0.0%
合計	206	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている親 119 人に対し、「前問で『1 頼れる人がいる』と答えた場合、それは誰ですか。子育てに関する相談」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- 家族・親族：93.3% (111 人)
- 友人・知人：51.3% (61 人)
- 近所の人：5.9% (7 人)
- 職場の人：18.5% (22 人)
- 民生委員・児童委員：0.8% (1 人)
- 相談・支援機関や福祉の人：0.8% (1 人)
- その他：2.5% (3 人)
- 無回答者は 0 人でした。
- これらの結果から、「家族・親族」が最も多くの保護者にとって頼れる相談相手であることがわかります (93.3%)。次いで「友人・知人」が 51.3% となりました。「職場の人」を頼りにしている保護者は 18.5%、「近所の人」は 5.9% でした。「民生委員・児童委員」や「相談・支援機関や福祉の人」を頼りにしている保護者はそれぞれ 0.8% となりました。「その他」を選んだ保護者は 2.5% でした。この結果から、大多数の保護者が子育てに関する相談について、家族や親族、友人や知人に頼っていることがわかります。

19 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

b)重要な事柄(ことから)の相談

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 頼れる人がいる	113	83.7%
2 いない	9	6.7%
3 そのことでは人に頼らない	10	7.4%
無回答	3	2.2%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。重要な事柄の相談」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- 頼れる人がいる：83.7%（113人）
- いない：6.7%（9人）
- そのことでは人に頼らない：7.4%（10人）
- 無回答者は2.2%（3人）でした。
- これらの結果から、「頼れる人がいる」と答えた保護者が多く、全体の83.7%を占めています。「いない」と答えた保護者は6.7%で、「そのことでは人に頼らない」と答えた保護者は7.4%でした。無回答者は全体の2.2%でした。この結果から、多くの保護者が重要な事柄に関する相談について頼れる人がいると感じていることがわかります。

20 前問で「1 頼れる人がいる」と答えた場合、それは誰ですか。

b)重要な事柄(ことから)の相談

選択肢	保護者(n=113)	
	回答数	選択率
1 家族・親族	109	96.5%
2 友人・知人	14	12.4%
3 近所の人	0	0.0%
4 職場の人	5	4.4%
5 民生委員・児童委員	0	0.0%
6 相談・支援機関や福祉の人	0	0.0%
7 その他	1	0.9%
無回答	0	0.0%
合計	129	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者113人に対し、「前問で『1 頼れる人がいる』と答えた場合、それは誰ですか。重要な事柄の相談」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- 家族・親族：96.5%（109人）
- 友人・知人：12.4%（14人）
- 近所の人：0.0%（0人）
- 職場の人：4.4%（5人）
- 民生委員・児童委員：0.0%（0人）
- 相談・支援機関や福祉の人：0.0%（0人）
- その他：0.9%（1人）
- 無回答者は0人でした。
- これらの結果から、「家族・親族」が最も多くの保護者にとって頼れる相談相手であることがわかります（96.5%）。次いで「友人・知人」が12.4%、「職場の人」が4.4%となりました。一方で、「近所の人」、「民生委員・児童委員」、または「相談・支援機関や福祉の人」を頼りにしている保護者は調査対象者中にはいませんでした。「その他」を選んだ保護者は0.9%でした。この結果から、重要な事柄に関する相談について、大多数の保護者が家族や親族に頼っていることがわかります。

21 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

c)いざという時のお金の援助

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 頼れる人がいる	80	59.3%
2 いない	23	17.0%
3 そのことでは人に頼らない	29	21.5%
無回答	3	2.2%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。いざという時のお金の援助」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- 頼れる人がいる：59.3%（80人）
- いない：17.0%（23人）
- そのことでは人に頼らない：21.5%（29人）
- 無回答者は2.2%（3人）でした。
- これらの結果から、「頼れる人がいる」と答えた保護者は全体の約60%を占めています。「いない」と答えた保護者は17.0%であり、「そのことでは人に頼らない」と答えた保護者は21.5%でした。無回答者は全体の2.2%でした。この結果から、いざという時のお金の援助について、多くの保護者が頼れる人がいると感じている一方で、ある程度の保護者がそれに頼らないと感じていることがわかります。

22 前問で「1 頼れる人がいる」と答えた場合、それは誰ですか。

c)いざという時のお金の援助

選択肢	保護者(n=80)	
	回答数	選択率
1 家族・親族	77	96.3%
2 友人・知人	4	5.0%
3 近所の人	0	0.0%
4 職場の人	0	0.0%
5 民生委員・児童委員	0	0.0%
6 相談・支援機関や福祉の人	0	0.0%
7 その他	1	1.3%
無回答	1	1.3%
合計	83	

- 「いざという時のお金の援助」について「頼れる人がいる」と答えた80人の保護者に対し、その頼れる人が誰であるかを尋ねました。結果は以下の通りです。
- 家族・親族：96.3%（77人）
- 友人・知人：5.0%（4人）
- 近所の人：0.0%（0人）
- 職場の人：0.0%（0人）
- 民生委員・児童委員：0.0%（0人）
- 相談・支援機関や福祉の人：0.0%（0人）
- その他：1.3%（1人）
- 無回答者は1.3%（1人）でした。
- これらの結果から、「家族・親族」が最も多くの保護者にとって頼れる金融支援の相談相手であることがわかります（96.3%）。次いで「友人・知人」が5.0%となりました。一方で、「近所の人」、「職場の人」、「民生委員・児童委員」、または「相談・支援機関や福祉の人」を頼りにしている保護者は調査対象者中にはいませんでした。「その他」を選んだ保護者は1.3%でした。この結果から、いざという時のお金の援助に関して、大多数の保護者が家族や親族に頼っていることがわかります。

23 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 大変ゆとりがある	2	1.5%
2 ゆとりがある	12	8.9%
3 ふつう	87	64.4%
4 苦しい	23	17.0%
5 大変苦しい	6	4.4%
無回答	5	3.7%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまるもの1つ選択)」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- 大変ゆとりがある：1.5% (2人)
- ゆとりがある：8.9% (12人)
- ふつう：64.4% (87人)
- 苦しい：17.0% (23人)
- 大変苦しい：4.4% (6人)
- 無回答者は3.7% (5人) でした。
- これらの結果から、「ふつう」と感じている保護者が最も多く、全体の約64%を占めています。「苦しい」と答えた保護者は17.0%であり、「大変苦しい」と答えた保護者は4.4%でした。「大変ゆとりがある」と感じている保護者は1.5%、「ゆとりがある」と感じている保護者は8.9%でした。無回答者は全体の3.7%でした。この結果から、多くの保護者が現在の生活状況を「ふつう」であると感じている一方で、約21%の保護者が何らかの形で生活が苦しいと感じていることがわかります。

## 2.4 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 50万円未満	1	0.7%
2 50～100万円未満	3	2.2%
3 100～150万円未満	4	3.0%
4 150～200万円未満	5	3.7%
5 200～250万円未満	10	7.4%
6 250～300万円未満	7	5.2%
7 300～350万円未満	3	2.2%
8 350～400万円未満	5	3.7%
9 400～450万円未満	8	5.9%
10 450～500万円未満	12	8.9%
11 500～600万円未満	23	17.0%
12 600～700万円未満	11	8.1%
13 700～800万円未満	13	9.6%
14 800～900万円未満	8	5.9%
15 900～1000万円未満	3	2.2%
16 1000万円以上	8	5.9%
無回答	11	8.1%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つ選択)」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- 50万円未満：0.7% (1人)
- 50～100万円未満：2.2% (3人)
- 100～150万円未満：3.0% (4人)
- 150～200万円未満：3.7% (5人)
- 200～250万円未満：7.4% (10人)
- 250～300万円未満：5.2% (7人)
- 300～350万円未満：2.2% (3人)
- 350～400万円未満：3.7% (5人)
- 400～450万円未満：5.9% (8人)
- 450～500万円未満：8.9% (12人)
- 500～600万円未満：17.0% (23人)

- ◎ 600～700 万円未満：8.1%（11 人）
- ◎ 700～800 万円未満：9.6%（13 人）
- ◎ 800～900 万円未満：5.9%（8 人）
- ◎ 900～1000 万円未満：2.2%（3 人）
- ◎ 1000 万円以上：5.9%（8 人）
- ◎ 無回答者は8.1%（11 人）でした。
- ◎ これらの結果から、「500～600 万円未満」の年間収入を持つ保護者が最も多く、全体の約 17%を占めています。次に多いのは「700～800 万円未満」の年間収入を持つ保護者で、全体の約 10%を占めています。「450～500 万円未満」および「600～700 万円未満」の年間収入を持つ保護者はそれぞれ 8.9%、8.1%でした。一方、「50 万円未満」の年間収入を持つ保護者は 0.7%と少なかったです。全体の約 8%が無回答でした。

25 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 よくあった	4	3.0%
2 ときどきあった	7	5.2%
3 まれにあった	11	8.1%
4 まったくなかった	110	81.5%
無回答	3	2.2%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの1つ選択)」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- よくあった：3.0% (4人)
- ときどきあった：5.2% (7人)
- まれにあった：8.1% (11人)
- まったくなかった：81.5% (110人)
- 無回答者は2.2% (3人) でした。
- これらの結果から、「まったくなかった」が最も多く、全体の約81%を占めています。つまり、過去1年間で家族が必要とする食料が購入できないという状況になったことがないと回答した親が大多数であることがわかります。「まれにあった」は全体の約8%、「ときどきあった」は全体の約5%、「よくあった」は全体の約3%となっています。全体の約2%が無回答でした。

26 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 よくあった	3	2.2%
2 ときどきあった	6	4.4%
3 まれにあった	11	8.1%
4 まったくなかった	111	82.2%
無回答	4	3.0%
合計	135	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(あてはまるもの1つ選択)」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- よくあった：2.2% (3人)
- ときどきあった：4.4% (6人)
- まれにあった：8.1% (11人)
- まったくなかった：82.2% (111人)
- 無回答者は3.0% (4人) でした。
- これらの結果から、「まったくなかった」が最も多く、全体の約82%を占めています。つまり、過去1年間で家族が必要とする衣服を購入できないという状況になったことがないと回答した親が大多数であることがわかります。「まれにあった」は全体の約8%、「ときどきあった」は全体の約4%、「よくあった」は全体の約2%となっています。全体の約3%が無回答でした。

27 あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。(あてはまるものすべて選択) ※未払いがない場合はこの質問は回答不要です。

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
1 電気料金	4	3.0%
2 ガス料金	0	0.0%
3 水道料金	4	3.0%
無回答	130	96.3%
合計	138	

- 小学5年生または中学2年生の子どもと同居し、生計を同一にしている保護者135人に対し、「あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。(あてはまるものすべて選択) ※未払いがない場合はこの質問は回答不要です。」という質問を行いました。結果は以下の通りです。
- 電気料金：3.0% (4人)
- ガス料金：0.0% (0人)
- 水道料金：3.0% (4人)
- 無回答者は96.3% (130人) でした。
- これらの結果から、「電気料金」および「水道料金」について、過去1年間で経済的な理由で未払いになったことがあると回答した親は全体の約3%であり、「ガス料金」については全体の0%でした。大多数の親(全体の約96%)が未払いの経験がないか、またはこの質問に回答していません。

28 次の a)~f)の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。(a~f それぞれについて、あてはまるもの1つ選択)

## a)神経過敏に感じた

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
いつも	5	3.7%
たいてい	7	5.2%
ときどき	29	21.5%
少しだけ	35	25.9%
まったくない	50	37.0%
無回答	9	6.7%
合計	135	

- 最も多い回答は「全くない」で、37.0%の保護者が選択しました。次に多いのは「少しだけ」で25.9%です。「いつも」または「たいてい」感じたと答えた保護者は全体の8.9%に過ぎません。

## b)絶望的だと感じた

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
いつも	1	0.7%
たいてい	0	0.0%
ときどき	12	8.9%
少しだけ	20	14.8%
まったくない	86	63.7%
無回答	16	11.9%
合計	135	

- 「全くない」が最も多く、63.7%の保護者が選択しました。「少しだけ」を選んだのは14.8%です。「いつも」または「たいてい」感じたと答えた保護者は0.7%のみでした。

## c) そわそわ、落ち着かなく感じた

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
いつも	1	0.7%
たいてい	2	1.5%
ときどき	18	13.3%
少しだけ	26	19.3%
まったくない	70	51.9%
無回答	18	13.3%
合計	135	

- 「全くない」が最も多く、51.9%の保護者が選択しました。「少しだけ」を選んだのは19.3%です。「いつも」または「たいてい」感じたと答えた保護者は2.2%のみでした。

## d) 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
いつも	0	0.0%
たいてい	6	4.4%
ときどき	12	8.9%
少しだけ	43	31.9%
まったくない	59	43.7%
無回答	15	11.1%
合計	135	

- 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた：
- 「全くない」が最も多く、43.7%の保護者が選択しました。「少しだけ」を選んだのは31.9%です。「いつも」または「たいてい」感じたと答えた保護者は4.4%のみでした。

## e)何をするのも面倒だと感じた

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
いつも	2	1.5%
たいてい	8	5.9%
ときどき	21	15.6%
少しだけ	55	40.7%
まったくない	33	24.4%
無回答	16	11.9%
合計	135	

- 「少しだけ」が最も多く、40.7%の保護者が選択しました。「全くない」を選んだのは24.4%です。「いつも」または「たいてい」感じたと思った保護者は7.4%でした。

## f)自分は価値のない人間だと感じた

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
いつも	2	1.5%
たいてい	5	3.7%
ときどき	11	8.1%
少しだけ	21	15.6%
まったくない	78	57.8%
無回答	18	13.3%
合計	135	

- 「全くない」が最も多く、57.8%の保護者が選択しました。「少しだけ」を選んだのは15.6%です。「いつも」または「たいてい」感じたと思った保護者は5.2%でした。

- 全体的に見ると、「全くない」または「少しだけ」と答えた保護者が全体の多数派を占めており、特に「神経過敏に感じた」、「絶望的だと感じた」、「そわそわ、落ち着かなく感じた」、「自分は価値のない人間だと感じた」については、「全くない」と答えた保護者が半数以上でした。これらの結果から、保護者の大部分は比較的安定した気持ちを保っていることが示唆されますが、「何をするのも面倒だと感じた」と答えた保護者が多いことから、日常生活の中で一定のストレスを感じている可能性もあります。

29 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。  
 (a～e それぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○) また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまるもの1つ選択)

## a 就学援助

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
現在利用している	19	14.1%
現在利用していないが、以前利用したことがある	4	3.0%
<利用したことがない>制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから	50	37.0%
<利用したことがない>利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	4	3.0%
<利用したことがない>利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2	1.5%
<利用したことがない>利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1	0.7%
<利用したことがない>それ以外の理由	45	
無回答	10	7.4%
合計	135	

- 保護者135人のうち、19人(14.1%)が現在就学援助制度を利用しており、4人(3.0%)が現在利用していないが、過去に利用した経験がある。一方、未利用者の理由として最も多かったのは「制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから」で50人(37.0%)、次に「それ以外の理由」で45人(33.3%)だった。また、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」は4人(3.0%)、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」は2人(1.5%)、そして「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」は1人(0.7%)となりました。無回答は10人(7.4%)でした。
- 以上から、対象となった保護者の約17.1%が就学援助制度を利用した経験があり、その中でも現在利用している人が最も多いことがわかります。利用していない人の大半は、制度の対象外であると思っているか、それ以外の理由で利用していないことが明らかになりました。

## b 生活保護

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
現在利用している	0	0.0%
現在利用していないが、以前利用したことがある	0	0.0%
<利用したことがない>制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから	51	37.8%
<利用したことがない>利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	2	1.5%
<利用したことがない>利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1	0.7%
<利用したことがない>利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1	0.7%
<利用したことがない>それ以外の理由	54	40.0%
無回答	26	19.3%
合計	135	

- 保護者 135 人のうち、誰も現在生活保護制度を利用しておらず、過去に利用した経験もない。未利用者の理由として最も多かったのは「それ以外の理由」で 54 人（40.0%）、次に「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」で 51 人（37.8%）だった。また、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」は 2 人（1.5%）、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」および「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」はそれぞれ 1 人（0.7%）となりました。無回答は 26 人（19.3%）でした。
- 以上から、対象となった保護者全員が生活保護制度を利用した経験がなく、その主な理由は「それ以外の理由」や「制度の対象外だと思うから」であることが明らかになりました。

## c 生活困窮者の自立支援相談窓口

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
現在利用している	0	0.0%
現在利用していないが、以前利用したことがある	0	0.0%
<利用したことがない>制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから	49	36.3%
<利用したことがない>利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	3	2.2%
<利用したことがない>利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	0	0.0%
<利用したことがない>利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1	0.7%
<利用したことがない>それ以外の理由	55	40.7%
無回答	27	20.0%
合計	135	

- 調査対象の保護者 135 人の中で、誰も現在生活困窮者の自立支援相談窓口を利用しておらず、過去に利用した経験もない。未利用者の理由として最も多かったのは「それ以外の理由」で 55 人（40.7%）、次いで「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」が 49 人（36.3%）でした。「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」は 3 人（2.2%）、そして「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」は 1 人（0.7%）でした。「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」の回答は 0 人（0.0%）でした。無回答は 27 人（20.0%）でした。
- 以上の結果から、生活困窮者の自立支援相談窓口を利用した経験がない保護者が全員であり、その主な理由は「それ以外の理由」と「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」であることが明らかになりました。

## d 児童扶養手当

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
現在利用している	24	17.8%
現在利用していないが、以前利用したことがある	4	3.0%
<利用したことがない>制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから	40	29.6%
<利用したことがない>利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	1	0.7%
<利用したことがない>利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	0	0.0%
<利用したことがない>利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1	0.7%
<利用したことがない>それ以外の理由	41	30.4%
無回答	24	17.8%
合計	135	

- 調査対象の保護者 135 人の中で、現在児童扶養手当を利用している人は 24 人（17.8%）、過去に利用した経験がある人は 4 人（3.0%）でした。未利用者の主な理由としては、「それ以外の理由」が 41 人（30.4%）で最も多く、「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」が 40 人（29.6%）と続きました。「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」および「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」はそれぞれ 1 人（0.7%）でした。「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」の回答はありませんでした。無回答は 24 人（17.8%）でした。
- これらの結果から、児童扶養手当を現在もしくは過去に利用した経験がある保護者は全体の約 20.8%であり、未利用者の主な理由は「それ以外の理由」と「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」であることが判明しました。

## e 母子家庭等就業・自立支援センター

選択肢	保護者(n=135)	
	回答数	選択率
現在利用している	0	0.0%
現在利用していないが、以前利用したことがある	0	0.0%
<利用したことがない>制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから	45	33.3%
<利用したことがない>利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	2	1.5%
<利用したことがない>利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	0	0.0%
<利用したことがない>利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4	3.0%
<利用したことがない>それ以外の理由	57	42.2%
無回答	27	20.0%
合計	135	

- 調査対象の保護者 135 人の中で、母子家庭等就業・自立支援センターを現在利用している人は 0 人（0.0%）、過去に利用した経験がある人も 0 人（0.0%）でした。未利用者の主な理由としては、「それ以外の理由」が 57 人（42.2%）で最も多く、「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」が 45 人（33.3%）と続きました。「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」は 2 人（1.5%）、そして「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」は 4 人（3.0%）でした。「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」の回答はありませんでした。無回答は 27 人（20.0%）でした。
- これらの結果から、母子家庭等就業・自立支援センターを現在もしくは過去に利用した経験がある保護者は全体の 0.0%であり、未利用者の主な理由は「それ以外の理由」と「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」であることが判明しました。

## 【3】 こどもの調査結果

（小学5年生・中学2年生）

1 あなたの性別を教えてください。（あてはまるもの1つ選択）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 男	53	46.5%	49	53.3%
2 女	59	51.8%	41	44.6%
3 その他・答えたくない	2	1.8%	1	1.1%
無回答	0	0.0%	1	1.1%
合計	114		92	

- 小学5年生では、46.5%（53人）が男と回答し、51.8%（59人）が女と回答しました。また、1.8%（2人）が「その他・答えたくない」を選択しました。
- 中学2年生では、53.3%（49人）が男、44.6%（41人）が女と回答しました。「その他・答えたくない」を選択しなかったのは1.1%（1人）で、1.1%（1人）が無回答でした。

2 あなたは、心だん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 自分で勉強する	77	67.5%	67	72.8%
2 塾で勉強する	33	28.9%	50	54.3%
3 学校の補習を受ける	8	7.0%	6	6.5%
4 家庭教師に教えてもらう	0	0.0%	4	4.3%
5 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	2	1.8%	0	0.0%
6 家の人に教えてもらう	44	38.6%	20	21.7%
7 友達と勉強する	21	18.4%	25	27.2%
8 その他	11	9.6%	3	3.3%
9 学校の授業以外で勉強はしない	11	9.6%	3	3.3%
無回答	0	0.0%	1	1.1%
合計	207		179	

- 小学5年生の中で最も多い回答は「自分で勉強する」で、67.5%（77人）がこの方法を選択しました。次に多かったのは「家の人に教えてもらう」で、38.6%（44人）。また、「塾で勉強する」を選んだ児童生徒は28.9%（33人）でした。
- 中学2年生の方が、「自分で勉強する」を選んだ割合がさらに高く、72.8%（67人）。「塾で勉強する」を選んだ児童生徒の割合も増えており、54.3%（50人）。「家の人に教えてもらう」を選んだ児童生徒の割合は21.7%（20人）で、小学生の時と比べて減少しています。
- 全体的に見ると、学年が上がるにつれて自己学習や塾での学習の割合が増え、家庭での学習の割合が減少する傾向が見られます。













3 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

## a) 学校がある日（月～金曜日）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 まったくしない	6	5.3%	2	2.2%
2 30分より少ない	21	18.4%	22	23.9%
3 30分以上、1時間より少ない	42	36.8%	31	33.7%
4 1時間以上、2時間より少ない	33	28.9%	32	34.8%
5 2時間以上、3時間より少ない	6	5.3%	4	4.3%
6 3時間以上	5	4.4%	0	0.0%
無回答	1	0.9%	0	0.0%
合計	114		91	

- 小学5年生の中で最も多い回答は「30分以上、1時間より少ない」で、36.8%（42人）。次に多かったのは「1時間以上、2時間より少ない」で、28.9%（33人）。「全くしない」を選んだ児童生徒は5.3%（6人）でした。
- 中学2年生では、「1時間以上、2時間より少ない」を選んだ児童生徒が最も多く、34.8%（32人）。「30分以上、1時間より少ない」を選んだ児童生徒は33.7%（31人）で、これが次に多い回答となりました。「全くしない」を選んだ児童生徒は2.2%（2人）でした。
- 全体的に見ると、小学生と中学生の間で1日あたりの学習時間に大きな差は見られませんが、中学生の方が少し長い時間を勉強に費やしている傾向があります。

## b) 学校がない日（土・日曜日・祝日）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 まったくしない	32	 28.1%	13	 14.1%
2 30分より少ない	34	 29.8%	32	 34.8%
3 30分以上、1時間より少ない	28	 24.6%	19	 20.7%
4 1時間以上、2時間より少ない	12	 10.5%	15	 16.3%
5 2時間以上、3時間より少ない	0	0.0%	7	 7.6%
6 3時間以上	2	1.8%	1	 1.1%
無回答	6	 5.3%	5	 5.4%
合計	114		92	

- 小学5年生の中で最も多い回答は「30分より少ない」で、29.8%（34人）。次に多かったのは「全くしない」で、28.1%（32人）。「30分以上、1時間より少ない」を選んだ児童生徒は24.6%（28人）でした。
- 中学2年生では、「30分より少ない」を選んだ児童生徒が最も多く、34.8%（32人）。「全くしない」を選んだ児童生徒は14.1%（13人）で、「30分以上、1時間より少ない」を選んだ児童生徒は20.7%（19人）でした。
- 全体的に見ると、学校がない日の学習時間は学校がある日よりも短くなる傾向があり、特に小学生の間でその傾向が強く見られます

## 4 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。（あてはまるもの1つ選択）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 上のほう	7	6.1%	5	5.4%
2 やや上のほう	14	12.3%	15	16.3%
3 まん中あたり	41	36.0%	22	23.9%
4 やや下のほう	14	12.3%	18	19.6%
5 下のほう	12	10.5%	22	23.9%
6 わからない	26	22.8%	9	9.8%
無回答	0	0.0%	5	5.4%
合計	114		96	

- 小学5年生の中で最も多い回答は「まん中あたり」で、36.0%（41人）。次に多かったのは「わからない」で、22.8%（26人）。「やや下のほう」および「やや上のほう」を選んだ児童生徒はそれぞれ12.3%（14人）でした。
- 中学2年生では、「まん中あたり」を選んだ児童生徒が最も多く、23.9%（22人）。「下のほう」を選んだ児童生徒も23.9%（22人）で、「やや下のほう」を選んだ児童生徒は19.6%（18人）でした。「やや上のほう」を選んだ児童生徒は16.3%（15人）でした。
- 全体的に見ると、小学生と中学生の間で自己評価の傾向には差があり、小学生は自分の成績を「まん中あたり」と評価する傾向が強い一方、中学生は自己評価に幅が見られ、成績が「上」から「下」まで広がっていることが見て取れます。

5 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。（あてはまるもの1つ選択）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 いつもわかる	20	17.5%	3	3.3%
2 だいたいわかる	60	52.6%	28	30.4%
3 教科によってはわからないことがある	32	28.1%	51	55.4%
4 わからないことが多い	1	0.9%	9	9.8%
5 ほとんどわからない	1	0.9%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	1.1%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「だいたいわかる」を選んだ児童生徒が最も多く、52.6%（60人）。「教科によってはわからないことがある」を選んだ児童生徒は28.1%（32人）で、「いつもわかる」を選んだ児童生徒は17.5%（20人）でした。「わからないことが多い」および「ほとんどわからない」を選んだ児童生徒はそれぞれ0.9%（1人）でした。
- 中学2年生の回答では、「教科によってはわからないことがある」を選んだ児童生徒が最も多く、55.4%（51人）。「だいたいわかる」を選んだ児童生徒は30.4%（28人）、「わからないことが多い」を選んだ児童生徒は9.8%（9人）で、「いつもわかる」を選んだ児童生徒は3.3%（3人）でした。
- 全体的に見ると、学年が上がるにつれて授業の理解度が下がる傾向が見られます。特に中学2年生では、半数以上の児童生徒が「教科によってはわからないことがある」と回答しています。

6 前の質問で「3 教科によってはわからないことがある」「4 わからないことが多い」「5 ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	小学5年生(n=34)		中学2年生(n=60)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 1・2年生のころ	0	0.0%		
2 3年生のころ	6	17.6%		
3 4年生のころ	11	32.4%		
4 5年生になってから	17	50.0%		
1 小学1・2年生のころ			0	0.0%
2 小学3・4年生のころ			1	1.7%
3 小学5・6年生のころ			8	13.3%
4 中学1年生のころ			29	48.3%
5 中学2年生になってから			21	35.0%
無回答	0	0.0%	1	1.7%
合計	34		60	

- 小学5年生の回答では、「5年生になってから」が最も多く、50.0% (17人)。「4年生のころ」を選んだ児童生徒は32.4% (11人)、「3年生のころ」を選んだ児童生徒は17.6% (6人)でした。なお、「1・2年生のころ」を選んだ児童生徒はいませんでした。
- 中学2年生の回答では、「中学1年生のころ」を選んだ児童生徒が最も多く、48.3% (29人)。「中学2年生になってから」を選んだ児童生徒は35.0% (21人)、「小学5・6年生のころ」を選んだ児童生徒は13.3% (8人)、「小学3・4年生のころ」を選んだ児童生徒は1.7% (1人)でした。
- 全体的に見ると、学年が上がるにつれて授業の理解に困難を感じるようになる児童生徒が増えていることが伺えます。特に中学生になってから授業の理解が難しくなると感じる児童生徒が多くなっています。また、小学5年生であっても3年生あたりから授業が理解しにくくなると感じる児童生徒がいます。

7 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。（あてはまるもの1つ選択）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 中学まで	1	0.9%	0	0.0%
2 高校まで	23	20.2%	24	26.1%
3 短大・高専・専門学校まで	33	28.9%	21	22.8%
4 大学またはそれ以上	21	18.4%	23	25.0%
5 まだわからない	36	31.6%	23	25.0%
無回答	0	0.0%	1	1.1%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「短大・高専・専門学校まで」を選んだ児童生徒が最も多く、28.9%（33人）がこの選択肢を選びました。「まだわからない」を選んだ児童生徒は31.6%（36人）、「高校まで」を選んだ児童生徒は20.2%（23人）、そして「大学またはそれ以上」を選んだ児童生徒は18.4%（21人）でした。「中学まで」を選んだ児童生徒はほとんどおらず、0.9%（1人）のみでした。
- 中学2年生の回答では、「高校まで」、「大学またはそれ以上」、「まだわからない」がそれぞれ約25%で並び、最も多い選択肢となりました。「短大・高専・専門学校まで」を選んだ児童生徒は22.8%（21人）でした。「中学まで」を選んだ児童生徒はいませんでした。
- 全体的に見ると、学年が上がるにつれて進学先の明確なイメージを持つ児童生徒が増え、特に大学やそれ以上の教育を受けたいと考える児童生徒が増えています。一方で、未だ「まだわからない」と答える児童生徒も多いことがわかります。

8 前の質問で1～4と答えた場合、その理由を教えてください。（1～8については、あてはまるものすべて選択）

選択肢	小学5年生(n=78)		中学2年生(n=68)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 希望する学校や職業があるから	47	60.3%	34	50.0%
2 自分の成績から考えて	10	12.8%	8	11.8%
3 親がそう言っているから	9	11.5%	11	16.2%
4 兄・姉がそうしているから	5	6.4%	3	4.4%
5 まわりの先輩や友達がそうしているから	1	1.3%	4	5.9%
6 家にお金がないと思うから	0	0.0%	0	0.0%
7 早く働く必要があるから	1	1.3%	0	0.0%
8 その他	7	9.0%	4	5.9%
9 とくに理由はない	16	20.5%	22	32.4%
無回答				
合計	96		86	

- 小学5年生の回答では、「希望する学校や職業があるから」が最も多く選ばれ、60.3%（47人）。「とくに理由はない」を選んだ児童生徒は20.5%（16人）、「自分の成績から考えて」を選んだ児童生徒は12.8%（10人）、「親がそう言っているから」を選んだ児童生徒は11.5%（9人）でした。その他の選択肢は10%以下でした。
- 一方、中学2年生の回答は、「希望する学校や職業があるから」が最も多く、50.0%（34人）で最も多く、「とくに理由はない」が次に多い32.4%（22人）でした。「親がそう言っているから」を選んだ児童生徒は16.2%（11人）、「自分の成績から考えて」を選んだ児童生徒は11.8%（8人）でした。その他の選択肢は10%以下でした。
- 全体的に見ると、「希望する学校や職業があるから」という選択肢が最も多く選ばれ、児童生徒たちが自身の将来の進路について考えていることが伺えます。しかし、「とくに理由はない」と答えた児童生徒も多く、進学選択の背後に明確な動機がないことも指摘できます。また、親や成績など、外的な要素に影響されて進学選択をしている児童生徒もいることがわかります。

9 あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。  
（※中学2年生のみの設問）

選択肢	小学5年生		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 参加している			85	92.4%
2 参加していない			5	5.4%
無回答			2	2.2%
合計			92	

- 中学2年生のうち、92.4%（85人）が何らかのクラブや部活動に参加しています。一方で、5.4%（5人）の児童生徒がクラブや部活動に参加していないと回答しました。無回答は2.2%（2人）でした。
- この結果から、中学2年生の大部分が地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に積極的に参加しており、学校生活の一部としてこれらの活動を楽しんでいると考えられます。しかし、全体の5.4%がこれらの活動に参加していないということもわかります。

10 前の質問で「2 参加していない」と答えた人にお聞きします。参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべて選択）  
（※中学2年生のみの設問）

選択肢	小学5年生		中学2年生(n=5)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 入りたいクラブ・部活動がないから			3	60.0%
2 塾や習い事が忙しいから			3	60.0%
3 費用がかかるから			1	20.0%
4 家の事情(家族の世話、家事など)があるから			0	0.0%
5 一緒に入る友達がいないから			2	40.0%
6 その他			0	0.0%
無回答				
合計			9	

- この調査結果は、中学2年生のうち「地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していない」と回答した5人について、その理由として最も多かったのは、「入りたいクラブ・部活動がないから」と「塾や習い事が忙しいから」で、それぞれ60.0%（3人）。また、「費用がかかるから」と回答した児童生徒は20.0%（1人）、「一緒に入る友達がいないから」と回答した児童生徒は40.0%（2人）でした。「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」や「その他」の理由を挙げた児童生徒はいませんでした。
- この結果から、部活動に参加していない児童生徒たちは、自分の興味に合ったクラブや部活動がない、あるいは学業や他の習い事との時間的な調整が難しいと感じていることがわかります。また、費用の問題や友人の有無も一部の児童生徒にとっては参加の障壁となっています。

9 あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(a～c それぞれについて、あてはまるもの1つ選択)

## a) 朝食

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 毎日食べる (週7日)	94	82.5%	69	75.0%
2 週5～6日	11	9.6%	12	13.0%
3 週3～4日	1	0.9%	5	5.4%
4 週1～2日、ほとんど食べない	7	6.1%	4	4.3%
無回答	1	0.9%	2	2.2%
合計	114		92	

- 小学5年生のうち、82.5% (94人) が毎日朝食を食べていると回答しました。また、9.6% (11人) が週5～6日、0.9% (1人) が週3～4日、6.1% (7人) が週1～2日またはほとんど食べないと回答しました。無回答は0.9% (1人) でした。
- 中学2年生では、75.0% (69人) が毎日朝食を食べていると回答しました。週5～6日が13.0% (12人)、週3～4日が5.4% (5人)、週1～2日またはほとんど食べないが4.3% (4人) でした。無回答は2.2% (2人) でした。
- これらの結果から、児童生徒の大部分が毎日朝食を摂取していることが明らかとなりました。しかし、一部の児童生徒が週に数日しか朝食を食べていない、またはほとんど食べていないという事実も浮かび上がりました。

## b) 夕食

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 毎日食べる（週7日）	104	91.2%	82	89.1%
2 週5～6日	1	0.9%	3	3.3%
3 週3～4日	0	0.0%	0	0.0%
4 週1～2日、ほとんど食べない	2	1.8%	0	0.0%
無回答	7	6.1%	7	7.6%
合計	114		92	

- 小学5年生の91.2%（104人）が毎日夕食を食べていると回答しました。週5～6日と回答した児童生徒は0.9%（1人）、週1～2日またはほとんど食べないと回答した児童生徒は1.8%（2人）でした。無回答は6.1%（7人）でした。
- 中学2年生の中でも大部分の児童生徒、89.1%（82人）が毎日夕食を食べていると回答しました。週5～6日と回答した児童生徒は3.3%（3人）で、週3～4日、週1～2日またはほとんど食べないと回答した児童生徒はいませんでした。無回答は7.6%（7人）でした。
- 児童生徒のほとんどが毎日夕食を摂取していることがわかります。しかし、一部の児童生徒が週に数日しか夕食を食べていない、またはほとんど食べていないという事実も明らかになりました。

## c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 毎日食べる（週7日）	93	81.6%	70	76.1%
2 週5～6日	14	12.3%	14	15.2%
3 週3～4日	1	0.9%	2	2.2%
4 週1～2日、ほとんど食べない	2	1.8%	1	1.1%
無回答	4	3.5%	5	5.4%
合計	114		92	

- 小学5年生のうち、81.6%（93人）が毎日昼食を食べていると回答しました。週5～6日と回答した児童生徒は12.3%（14人）、週3～4日と回答した児童生徒は0.9%（1人）、週1～2日またはほとんど食べないと回答した児童生徒は1.8%（2人）でした。無回答は3.5%（4人）でした。
- 中学2年生の中で、76.1%（70人）が毎日昼食を食べていると回答しました。週5～6日と回答した児童生徒は15.2%（14人）、週3～4日と回答した児童生徒は2.2%（2人）、週1～2日またはほとんど食べないと回答した児童生徒は1.1%（1人）でした。無回答は5.4%（5人）でした。
- 児童生徒の大部分が休み期間中も毎日昼食を摂取していることがわかります。しかし、一部の児童生徒が週に数日しか昼食を食べていない、またはほとんど食べていないという事実も明らかになりました。

10 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(あてはまるもの1つ選択)

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 そうである	23	20.2%	17	18.5%
2 どちらかといえばそうである	62	54.4%	45	48.9%
3 どちらかといえばそうではない	16	14.0%	19	20.7%
4 そうではない	10	8.8%	9	9.8%
無回答	3	2.6%	2	2.2%
合計	114		92	

- 小学5年生と中学2年生の大半は一定の就寝時間を持っていることがわかります。具体的には、小学5年生の約74.6%と中学2年生の約67.4%が「そうである」または「どちらかといえばそうである」と回答しました。しかし、それぞれ一定の就寝時間を持っていないと答えた児童生徒も存在し、その割合は小学5年生で約22.8%、中学2年生で約30.5%でした。これらの結果から、学年が上がるにつれて就寝時間が不規則になる傾向があることが読み取れます。

11 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。（1～9については、あてはまるものすべて選択）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 親	84	73.7%	64	69.6%
2 きょうだい	24	21.1%	25	27.2%
3 祖父母など	15	13.2%	11	12.0%
4 学校の先生	42	36.8%	20	21.7%
5 学校の友達	70	61.4%	66	71.7%
6 学校外の友達	19	16.7%	14	15.2%
7 スクールカウンセラー	3	2.6%	0	0.0%
8 その他の大人(学童保育所の人、塾・習い事の先生)	6	5.3%	0	0.0%
9 ネットで知り合った人	4	3.5%	7	7.6%
10 だれにも相談できない、相談したくない	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	0.9%	2	2.2%
合計	268		209	

- 小学5年生と中学2年生の間で、困っていることや悩みごとがあるときに相談できると思う人を見てみると、最も多い回答は「親」で、それぞれ73.7%と69.6%が選択しています。次に多いのは「学校の友達」で、小学5年生の61.4%と中学2年生の71.7%が選択しています。
- 「学校の先生」に相談すると答えた児童生徒は小学5年生の36.8%に対して、中学2年生では21.7%と減少しています。また、「きょうだい」、「祖父母など」、「学校外の友達」に相談すると答えた児童生徒の割合は、小学生と中学生で大きな変化は見られません。
- 「スクールカウンセラー」や「その他の大人」に相談すると答えた児童生徒は全体的に少なく、特に中学生では0%でした。「ネットで知り合った人」に相談すると答えた児童生徒は中学生の方が少し増えて7.6%です。
- これらの結果から、親や学校の友達が主な相談相手である一方で、学年が上がるにつれて学校の先生への相談が減少し、一部の児童生徒はネットで知り合った人に相談することもあることがわかります。

12 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。（あてはまるもの1つ選択）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
0	1	0.9%	2	2.2%
1	0	0.0%	1	1.1%
2	3	2.6%	4	4.3%
3	0	0.0%	5	5.4%
4	6	5.3%	7	7.6%
5	15	13.2%	7	7.6%
6	8	7.0%	5	5.4%
7	12	10.5%	18	19.6%
8	16	14.0%	19	20.7%
9	13	11.4%	10	10.9%
10	40	35.1%	14	15.2%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	114		92	

- 小学5年生では、「10」を選択した児童生徒が最も多く、全体の35.1%が「十分に満足している」と答えました。次いで多かったのは「8」を選択した児童生徒で14.0%、「9」を選択した児童生徒が11.4%でした。逆に、「0」から「4」を選択した児童生徒はそれぞれ1人、3人、6人で、全体の8.8%でした。
- 中学2年生では、「8」を選択した児童生徒が最も多く、全体の20.7%でした。次いで多かったのは「7」を選択した児童生徒で19.6%、「10」を選択した児童生徒が15.2%でした。また、「0」から「4」を選択した児童生徒はそれぞれ2人、1人、4人、5人、7人となり、全体の20.6%でした。
- これらの結果から、学年が上がるにつれて生活に対する満足度が低下する傾向が見られます。特に、「10」を選択した児童生徒の割合が小学5年生の35.1%から中学2年生の15.2%へと大幅に減少しています。

13 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。（a～o それぞれについて、あてはまるもの1つ選択）

a)私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	12	10.5%	3	3.3%
2 まああてはまる	61	53.5%	55	59.8%
3 あてはまる	39	34.2%	31	33.7%
無回答	2	1.8%	3	3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生では、「2 まああてはまる」を選択した児童生徒が最も多く、全体の53.5%でした。「3 あてはまる」を選択した児童生徒は34.2%、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒は10.5%でした。
- 中学2年生では、「2 まああてはまる」を選択した児童生徒が最も多く、全体の59.8%でした。「3 あてはまる」を選択した児童生徒は33.7%、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒は3.3%でした。
- これらの結果から、学年が上がるにつれて、「1 あてはまらない」を選択する児童生徒の割合が減少し、「2 まああてはまる」を選択する児童生徒の割合が増加する傾向が見られます。それぞれの学年で、「3 あてはまる」を選択した児童生徒の割合はほぼ同じで、約34%でした。これは、学年が上がるにつれても、他人に対する配慮や思いやりを持つ児童生徒の割合が一定であることを示しています。

b) 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	60	52.6%	42	45.7%
2 まああてはまる	44	38.6%	30	32.6%
3 あてはまる	8	7.0%	17	18.5%
無回答	2	1.8%	3	3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生では、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒が最も多く、全体の52.6%でした。「2 まああてはまる」を選択した児童生徒は38.6%、「3 あてはまる」を選択した児童生徒は7.0%でした。
- 中学2年生では、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒が最も多く、全体の45.7%でした。「2 まああてはまる」を選択した児童生徒は32.6%、「3 あてはまる」を選択した児童生徒は18.5%でした。
- これらの結果から、学年が上がるにつれて、「3 あてはまる」を選択する児童生徒の割合が増加し、「1 あてはまらない」を選択する児童生徒の割合が若干減少する傾向が見られます。また、「2 まああてはまる」を選択する児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて若干減少しています。これは、学年が上がるにつれて頻繁に頭痛や腹痛、気分不良を経験する児童生徒が増える傾向を示しています。

c) 私は、他の子どもたちと、よく分け合う（食べ物・ゲーム・ペンなど）。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	37	 32.5%	19	 20.7%
2 まああてはまる	47	 41.2%	44	 47.8%
3 あてはまる	29	 25.4%	25	 27.2%
無回答	1	0.9%	4	 4.3%
合計	114		92	

- 小学5年生では、「2 まああてはまる」を選択した児童生徒が最も多く、全体の41.2%でした。「1 あてはまらない」を選択した児童生徒は32.5%、「3 あてはまる」を選択した児童生徒は25.4%でした。
- 中学2年生では、「2 まああてはまる」を選択した児童生徒が最も多く、全体の47.8%でした。「3 あてはまる」を選択した児童生徒は27.2%、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒は20.7%でした。
- これらの結果から、学年が上がるにつれて、「2 まああてはまる」を選択する児童生徒の割合が増加し、「1 あてはまらない」を選択する児童生徒の割合が減少する傾向が見られます。また、「3 あてはまる」を選択する児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて若干増加しています。これは、学年が上がるにつれて他の子供たちと物を分け合う傾向が強まることを示しています。

d) 私は、たいてい一人である。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	85	74.6%	69	75.0%
2 まああてはまる	18	15.8%	15	16.3%
3 あてはまる	9	7.9%	5	5.4%
無回答	2	1.8%	3	3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生では、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒が最も多く、全体の74.6%でした。「2 まああてはまる」を選択した児童生徒は15.8%、「3 あてはまる」を選択した児童生徒は7.9%でした。
- 中学2年生では、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒が最も多く、全体の75.0%でした。「2 まああてはまる」を選択した児童生徒は16.3%、「3 あてはまる」を選択した児童生徒は5.4%でした。
- これらの結果から、学年が上がるにつれて、「2 まああてはまる」および「3 あてはまる」を選択する児童生徒の割合が若干減少する傾向があります。これは、学年が上がるにつれて、一人で過ごす傾向が若干減少することを示しています。しかしながら、どちらの学年でも大多数の児童生徒が「1 あてはまらない」を選択しており、多くの児童生徒が一人で過ごすよりも他人と交流することを好む傾向があることが読み取れます。

e) 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	66	57.9%	41	44.6%
2 まああてはまる	34	29.8%	27	29.3%
3 あてはまる	12	10.5%	18	19.6%
無回答	2	1.8%	6	6.5%
合計	114		92	

- 小学5年生では、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒が最も多く、全体の57.9%でした。「2 まああてはまる」を選択した児童生徒は29.8%、「3 あてはまる」を選択した児童生徒は10.5%でした。
- 中学2年生では、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒が44.6%と小学5年生より減少しました。「2 まああてはまる」を選択した児童生徒は29.3%、「3 あてはまる」を選択した児童生徒は19.6%と増加しました。
- これらの結果から、学年が上がるにつれて、「2 まああてはまる」および「3 あてはまる」を選択する児童生徒の割合が増加する傾向があります。これは、学年が上がるにつれて、心配事が増えて不安を感じる児童生徒が増えることを示しています。特に「3 あてはまる」の選択率は中学2年生で約倍増しており、中学生になると小学生に比べて不安を感じやすい傾向が見られます。

【こども調査（小学5年生・中学2年生）】

f) 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	15	13.2%	8	8.7%
2 まああてはまる	56	49.1%	57	62.0%
3 あてはまる	42	36.8%	24	26.1%
無回答	1	0.9%	3	3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生では、「2 まああてはまる」を選択した児童生徒が最も多く、全体の49.1%でした。「3 あてはまる」を選択した児童生徒は36.8%、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒は13.2%でした。
- 中学2年生では、「2 まああてはまる」を選択した児童生徒が62.0%と小学5年生より増加しました。「3 あてはまる」を選択した児童生徒は26.1%と減少し、「1 あてはまらない」を選択した児童生徒は8.7%でした。
- これらの結果から、学年が上がるにつれて、「2 まああてはまる」を選択する児童生徒の割合が増加し、「3 あてはまる」を選択する児童生徒の割合が減少する傾向があります。これは、年齢が上がるにつれて、助ける行動をすすんで行うという意識はあるものの、具体的な行動に移すまでの意識は若干低下する可能性があることを示しています。

g) 私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	7	6.1%	4	4.3%
2 まああてはまる	12	10.5%	9	9.8%
3 あてはまる	94	82.5%	76	82.6%
無回答	1	0.9%	3	3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「3 あてはまる」が最も多く、82.5%（94人）。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は10.5%（12人）、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒は6.1%（7人）でした。無回答は0.9%（1人）でした。
- 中学2年生の回答では、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒が最も多く、82.6%（76人）。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は9.8%（9人）、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒は4.3%（4人）でした。無回答は3.3%（3人）でした。
- これらの結果から、大多数の児童生徒が少なくとも一人は仲の良い友だちがいて感じていることがわかります。これは、児童生徒たちが社会的なつながりを持ち、友人との関係を維持していることを示しています。しかし、一部の児童生徒は友だちが少ないと感じている可能性があります。

h) 私は、落ち込んでしずんでいたたり、涙ぐんだりすることがよくある。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	59	51.8%	50	54.3%
2 まああてはまる	37	32.5%	22	23.9%
3 あてはまる	15	13.2%	17	18.5%
無回答	3	2.6%	3	3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「1 あてはまらない」が最も多く、51.8% (59人)。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は32.5% (37人)、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は13.2% (15人)でした。無回答は2.6% (3人)でした。
- 中学2年生の回答では、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒が最も多く、54.3% (50人)。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は23.9% (22人)、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は18.5% (17人)でした。無回答は3.3% (3人)でした。
- これらの結果から、多くの児童生徒が頻繁に落ち込んだり涙ぐんだりすることはないと感じていることがわかります。しかし、一方で一部の児童生徒はこれらの感情を頻繁に経験していることがわかります。

i) 私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	23	20.2%	18	19.6%
2 まああてはまる	65	57.0%	56	60.9%
3 あてはまる	24	21.1%	14	15.2%
無回答	2	1.8%	4	4.3%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「2 まああてはまる」が最も多く、57.0% (65人)。「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は21.1% (24人)、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒は20.2% (23人)でした。無回答は1.8% (2人)でした。
- 中学2年生の回答では、「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒が最も多く、60.9% (56人)。「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒は19.6% (18人)、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は15.2% (14人)でした。無回答は4.3% (4人)でした。
- これらの結果から、多くの児童生徒は自分が同年代の子供たちから一般的に好かれていると感じていることがわかります。しかし、一部の児童生徒は自分があまり好かれていないと感じている可能性があり、これは自己評価や自尊心、社会的な結びつきに影響を及ぼす可能性があります。

j) 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	37	 32.5%	19	 20.7%
2 まああてはまる	50	 43.9%	39	 42.4%
3 あてはまる	25	 21.9%	31	 33.7%
無回答	2	1.8%	3	 3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「2 まああてはまる」が最も多く、43.9%（50人）。「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は21.9%（25人）、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒は32.5%（37人）でした。無回答は1.8%（2人）でした。
- 中学2年生の回答では、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒が最も多く、33.7%（31人）。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は42.4%（39人）、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒は20.7%（19人）でした。無回答は3.3%（3人）でした。
- これらの結果から、中学2年生の方が新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい傾向があることがわかります。一方、小学5年生のうちの一部も同様の傾向が見られますが、比較的自信を保つことができている児童生徒もいます。この結果は、年齢や成長に伴う挑戦とストレスの増加が、児童生徒の自信や不安感に影響を及ぼしている可能性を示唆しています。

k) 私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	8	7.0%	4	4.3%
2 まああてはまる	50	43.9%	49	53.3%
3 あてはまる	55	48.2%	36	39.1%
無回答	1	0.9%	3	3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「3 あてはまる」が最も多く、48.2% (55人)。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は43.9% (50人)、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒は7.0% (8人)でした。無回答は0.9% (1人)でした。
- 中学2年生の回答では、「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒が最も多く、53.3% (49人)。「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は39.1% (36人)、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒は4.3% (4人)でした。無回答は3.3% (3人)でした。
- これらの結果から、年下の子どもたちに対してやさしく振る舞う傾向があることがわかります。特に、小学5年生のほうがより「あてはまる」と感じている傾向があります。これは、同じ学校やコミュニティ内で接する機会が多いためかもしれません。一方、中学2年生も高い割合で「まああてはまる」と答えており、彼らもまた年下の子どもたちに対して優しく接していることが示唆されます。

l) 私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	90	78.9%	73	79.3%
2 まああてはまる	18	15.8%	10	10.9%
3 あてはまる	4	3.5%	6	6.5%
無回答	2	1.8%	3	3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「1 あてはまらない」が最も多く、78.9% (90人)。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は15.8% (18人)、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は3.5% (4人)でした。無回答は1.8% (2人)でした。
- 中学2年生の回答では、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒が最も多く、79.3% (73人)。「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は6.5% (6人)、「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は10.9% (10人)でした。無回答は3.3% (3人)でした。
- これらの結果から、大多数の児童生徒が他の子供からいじめられたりからかわれたりすることはないと感じていることがわかります。ただし、中学2年生の中には少なからず「あてはまる」と感じている児童生徒もいるため、いじめやからかいの問題が完全にはないわけではない可能性があります。

m) 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・子どもたちなど）。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	24	21.1%	25	27.2%
2 まああてはまる	74	64.9%	52	56.5%
3 あてはまる	15	13.2%	12	13.0%
無回答	1	0.9%	3	3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「2 まああてはまる」が最も多く、64.9%（74人）。「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒は21.1%（24人）、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は13.2%（15人）でした。無回答は0.9%（1人）でした。
- 一方、中学2年生の回答では、「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒が最も多く、56.5%（52人）。「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒は27.2%（25人）、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は13.0%（12人）でした。無回答は3.3%（3人）でした。
- これらの結果から、大多数の児童生徒が自分から進んでお手伝いをするのが「まああてはまる」と感じていることがわかります。ただし、中学2年生の方が「あてはまらない」と感じている児童生徒の割合がやや高くなっています。

n) 私は、他の子どもたちより、大人という方がうまくいく。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	59	51.8%	58	63.0%
2 まああてはまる	44	38.6%	19	20.7%
3 あてはまる	8	7.0%	11	12.0%
無回答	3	2.6%	4	4.3%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「1 あてはまらない」が最も多く、51.8%（59人）。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は38.6%（44人）、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は7.0%（8人）でした。無回答は2.6%（3人）でした。
- 中学2年生の回答では、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒が最も多く、63.0%（58人）。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は20.7%（19人）、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は12.0%（11人）でした。無回答は4.3%（4人）でした。
- これらの結果から、大多数の児童生徒が他の子供たちよりも大人という方がうまくいくとは感じていないことがわかります。特に中学2年生の方が「あてはまらない」と感じている児童生徒の割合が高くなっています。これは、年齢とともに友人間のコミュニケーションが増え、大人とのやり取りよりも同年代とのやり取りに価値を見いだす傾向があるからかもしれません。

o) 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 あてはまらない	52	 45.6%	48	 52.2%
2 まああてはまる	44	 38.6%	22	 23.9%
3 あてはまる	15	 13.2%	19	 20.7%
無回答	3	 2.6%	3	 3.3%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「1 あてはまらない」が最も多く、45.6%（52人）。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は38.6%（44人）、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は13.2%（15人）でした。無回答は2.6%（3人）でした。
- 中学2年生の回答では、「1 あてはまらない」を選んだ児童生徒が最も多く、52.2%（48人）。「2 まああてはまる」を選んだ児童生徒は23.9%（22人）、「3 あてはまる」を選んだ児童生徒は20.7%（19人）でした。無回答は3.3%（3人）でした。
- これらの結果から、大多数の児童生徒が「こわがりで、すぐにおびえたりする」とは感じていないことがわかります。しかし、「2 まああてはまる」や「3 あてはまる」を選んだ児童生徒も一定数存在し、子供たちの中には不安感や恐怖感を感じやすい傾向があることが示唆されます。また、中学2年生になると「あてはまる」を選ぶ割合が少し増えており、思春期の不安やストレスが影響している可能性も考えられます。

14 あなたは今までに、以下の1～8のようなことがありましたか。（あてはまるものすべて選択）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある	3	2.6%	0	0.0%
2 一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある	1	0.9%	1	1.1%
3 家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感ずることがある	1	0.9%	1	1.1%
4 必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感ずることがある	1	0.9%	1	1.1%
5 両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある	8	7.0%	8	8.7%
6 一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある	1	0.9%	0	0.0%
7 一緒に住んでいる人にお酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまをした人がいる	0	0.0%	0	0.0%
8 一緒に住んでいる人にお酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまをした人がいる	2	1.8%	0	0.0%
合計	17		11	

- 小学5年生の回答では、「5 両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある」が最も多く、7.0%（8人）がこの状況を経験しています。
- 中学2年生の回答でも、「5 両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある」が最も多く、8.7%（8人）がこの状況を経験しています。
- これらの結果から、児童生徒の中で、家庭内でのストレスやトラブルを経験している児童生徒は少数であることがわかります。しかし、「両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある」という状況を経験している児童生徒がいることから、家庭環境の変化に伴う心理的ストレスを感じている可能性も考えられます。

15 あなたは、次の a~d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。（a~d それぞれについて、あてはまるもの1つ選択）

a)（自分や友人の家以外で）平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育所など）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 利用したことがある	29	25.4%	32	34.8%
<利用したことはない>2 あれば利用したいと思う	5	4.4%	15	16.3%
<利用したことはない>3 今後も利用したいと思わない	45	39.5%	12	13.0%
<利用したことはない>4 今後利用したいかどうか分からない	31	27.2%	31	33.7%
無回答	4	3.5%	2	2.2%
合計	114		92	

- 小学5年生の回答では、「1 利用したことがある」が最も多く、25.4%（29人）。「<利用したことはない>3 今後も利用したいと思わない」が次に多く、39.5%（45人）。また、「<利用したことはない>4 今後利用したいかどうか分からない」は27.2%（31人）、「<利用したことはない>2 あれば利用したいと思う」は4.4%（5人）でした。無回答は3.5%（4人）でした。
- 中学2年生の回答でも、「1 利用したことがある」が最も多く、34.8%（32人）。「<利用したことはない>4 今後利用したいかどうか分からない」が33.7%（31人）、「<利用したことはない>2 あれば利用したいと思う」が16.3%（15人）、「<利用したことはない>3 今後も利用したいと思わない」が13.0%（12人）でした。無回答は2.2%（2人）でした。
- これらの結果から、学童保育所などの施設を利用した経験がある児童生徒が一定数いる一方で、特に小学生の間では利用経験がなく今後も利用したいと思わない児童生徒が多いことがわかります。しかし、中学生の間では利用経験がなくても今後利用したいと思う児童生徒が増えています。

## b)（自分や友人の家以外で）夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 利用したことがある	3	2.6%	6	6.5%
<利用したことはない>2 あれば利用したいと思う	24	21.1%	26	28.3%
<利用したことはない>3 今後も利用したいと思わない	39	34.2%	19	20.7%
<利用したことはない>4 今後利用したいかどうか分からない	44	38.6%	39	42.4%
無回答	4	3.5%	2	2.2%
合計	114		92	

- 子供食堂などの無料または安価な夕食を提供する場所の利用経験は少ないことがわかります。
- 具体的には、小学5年生の2.6%と中学2年生の6.5%が利用したことがあると回答しました。
- 小学5年生の21.1%と中学2年生の28.3%が利用したことはないが、あれば利用したいと思うと答えています。これは、このような施設に対する需要が存在することを示しています。
- しかし、利用したことはない児童生徒の中には、小学5年生の34.2%と中学2年生の20.7%が今後も利用したいとは思わないと回答しました。また、小学5年生の38.6%と中学2年生の42.4%は今後利用したいかどうか分からないと答えています。
- これらの結果から、子供食堂などの施設に対する意識や需要は、学年や個々の生活環境により大きく異なる可能性があると考えられます。

## c) 勉強を無料でみてる場所

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 利用したことがある	11	9.6%	4	4.3%
<利用したことはない>2 あれば利用したいと思う	16	14.0%	31	33.7%
<利用したことはない>3 今後も利用したいと思わない	36	31.6%	18	19.6%
<利用したことはない>4 今後利用したいかどうか分からない	46	40.4%	36	39.1%
無回答	5	4.4%	3	3.3%
合計	114		92	

- 無料で勉強を見てくれる場所の利用経験は、小学5年生の9.6%と中学2年生の4.3%と比較的低いことが分かります。
- それにもかかわらず、利用したことがない子供たちの中には、小学5年生の14.0%と中学2年生の33.7%があれば利用したいと思うと回答しています。これは、学習支援の場所に対する需要があることを示しています。
- しかし、利用したことはない子供たちの中には、小学5年生の31.6%と中学2年生の19.6%が今後も利用したいとは思わないと答えています。また、小学5年生の40.4%と中学2年生の39.1%は今後利用したいかどうか分からないと答えています。
- これらの結果から、無料で勉強を見てくれる場所に対する意識や需要は、学年や個々の学習状況により異なる可能性があることがわかります。また、中学生の方が小学生よりも利用の意向が高いことも明らかになりました。

## d)（家や学校以外で）何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む。）

選択肢	小学5年生(n=114)		中学2年生(n=92)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 利用したことがある	2	1.8%	9	9.8%
<利用したことはない>2 あれば利用したいと思う	7	6.1%	15	16.3%
<利用したことはない>3 今後も利用したいと思わない	47	41.2%	23	25.0%
<利用したことはない>4 今後利用したいかどうか分からない	52	45.6%	43	46.7%
無回答	6	5.3%	2	2.2%
合計	114		92	

- この調査結果から、家や学校以外で何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む）の利用経験は、小学5年生で1.8%、中学2年生で9.8%と、全体的には低いことが分かります。
- それにもかかわらず、利用したことがない子供たちの中には、小学5年生の6.1%と中学2年生の16.3%があれば利用したいと思うと回答しています。これは、何でも相談できる場所への需要があることを示しています。
- 一方で、利用したことはない子供たちの中には、小学5年生の41.2%と中学2年生の25.0%が今後も利用したいとは思わないと答えています。また、小学5年生の45.6%と中学2年生の46.7%は今後利用したいかどうか分からないと答えています。
- これらの結果から、何でも相談できる場所に対する意識や需要は、学年や個々の状況により異なる可能性があることがわかります。また、中学生の方が小学生よりも利用の意向が高いことも明らかになりました。

16 前の質問で、1つでも「1 利用したことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。（1～8については、あてはまるものすべて選択）

選択肢	小学5年生(n=2)		中学2年生(n=9)	
	回答数	選択率	回答数	選択率
1 友だちが増えた	2	100.0%	6	66.7%
2 気軽に話せる大人が増えた	0	0.0%	2	22.2%
3 生活の中で楽しみなことが増えた	2	100.0%	4	44.4%
4 ほっとできる時間が増えた	2	100.0%	4	44.4%
5 栄養のある食事をとれることが増えた	0	0.0%	1	11.1%
6 勉強がわかるようになった	1	50.0%	2	22.2%
7 勉強する時間が増えた	0	0.0%	2	22.2%
8 その他	0	0.0%	0	0.0%
9 特に変化はない	0	0.0%	1	11.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	7		22	

- この調査結果から、家や学校以外で何でも相談できる場所を利用した結果として、小学5年生と中学2年生の間でいくつかの変化が見られます。
- 小学5年生の全員が「友だちが増えた」、「生活の中で楽しみなことが増えた」、「ほっとできる時間が増えた」と回答しました。また、半数の児童生徒が「勉強がわかるようになった」と感じています。一方、彼らの中には「気軽に話せる大人が増えた」、「栄養のある食事をとれることが増えた」、「勉強する時間が増えた」、「その他」の変化を感じた児童生徒はいませんでした。
- 中学2年生の中では、「友だちが増えた」を感じた児童生徒が最も多く、66.7%でした。その次に多かったのが「生活の中で楽しみなことが増えた」、「ほっとできる時間が増えた」で、それぞれ44.4%の児童生徒がこれらの変化を感じています。また、「気軽に話せる大人が増えた」、「勉強がわかるようになった」、「勉強する時間が増えた」を感じた児童生徒はそれぞれ22.2%でした。そして、「栄養のある食事をとれることが増えた」を感じた児童生徒は11.1%で、特に変化はないと感じた児童生徒も同じく11.1%でした。
- この結果から、多くの児童生徒が友人関係や生活満足度、学業理解度などの面でポジティブな変化を感じていることがわかります。

